

326
189



始



326-189

兵庫縣知事正三位勳一等服部一三閣下題字

明石町下水道略誌

明石町編

全
 大正
 5. 12. 2
 内交

能成水
上切

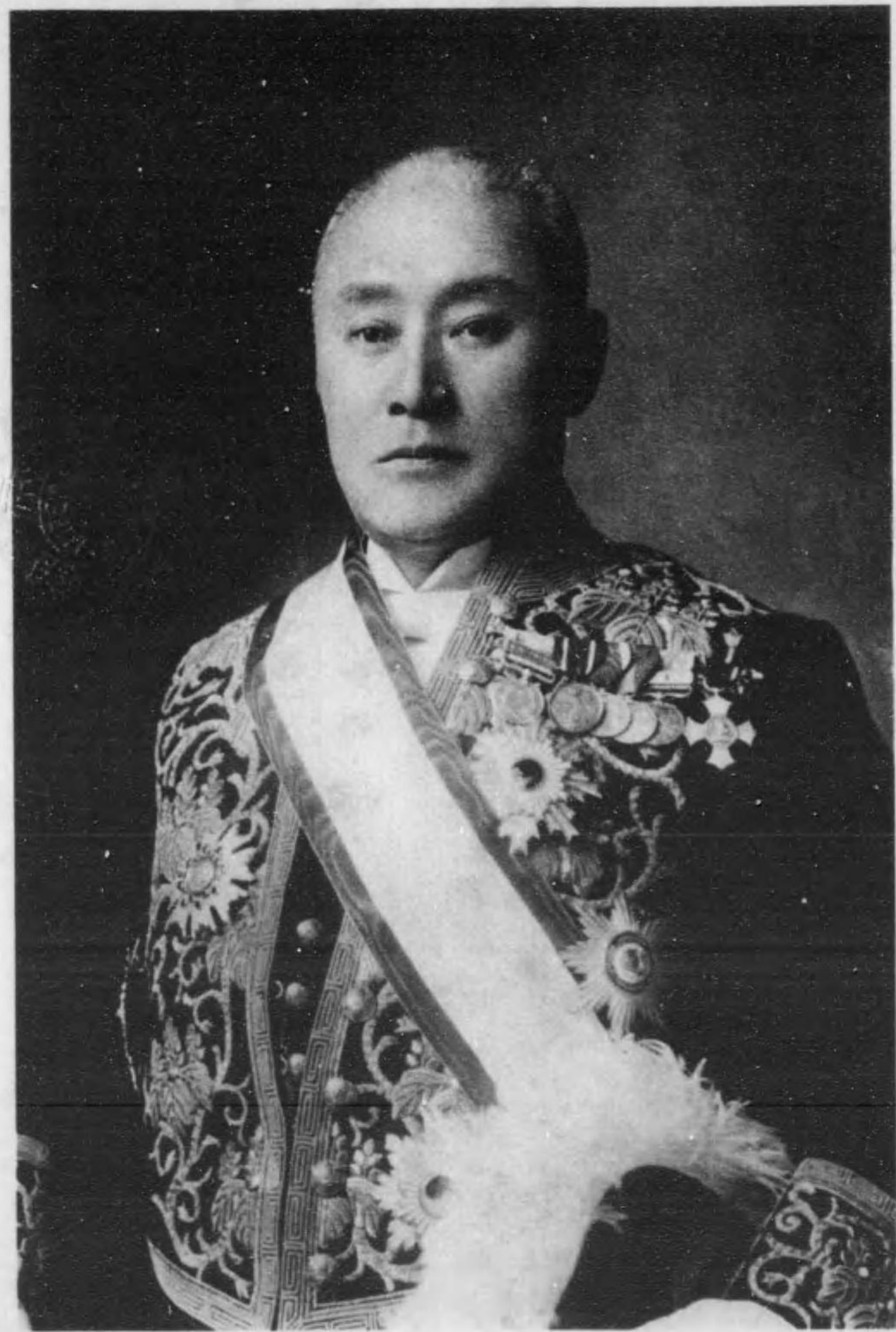
印

一三五

印

印





服部知事閣下



三 輪 郡 長



佐 藤 願 問



杉山助役



故郷長町



荒尾町長



西光技師長



故郷白旗入役



古谷 議員



三崎 議員



吉野 議員



伊藤 議員



中西 議員



員議川谷長



員議西葛



員議柳右



員議木野佐



員議木鈴





員 議 柳



員 議 島 中



員 議 澤 丘



員 議 内 池



員 議 順 田 吉





加古 員議



成定 員議



三宅 員議



後 員議



柏木 員議



員 議 本 杉



員 議 岡 藤



員 議 田 山



員 議 田 前



員 議 本 石



員 議 川 小



員委本松



員委西中



員委川谷長



員委松赤



員委上井



員委士富



員委林



員委野吉



員委中



員委藤内



員委木八



員委田福



員委野淺



員委田高



員委山青



員委林本



手 披 木 青



手 披 枝 金



手 披 山 小



師 披 澤 古



手 披 田 山



手 披 塚 八



手 披 部 服



記書井石



記書田八



記書口坂



記書茂木

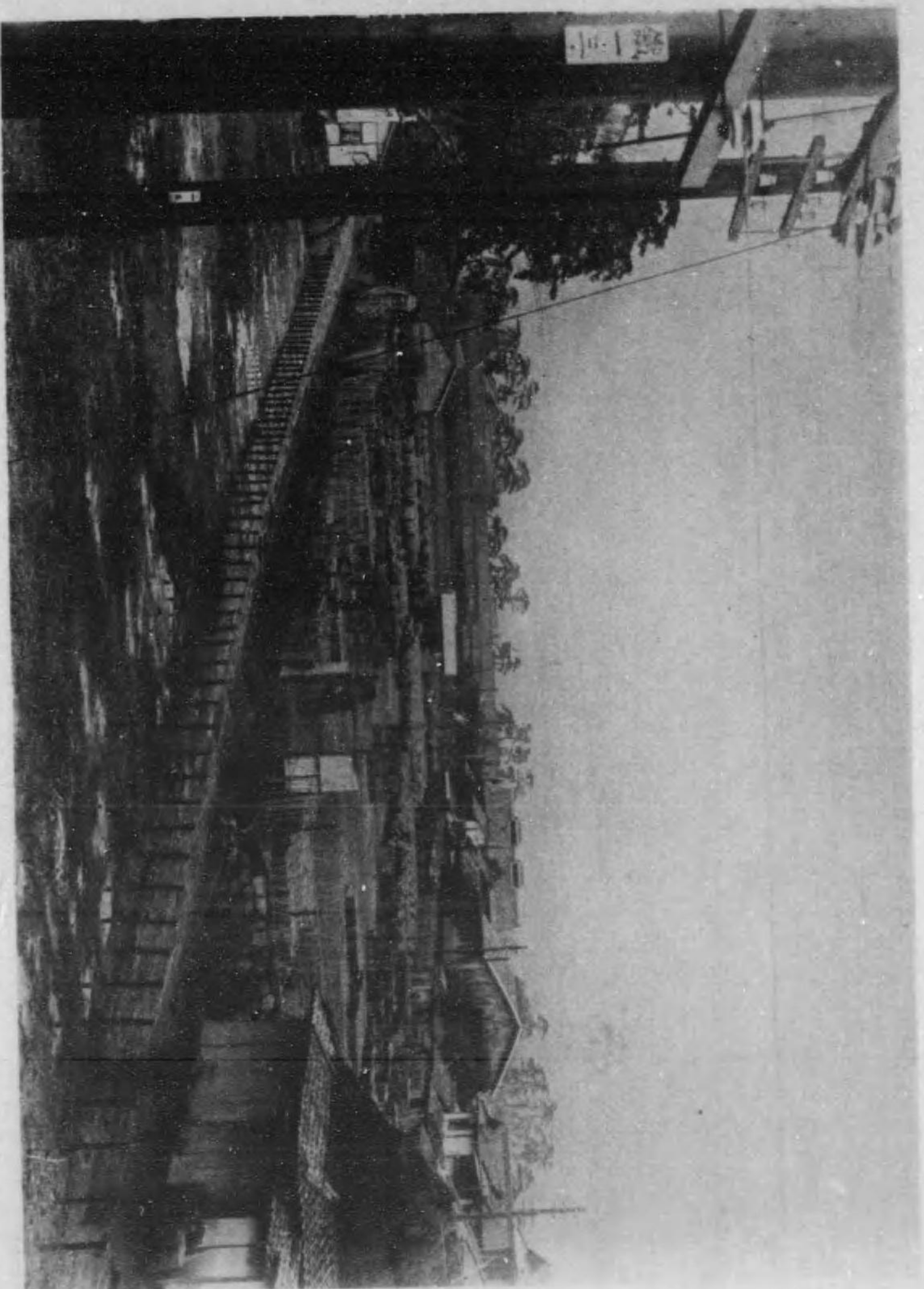


記書谷鎌



記書崎石



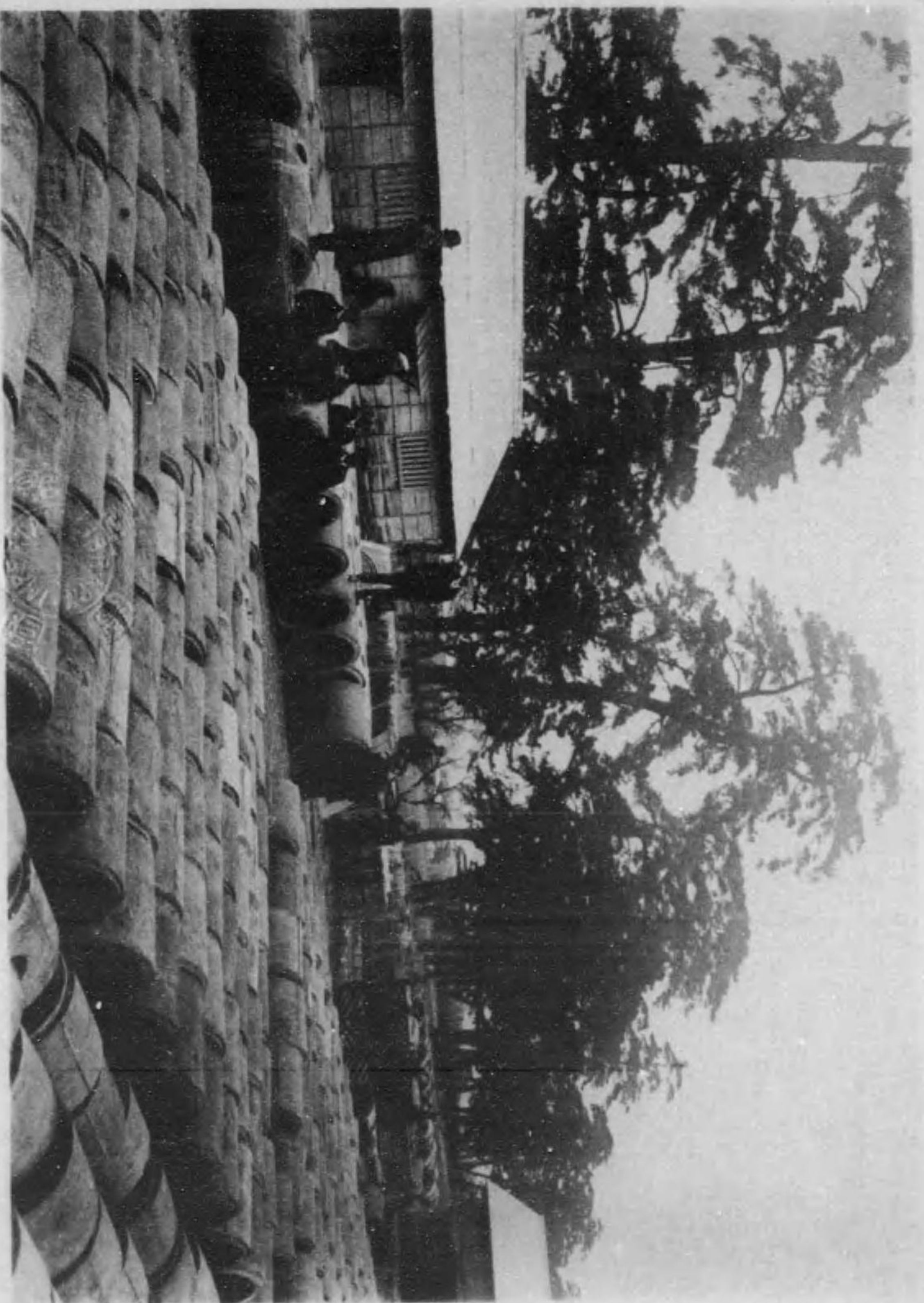


景全之場工トロー



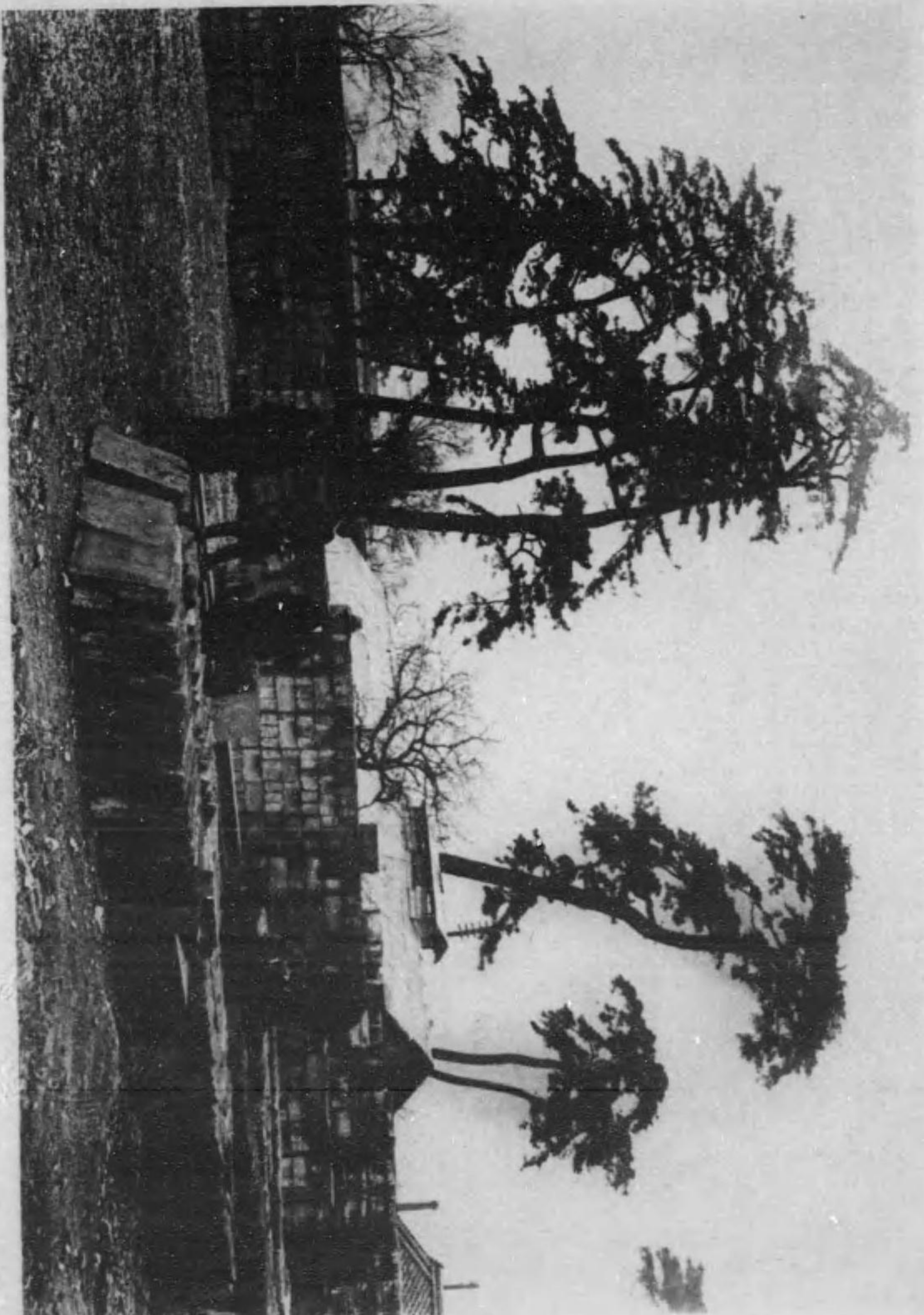
・ 部一之内場工トーリクツキ





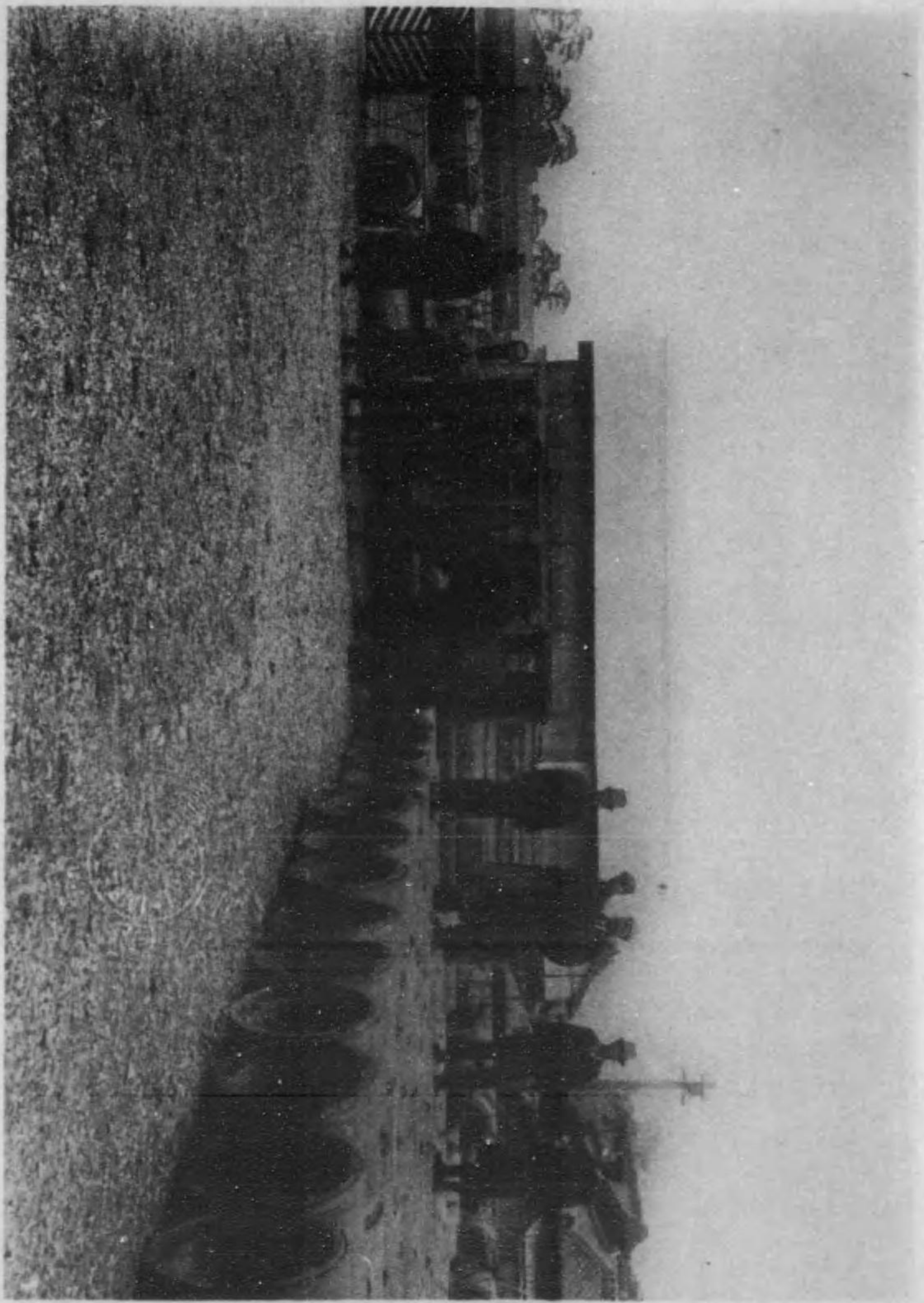
部一之内場工ハーリグレン





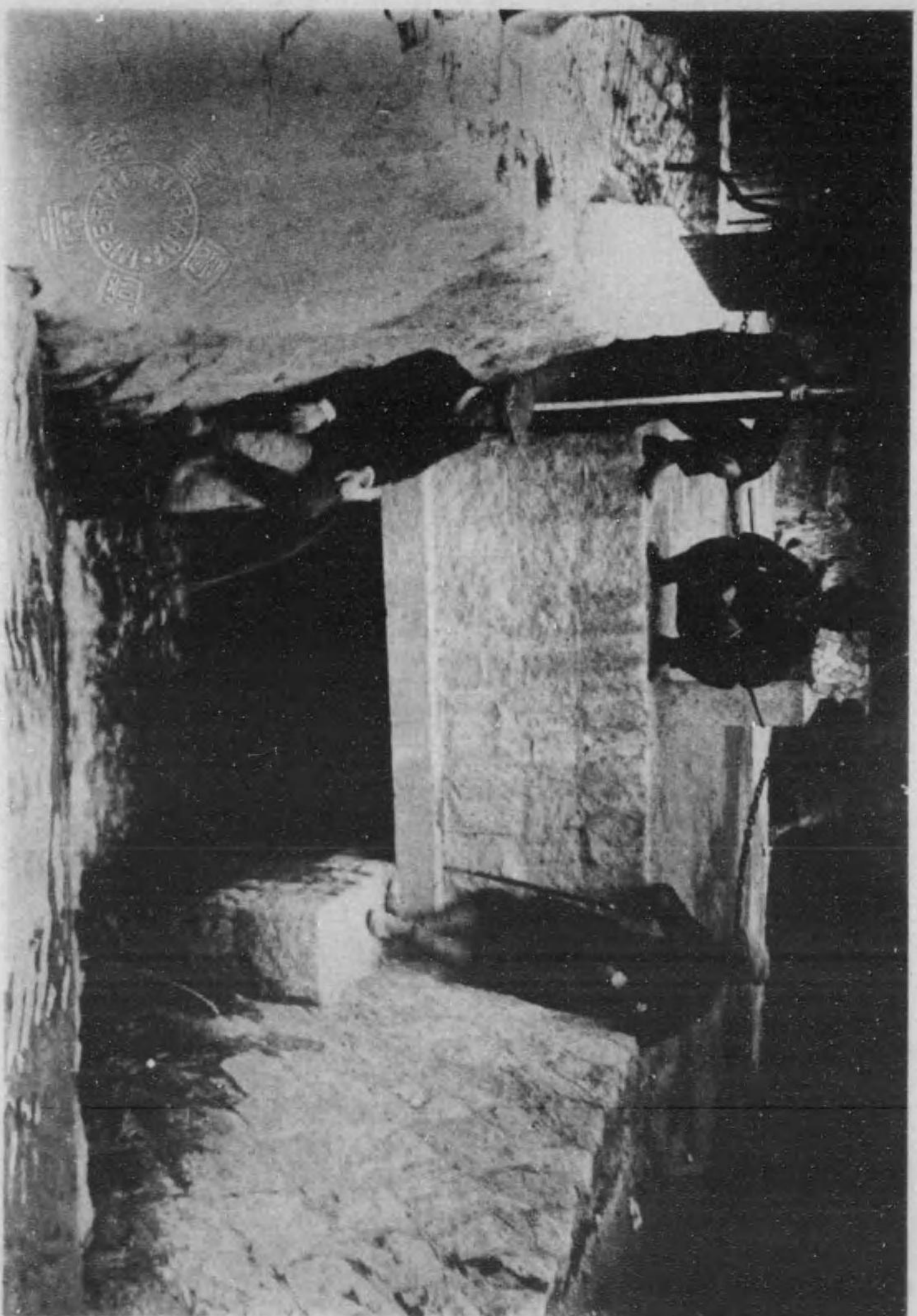
部一之内場工ターリクソ



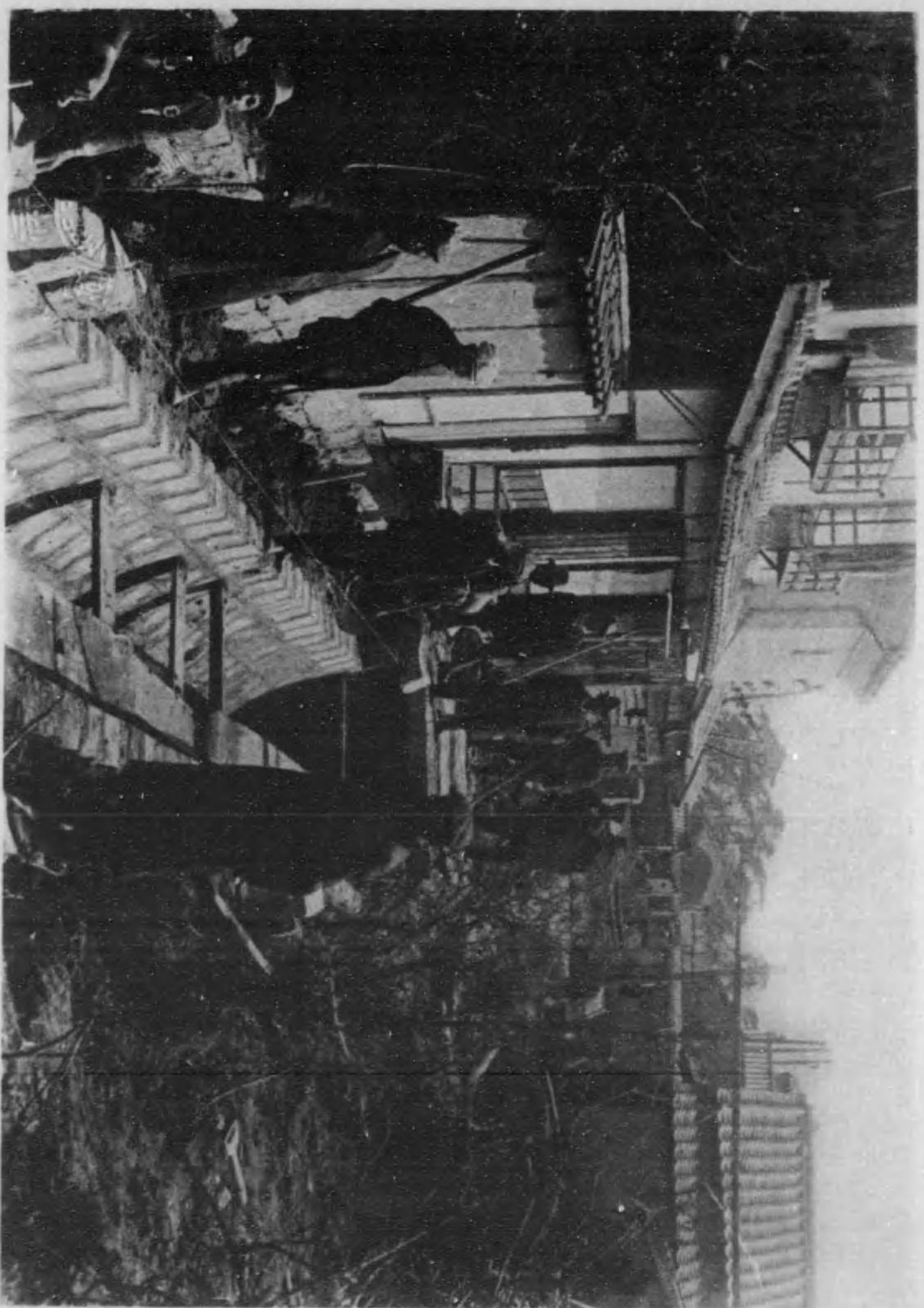


部一之内場工トーリクシコ





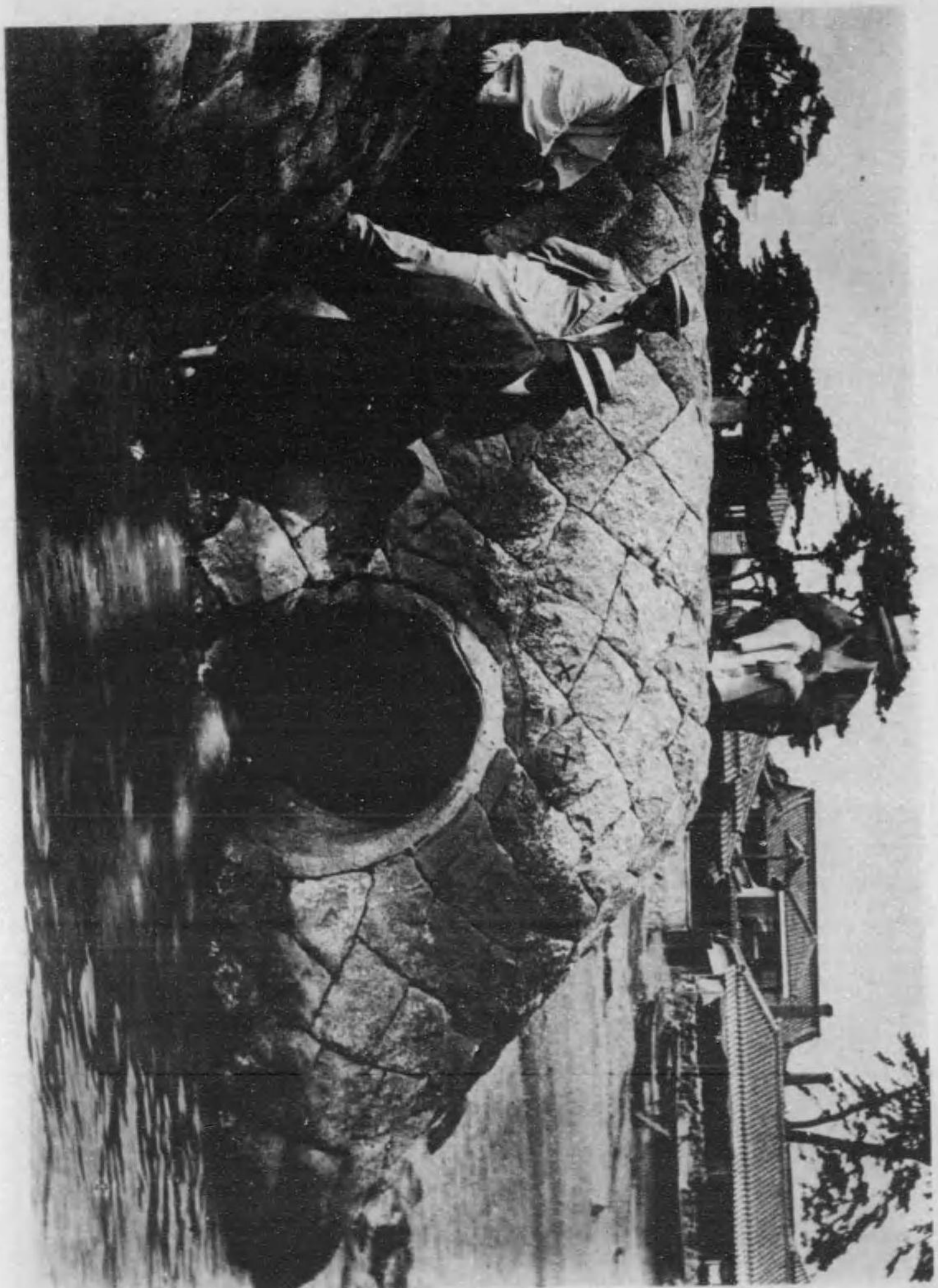
在渠五尺卯形渠之口人引



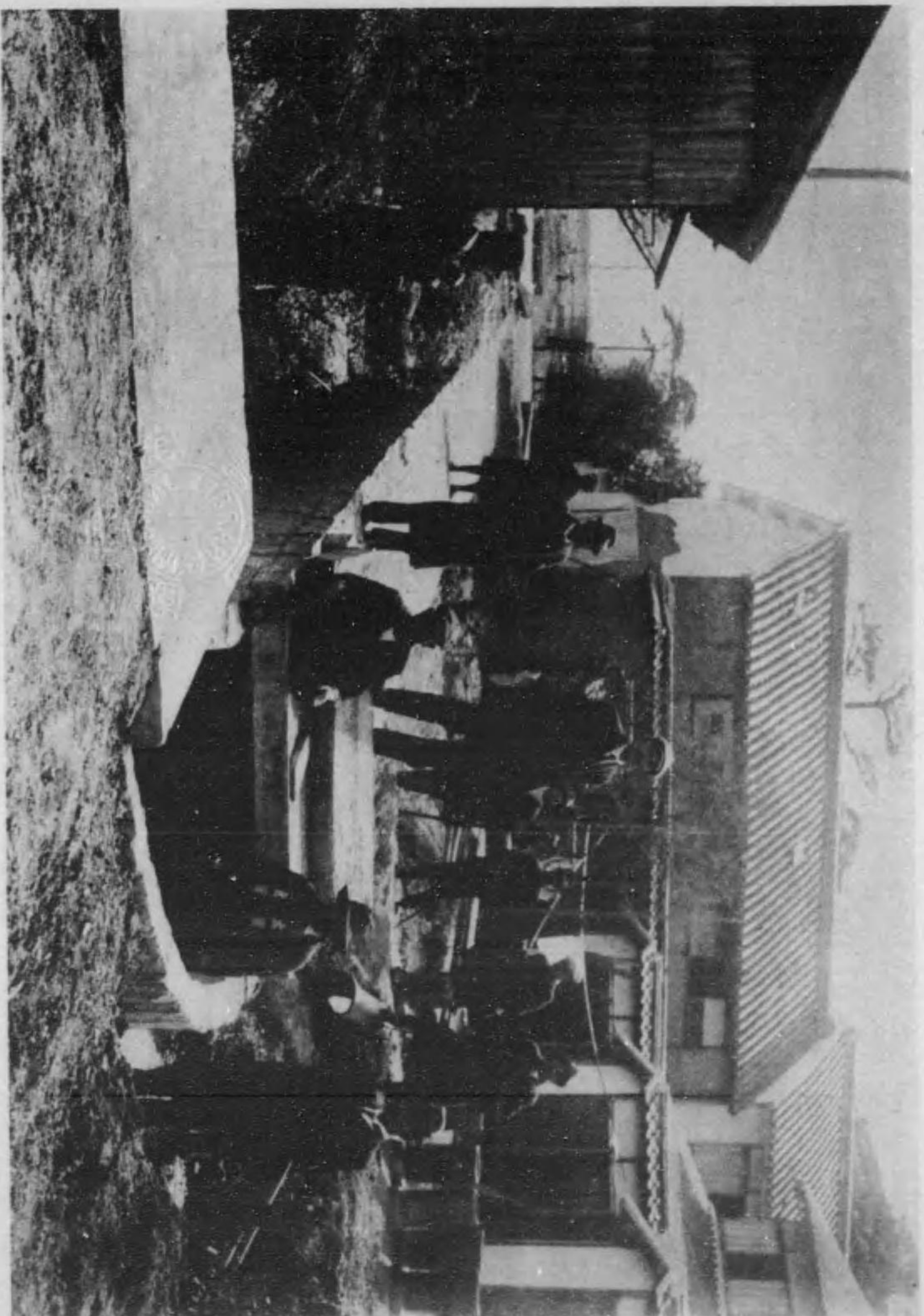
場現之造築菜形卵尺五徑內



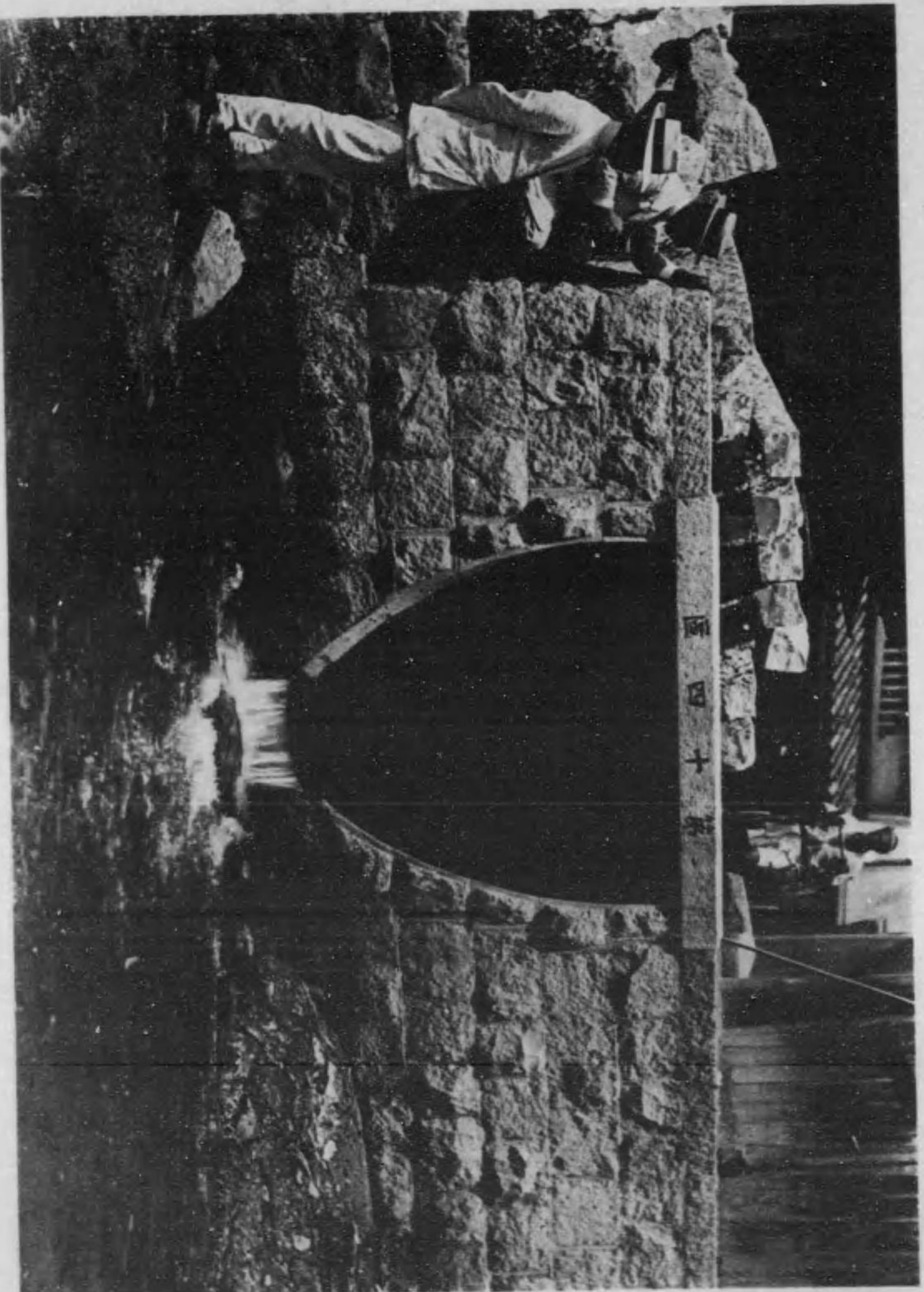
場現之設埋管トーリクゾ筋鐵尺參徑内



口 水 排 之 管 三 徑 尺 三 寸 筋 鉄 三 寸 內



場現之造築葉形卵尺四徑內



口 水 排 之 渠 形 卵 尺 五 徑 內

明石町下水道略誌目次

第一章 歴史

- (一) 企畫ノ起源……………一
- (二) 事業ノ調査……………二
- (三) 事業ノ申請及認可……………二
- (四) 事業ノ實施……………三
- (五) 事業ノ着手及成功……………三

第二章 計畫

- (一) 下水道改良ノ必要……………八
- (二) 汚水排除ノ方法……………一〇
- (三) 下水量及雨水量ノ決定……………二三

(イ)	現在ノ戸數人口及將來増殖ノ割合	二二
(ロ)	十ヶ年間戸口増減	二二
(ハ)	大字別人口	二四
(ニ)	下水量ノ決定	二九
(ホ)	雨水量ノ決定	三〇
(イ)	汚水管渠	三七
(ロ)	人孔	三七
(ハ)	燈孔	三八
(ニ)	各戸下水ノ排除方法	三九
(ホ)	街渠及雨水取入口ノ構造	三九
(ヘ)	下水道吐口ノ構造	四〇
(五)	仕	
(イ)	一般	四一

第三章 施行機關

(ロ)	築造工事仕様	四二
(ハ)	下水管布設仕様	四四
(ニ)	人孔築造仕様	五一
(ホ)	燈孔築造仕様	五五
(ヘ)	街渠築造仕様	五六
(ト)	雨水取入樹築設仕様	五八
(チ)	吐口築造仕様	五九
(リ)	引入口築造仕様	六〇
(ヌ)	雜	六一
(ル)	鉄筋混凝土管製作仕様	六一
(ヲ)	混凝土塊及鉄筋混凝土蓋製作仕様	六五
(一)	事務所設置	六八
(二)	諮問委員	六八

(三)	吏員定員	六九
(四)	吏員俸給額并支給方法	七〇
(五)	吏員旅費額并支給方法	七〇
(六)	吏員月手當金支給規程	七一
(七)	顧問報酬	七二
(八)	賞與并手當支給規程	七二
(九)	雇人死傷手當規程	七三
(十)	工事受負又ハ物件購買貸借處辦法	七五
(十一)	工事受負規則	七六
(十二)	下水道管理規則	七八
(十三)	下水道築造吏員及傭人慰勞金給與規程	九〇
(十四)	組織及處務規程	九〇
(十五)	事務細則	九三

(六)	雇人勤務時間并日給支給內規	九七
(七)	職工人夫使用手續	九九
(八)	材料購入契約書按	一〇一
(九)	關係者氏名	一〇四

第四章 工事施工方法及材料購入方法

(一)	工事施工方法	一一三
(二)	材料購買方法	一一四

第五章 財政

(一)	起債ヲ要スル理由	一一五
(二)	財政ノ現狀	一一七
(三)	將來ノ計畫	一一八
(四)	收支豫算	一一九

(五) 收支精算 一二〇

(イ) 下水道費總精算 一二〇

(ロ) 借入金償還年次 一二四

(ハ) 純工事費工區別精算 一三四

第六章 工事出來形及雜件

(一) 工事出來形 一三六

(二) 混凝土出來形精算 一三七

(三) 購入主要材料 一三八

(四) 工事成功上生シタル不用地 一四二

明石町下水道略誌

第一章 歴史

(一) 企畫ノ起源

我明石町ハ面積東西四拾丁南北貳拾丁戸數五千七百八十八戸人口貳萬六千五百參拾五人(明治四十二年末)

ナ有シ尙ホ前途發達ノ勢ヲ示セリ而シテ本町ノ地形ハ稍ヤ平坦ニシテ勾配ニ乏シキニ公共惡水溝設備ノアルモノ殆ント稀ナリ故ニ惡水停滯シテ常ニ不潔ヲ極メタリ爲メニ傳染流行病ノ襲來ヲ受ケ又ハ洪水ニ際シ浸水ヲ被ムルコト頻々ナリシ此時ニ方リ宮内省ニ於テハ明治三十二年六月明石町衛生ニ關スル費用ノ補助トシテ金參百圓ヲ下賜セラレタリ茲ニ於テ下水溝改善ヲ計ルハ宮内省恩賜ニ副フヘキノミナラス公衆衛生上亦最大急務ナルヲ認メ爾來下賜金ハ本町基金ニ編入シテ蓄積ヲ計リ下水溝改良ノ考按ヲ重ネツツアリシカ明治四十二年度本町豫算會議ニ於テ始メテ之レカ調査費ヲ議決シ愈々改良ニ着手スルニ至レリ其宮内省下賜金御沙汰書左ノ如シ

事業ノ調査、事業ノ申請及認可

兵 庫 縣

本月八日強雨ノ爲メ其縣下明石町浸水ノ趣ニ付特別ヲ以テ目下同町衛生ニ關スル費用ノ補助トシテ金參百圓下賜候事

明治三十二年六月二十二日

宮 内 省

(二) 事業ノ調査

明治四十二年三月廿五日日本町豫算會議ニ於テ下水道築造調査費金壹千圓ヲ同四十三年三月廿三日豫算會議ニ於テ金壹千圓支出ヲ滿場一致ヲ以テ議決シ其調査監督ヲ兵庫縣技師佐藤長太郎氏ニ實測ヲ岩淵宗ニ囑託シテ明治四十二年六月之レカ調査ニ着手シ明治四十三年五月全ク調査結了シ築造認可手續ヲ工學士西光正雄ニ委囑シタリ而シテ明治四十四年六月町理事者及町會議員他町市事務視察ノ序ヲ以テ名古屋市及廣島市ニ於ケル下水道工事施行ノ狀況ヲ親シク調査シタル結果愈々其改良ノ必要ヲ確ムルニ至リシナリ

(三) 事業ノ申請及認可

明治四十三年五月十日下水道築造ノ義町會ニ於テ議決シ同年七月九日下水道築造認可ヲ内務大臣ニ低

利資金借入許可ヲ内務大臣ニ申請シタルニ明治四十四年八月十四日築造ヲ認可セシメ尋イテ明治四十四年十月十二日資金借入ノ許可ヲ與ヘラレタリ

(四) 事業ノ實施

明治四十四年十一月廿一日下水道築造事務所ヲ開始シ實施設計ニ着手シ技師長以下技衛員ヲシテ廣島、神戸、大阪、名古屋等各地下水道築造事業ヲ調査セシメ明治四十五年七月之カ設計ノ完結ヲ告ケタリ而シテ大正元年八月十七日、十九日、二十日、二十一日ノ四日間ニ於テ町會議員下水道諮問委員立會ノ下ニ各衛生組合長及衛生委員ノ會同ヲ開キ町長及技師長ヨリ本工事ノ計畫并ニ設計ニ關シ詳細ナル説明ヲナシ尙實地着手ニ際シテハ各工事區毎ニ議員諮問委員衛生組合長同委員等共ニ實地踏査ノ上各戸下水排除取付ニ關シテハ衛生組合ノ援助ヲ請ヒタリ

(五) 事業ノ着手及成功

大正元年十月九日第一回土管購入ノ契約ヲ初トシ同年十二月一日混凝土^管塊製造工事(直管)ニ着手同年十二月十八日第一期ノ布設工事受負契約ヲナシ大正二年一月二十五日郡公會堂ニ於テ起工式ヲ舉行シ同月布設工事ニ着手爾來契約ヲナスコト主要材料(土管并ニセメント)購入ニ於テ三十九回布設工事受負ニ於テ四

事業ノ實施、事業ノ着手及成功

十一回ニシテ豫定ノ工程ヲ終ヘ大正三年十二月十五日工事完成ヲ告ケ同月二十八日築造事務所ヲ閉鎖シタリ

起工式ニ參列シタルハ服部知事代理大島事務官三輪郡長其他縣官町内諸官衛長郡官吏町會議員下水道諮問委員學校長衛生組合長并同委員新聞記者諸會社銀行重役各組合長町吏員戶主會長大字惣代等六百餘名ニシテ祭主ハ縣社伊弉册神社々司藤井一重之ヲ司リ祭官ハ社司井上政連及小松定養ニシテ其順序并ニ町長ノ奏シタル祭文左ノ如シ

起工式順序

二十五日午後一時 (號鐘)

一祭主以下祭官并參列者祭場ニ着ク

此時手水ノ儀アリ

一祭主

板詞ヲ奏ス

一祭官

大麻行事

一祭主

降神詞ヲ奏ス

一祭官

神饌ヲ奏ス

一祭主

祝詞ヲ奏ス

一町長

祭文ヲ奏ス

一祭主

玉串ヲ奉リ拜禮 (此時祭官一同拜禮)

一町長

玉串ヲ奉リ拜禮

一縣官

玉串ヲ奉リ拜禮

一郡長

玉串ヲ奉リ拜禮

一下水道工事技師長

玉串ヲ奉リ拜禮

一下水道町會委員惣代

玉串ヲ奉リ拜禮 (此時委員一同拜禮)

一町會議員惣代

玉串ヲ奉リ拜禮 (此時議員一同拜禮)

一下水道諮問委員惣代

玉串ヲ奉リ拜禮 (此時委員一同拜禮)

一衛生組合長惣代

玉串ヲ奉リ拜禮 (此時組合長一同拜禮)

一戶主會長惣代

玉串ヲ奉リ拜禮 (此時戶主會長一同拜禮)

一大字惣代

玉串ヲ奉リ拜禮 (此時大字惣代一同拜禮)

一一般參列員惣代

玉串ヲ奉リ拜禮 (此時參列員一同拜禮)

一工事受負人

玉串ヲ奉リ拜禮

一祭官

神饌ヲ撤ス

事業ノ着手及成功

事業ノ着手及成功

六

一祭 主

昇神詞ヲ奏ス

右式終了ヲ告ク

宴 會

祭 文

維時大正二年一月廿五日本町下水道築造工事起工地鎮祭ヲ仕ヘ奉ラン爲メ 大國御魂神 填安彦大神 填安姫大神ノ御前ニ明石町長鷺塚貞操謹ミ畏ミ白ス
抑々我明石町ノ公共惡水路ハ其ノ構造粗惡ニシテ常ニ惡水停滯シ夏氣ニ至ラハ臭氣鼻ヲ衝キ其不潔ナルコト實ニ言語ニ絶スルノ有様ナルヲ以テ之レカ改善ヲ企圖スルハ明石町公衆衛生上最モ緊要ノ事タルヲ認メ種々改良ノ方法ヲ講究スルヤ久シ然ルニ去ル明治三十年九月及明治三十二年六月ノ大洪水ニ際シテハ本町ノ過半浸水シ大損害ヲ被ルルノ不幸ヲ見ルニ至リタルカ如キ之レ河水ノ氾濫堤防ノ欠損等ニ基因スト雖モ一ハ亦惡水路ノ疏通宜シカラサリシニヨルヤ明リ此時ニ方リ宮内省ニ於テハ明治三十二年六月二十二日付ヲ以テ明石町衛生ニ關スル費用ノ補助トシテ金參百圓ヲ下賜セラレ同時ニ監督官廳ヨリ幸ヒ此御下賜金ヲ基本トシ町内惡水路ノ改善ヲ企畫シ一ハ以テ濁水ノ漲溢ヲ防キ一ハ以テ公衆衛生ノ實ヲ擧ケ以テ折角下賜ノ御主旨ニ副フヘキヲ達セラル實ニ本町ノ幸福之レニ過キス誠ニ恐懼ニ堪ヘサルナリ爾來下賜金ハ本町ノ基

本金ニ編入シテ蓄積ヲ計リ下水溝改良ノ考案ヲ重マルト雖モ機運ノ至ラサルヲ如何セン漸ク明治四十二年度ニ於ケル本町豫算會議ニ於テ之レカ改善ノ議起リ金壹千圓ノ設計調査費ヲ設クルコトニ議決シ愈々改良ノ曙光ヲ見ルニ至レリ其後明治四十三年度ニ引續キ調査ヲ遂ケ實測及設計完ク成ルヲ告ケ明治四十三年五月十日町會ノ議決ヲ經テ下水道築造認可ヲ内務大臣ニ低利資金借入許可ヲ内務大藏兩大臣ニ申請シタルニ明治四十四年八月十四日付ヲ以テ築造認可セラレ尋テ明治四十四年十月十二日付ヲ以テ資金借入ノ許可ヲ與ヘラル、ニ至レリ而シテ本工事費豫算金ハ拾七萬五千圓ニシテ内低利資金借入金拾參萬圓工事施行ハ本町財政ノ狀況ヲ斟酌シ三ヶ年繼續事業ニシテ明治四十四年十一月廿一日事務所ヲ開始シテ實施設計ニ着手シ明治四十五年七月其設計完結ヲ告クルト同時ニ町代表機關ハ元ヨリ衛生組合ト再三折衝ヲ重ネ諸準備全ク整頓シ今ヤ工事ニ着手セントス則チ本工事ノ成否ハ忽チ本町公衆衛生ノ良否ニ關スルモノニシテ住民ノ保健上一日モ忽諸ニ附スヘカラス茲ニ於テカ工事施行者ハ日夜其過失ノ少カラシコトヲ欲シテ止マス希クハ地鎮ノ大神長ヘニ本工事ニ庇護ヲ與ヘラレ些少ノ蹉跌ナク完結セシメ以テ御下賜金ノ主旨ニ副ヒ併テ益本町ノ福利ヲ増進セシメラレシコトヲ謹ミ畏ミ白ス

事業ノ着手及成功

七

第二章 計 畫

(一) 下水道改良ノ必要

抑々我明石町ハ古來天然ノ風景佳絶ノ地トシテ其名チ各地ニ知ラレ遊覽地トシテハ實ニ全國中稀ニ見ルノ所タリ從テ觀光者ノ來遊多シト雖モ一度足チ此地ニ入ルモノチシテ第一ニ感セシムルハ污水排除方法ノ不完全ナルニアリ爲メニ折角天與ノ風景地モ其價値チ減セシムルコト幾何ナルチ知ラサルナリ從テ公衆ノ衛生ニ及ホス惡影響ハ實ニ甚タシキモノアルチ覺ユ今其現狀チ具體的ニ説明シ以テ當町下水道改良ノ如何ニ必要缺クヘカラサルノ業タルカチ述フルコト次ノ如シ

明石町内污水排除ノ現狀チ見ルニ其極メテ僅少ナル部分ニアリテ地下ニ設ケラレタルモノアリト雖モ概ネ皆露渠ニシテ其中員モ錯雜チ極メ狭キハ一尺内外ヨリ廣キハ六尺乃至九尺以上ニモ達セリ而シテ露渠暗渠ノ別ナク其兩側或ハ粗石積石垣チ以テシタルモノアレトモ其甚シキニ至リテハ堀放ニシテ何物チ以テモ保護スルコトナク殆ト自然ノナルカ儘ニ放任シアルチ以テ其兩側及底部共總テ污水ノ浸入チ防遏スルコト能ハス其勾配モ亦概シテ緩ニシテ加フルニ潮汐ノ干満ニヨリテ污水ノ疏通チ沮滯スルチ以テ污水ノ滲透汚物ノ沈澱甚タシク夏期蒸熱ノ候ニアリテハ爲メニ其臭氣鼻チ衝キ驟雨出水ニ際

シテハ低窪地ノ浸水往々數日ニ涉ルコトアリ公衆衛生ニ有害ナル實ニ甚タシキモノアルチ覺ユ然レトモ此等ハ猶可哀ノ部ニ屬シ所トシテハ污水路ノ設ケナキカ或ハ之レニ導クニ困難チ感スルノ個所ニアリテハ概ネ吸ヒ込ミチ設ケテ地下ニ滲透セシメ或ハ又吸ヒ込ミチモ設ケサルノ個所ハ各戸ノ下水ハ櫃ニ道路ニ向テ流出シ宛然道路ニシテ污水路ト擇フナキノ醜態チ呈スルコトアリ如斯個所ニシテ一朝降雨ニ際會センカ其道路ハ下水、雨水ノ混合污水漲溢シテ通行人ノ脚チ没スルノ状態チ呈スルコトアリ如斯污水排除ノ機關ニシテ具備スルコトナキカ故ニ夏季ニ於テ蚊軍ノ襲來甚タシク其時期四月ヨリ十月ニ及ヒ一ケ年中殆ント六七ヶ月ニ亘ルカ如キ狀況ナリトス

斯クシテ猶全國中有數ノ景勝地トシテ益々町ノ繁榮チ望ム甚タ難キノミナラス又以テ我町民ノ健康チ維持スル所以ノ道ニアラス泰西諸邦衛生ノ事業完備シ既ニ其實効チ目撃シタル都市ニアリテハ市内衛生工事ノ完備ハ公衆ノ健康チ維持スルニ一日モ缺クヘカラサルモノナルノミナラス市ノ資格チ上昇セシメ其繁榮チ増進スル上ニ於テ必要條件タルコトチ確信セリト云フ

故ニ明石町ニアリテハ景勝地トシテ將タ又町民ノ健康チ保持スル上ニ於テ下水道改良ノ必要缺クヘカラサルノ業タルノミナラス町ノ體面チ改メ其發達チ期セムカ爲メ一日モ速カニ之レチ完成セシムルハ實ニ刻下ノ急務ナリトス

(二) 汚水排除ノ方法

本下水道改良工事ノ計畫ヲナスニ當リテハ合流式ヲ採用セリ即チ下水及雨水ハ共ニ之レヲ街路又ハ其他所ノ個所ニ埋設スル下水管ニヨリ適當ノ地点ニ導キテ直ニ之レヲ海中ニ放流セシムルカ又ハ便宜明石港内ニ吐口ヲ設ケテ排除セシムルコト、セリ而シテ此レ等ノ決定ハ凡テ各地ノ狀勢ニ應ジテ計劃シタルモノナレハ以テ少シク當町ノ地勢ヲ叙シ然ル後併テ汚水排除ノ方法ヲ詳説スヘシ

明石町ノ地タル其西部明石川ノ流域ニ沿ヒ自然ニ分レテ明石川以東及以西ノ二部ヲ形成ス共ニ南方一帯ハ明石海峡ノ瀬戸ニ面シ海上遙カニ淡路島ノ翠容ニ相對ス

明石川以東ハ北舊明石城及人丸山ノ高丘タリ而シテ人丸山ノ西北上ノ丸ノ高原ヲ負ヒ其以南海岸ニ至ル間ハ大体ニ於テ平坦ニシテ人家ハ多ク此間ニ介在ス、故ニ人丸山及明石城趾ノ南ヲ貫通スル鐵道線路以南即チ人家稠密ノ街區ヲ以テ本工事ノ主要部分トナス

而シテ市街地ハ海岸線ニ沿ヒ東西ニ狹長ニシテ延長約一里ニ及ヒ東部ヨリ漸次其幅員ヲ廣大シテ明石川畔ニ至リテ極マル而シテ南方海岸線ヲ標準トシ北方ニ進ムニ從ヒ漸次一般ニ上昇シ市街地ノ最低部ト雖モ猶最滿潮面ヲ抜クコト約三尺干潮面上約七尺ヲ有スルカ故ニ各吐口ノ高サヲ總テ海潮干滿ノ平均面以上ニ置クモ優ニ充分ノ勾配ヲ有セシメ得ルナリ

前述ノ如ク人家ハ東西ニ亘ル海岸線ニ近ク稠密ニシテ北部ニ至ルニ從ヒ次第ニ疎散トナリ鐵道線路以北ハ概シテ点々人家ノ散在セルヲ見ルニ過キスシテ大部分田畑ヲ占ム故ニ人家稠密ナル部分ヲ限り完全ナル下水道ヲ布設スルコト、シ鐵道以北ノ人家疎散ノ地ヲモ一々下水管ヲ配布スルトキハ其經費莫大ヲ算シ到底目下ノ狀勢ノ許サ、ル所ナルヲ以テ現在ノ溝渠ヲ修理擴張シ從來堀リ放チノ溝渠ヲ改メテ其兩側ヲ粗石積トシ其深サヲ一定シテ聚水面積ヲ定メ其幅員勾配ヲ決定シ別ニ計畫スルコト、セリ而シテ町内ノ高低測量ハ本計畫ノ第一眼目トシ精細ニ之レヲ施行シ尙各点間ノ距離ヲ實測シタリ而シテ之レカ結果ハ町内實測平面圖上ニ水平曲線ヲ以テ現ハスヲ普通トナセトモ當町ノ市街地ハ地盤概ネ平坦ニシテ此方法ニヨリ高低ヲ明示スルコト甚タ困難ナルヲ以テ別ニ實測縱断面圖ヲ調製シ及平面圖上ニ測点番號及其高サヲ記入シ水平曲線ハ之レヲ省略セリ而シテ此測量ノ決果ヲ基本トシ其地形ニ考ヘ明石川以東ヲ拾九個ノ小區域ニ分割シ尙明石川以西新町ヲ番外一區鐵道以北ノ東部人丸神社前一圓ヲ番外二區トシ計二十一ヶ所ノ小區域ニ於テ各別ニ吐口ヲ設ケテ排水スルコト、セリ而シテ之レカ排除ノ方法ハ既ニ述ヘタル如ク合流式ニシテ雨水ハ多ク街路側ニ設クル街渠ニ導キテ雨水取入樹及其引入管ヲ通シテ本管ニ向テ排除シ各戸ヨリ聚集流下シ來ル汚水ト相合シテ逐次吐口ニ向ツテ流下スルコト、セリ

猶二十一個ノ各小區域ニ向ツテ詳説スルコト次ノ如シ

第一小區ハ大藏谷ノ東部ヲ流ル、朝霧川以東ノ地ニシテ本下水道ノ延長僅々七十六間ニ過キス測点M1并ニ測点M1ヲ通スルモノ之レナリ而シテ其吐口ノ高サハ最大干潮面以上七尺トシ吐口ニ於テ内徑八寸土管ヲ用ヒ二百分ノ一勾配ヲ以テ朝霧川國道石橋東詰ニ排泄スルコト、セリ

第二小區ハ第一小區ト等シク大藏谷ノ東部朝霧川以西ノ一局部ニシテ測点M2ヨリM4ニ至ル延長約百拾八間ノ間ニ過キス其吐口ノ高サハ最大干潮面以上五尺トシ吐口ニ於テ内徑一尺ノ土管ヲ用ヒ二百分ノ一勾配ヲ以テ朝霧川國道石橋西詰ニ排泄スルコト、セリ

第三小區ハ大藏谷ノ東部新川ヲ以テ吐口幹線トシ測点M12及ヒM14ニ内徑三尺ノ鐵筋混凝土管ヲ用ヒ主トシテ鐵道以北一体ノ小丘ヨリ集合シ來ル雨水ノ排除ニ具エ測点M12ヨリ以東八幡神社ニ至ル沿道民家ノ汚水并雨水ハ國道ニ布設シタル内徑一尺ノ土管ヲ以テ西方幹線ニ導クモノトス吐口ノ高サハ最大干潮面以上四尺トシ幹線ノ勾配ヲ二百分ノ一トス

第四小區ハ大藏谷ノ中央部ニシテ測点M20M19及ヒM18等ヲ通スルモノヲ幹線トシ別ニ西林寺裏通及ヒ國道ヲ通スルニ支線ハ共ニ西方幹線ニ向ツテ流下シ尙ホ別ニ測点M18ヨリ分岐シM21M22等ニ至ル分岐線ヲ有ス而シテ吐口附近幹線ニハ内徑一尺五寸ノ鐵筋混凝土管ヲ布設シ吐口ノ高サハ最大干潮面以上三尺トシ幹線ノ勾配ヲ二百分ノ一トス

第五小區ハ同シク大藏谷ノ中央部ニ位シ測点M43M39M38M37M33'及ヒM33ヲ通過スル線ヲ以テ幹線トシ吐口幹線

ニハ内徑二尺ノ鐵筋混凝土管ヲ用ヒ漸次上流ニ至ルニ從テ其内徑ヲ減ス勾配ハ二百分ノ一トシ吐口ノ高サハ最大干潮面ヲ抜クコト一尺八寸トス

第六小區ハ大藏谷ノ西部ニ属シ測点M45M46及ヒM48等ヲ通ズ稻爪神社前通リノ海岸ニ達スル間ヲ幹線トシ稻爪神社前測点M48ニ至テ東西ニ分岐ス此間ノ布設管ハ内徑二尺ノ鐵筋混凝土管ヲ用ヒ勾配ハ三百分ノ一ニシテ吐口ハ最大干潮面ヲ抜クコト二尺五寸トス

第七小區ハ大藏谷村最西部大藏院ノ西ヲ通過シ測点M70M69M62ヲ經テ北天神社前通ニ達ス幹線ノ勾配ハ吐口ニ於テ三百分ノ一ニシテ内徑二尺及一尺五寸ノ鐵筋混凝土管ヲ用ヒ吐口ノ高サハ最大干潮面ヲ抜クコト二尺二寸トス

第八小區ハ町在來ノ雨水溝ナル舊兩馬川ヲ以テ幹線トシ國道ニ布設セル支線即チ東ハ大藏谷ノ最西部測点M78西ハ裁判所前M108ノ間ニ至ル沿道ノ雨水汚水ト共ニ舊溝カ支配スル鐵道以北一圓ノ雨水ヲ流下スル必要アルヲ以テ幹線ニハ内徑三尺ノ鐵筋混凝土管ヲ用ヒ勾配ハ四百分ノ一ニシテ吐口ニ於テ最大干潮面ヲ抜クコト二尺二寸九分トス

第九小區ハ港内新埋立地入江東端ニ吐口ヲ有シ新開道路ヲ經テ相生町切戸ニ出テ郡道ヲ北ニ測点M104等ヲ經テM103ニ至テ西折シテ舊外堀雨水溝ニ達シ該溝ニ沿ヒ北鐵道線路ヲ經テ大藏門橋北詰ニ至ル間ヲ幹線トシ相生町通稱忠度町通稱櫻町ノ一部并ニ通稱弓町通稱腕塚町ノ殆ント全部ニ於ケル雨水并ニ

汚水ヲ排除スルト共ニ鐵道以北師範學校前并ニ北部本松寺人丸山下一休ノ在來大雨水ヲ排除スルノ必要アルヲ以テ幹線ニハ五尺卵形渠ヲ用ヒ勾配ハ五百分ノ一ニシテ吐口ノ高サハ渠底ニ於テ最大干潮面以上五寸トス

第十小區ハ俗稱「ドンド」川即チ朝顔光明寺東側ニ沿ヒ國道ニ出テ測点 M122' ニ至テ東折シテ舊外堀線ニ沿ヒ郵便局裏ニ至リ直角ニ北折シテ舊雨水溝ニ沿ヒ通稱櫻町ニ出ス以上ハ密閉汚水溝トシ通稱櫻町以北ハ尙ホ水田ノ存スル等附近發展ノ情況ヲ參酌シテ開渠式トシ主トシテ舊雨水溝敷地ヲ利用シテ改造セラレタルモ以上幹線ハ相生町鍛冶屋町ノ一部并ニ通稱櫻町ノ大部ニ於ケル民家ノ汚水雨水ト共ニ在來雨水カ支配スル鐵道以北師範學校前並ニ其西部一休ノ降雨量ヲ流下スルト共ニ又明石城内堀ニ集水シ來ル雨水ヲモ排泄スルノ必要アルヲ以テ吐口ヨリ九十五間ノ間ニハ四尺卵形渠ヲ用ヒ測点 M122' 以東舊雨水溝ニ沿フ七拾四間九分ハ内徑三尺ノ鉄筋混凝土管ヲ用ヒ勾配ハ三百分ノ一トシ以上開渠ハ巾四尺トシ四百分ノ一勾配ヲ用ヒタリ而シテ吐口ニ於テハ卵形渠底ノ高サハ最大干潮面以上九寸トス

第十一小區ハ錦江橋北詰西側ニ其吐口ヲ有シ明石驛前本通りヲ以テ其幹線トシ又支線ニヨリ東本町通稱櫻町等ノ各一部并ニ鍛冶屋町細工町ノ大部ニ於ケル汚水雨水ヲ排除スルト共ニ測点 M131' 及ヒ M131' ニヨリテ明石驛構内西半部ニ於ケル雨水ヲモ排除スルト、シ幹線中驛前測点 M131' 以南ハ凡テ内徑二尺ノ鉄筋混凝土管ヲ用ヒ驛前ヨリ西折シテ測点 M135' ニ至ル郡道ニハ内徑一尺五寸ノ鉄筋混凝土管ヲ用ユ而シテ

吐口附近ノ勾配ハ三百五十分ノ一トシ吐口管底ガ最大干潮面ヲ抜クコト一尺五寸トス

第十二小區ハ明石港内ニ其吐口ヲ有シ測点 M159' M144' 等ヲ經テ東本町并ニ西本町ノ中間ヲ北方ニ走り測点 M135' 至テ東魚町ノ西端ニ出テ西折シテ測点 M138' 至リ又北折シテ金光教會前ヲ經テ明石驛構内西端踏切前測点 M135' 至ル間ヲ幹線トス而シテ本小區ハ東本町西本町ノ雨水并ニ汚水ヲ排除スルト共ニ明石町魚肉精製ノ中樞タル東魚町ノ汚水并ニ雨水ヲ排除スルト、ナリ居ルヲ以テ極メテ汚水ニ富ミ測点 M144' 及ヒ M149' 精製ヲ通過スル支線ハ主トシテ魚油ニ近キ汚水ヲ疏通スルノ用ヲナス然レモ明石驛ノ西部并ニ鐵道以北舊城内堀ヨリ來ル自然ノ集水ハ此幹線ヲ洗滌スルノ常水トナリ爲メニ吐口ニ於ケル汚水ハ大ナル汚穢ヲ認メス而シテ幹線ノ勾配ハ三百五十分ノ一トシ内徑二尺ノ鉄筋混凝土管ヲ用ヒ吐口ニ於ケル水位ハ最大干潮面以上一尺三寸五分トス

第十三小區ハ西魚町并ニ西本町中町ノ一部ニ於ケル汚水竝ニ雨水ヲ排除スルノ目的ニ過キス從テ極メテ小區域ノモノニシテ幹線約三十間ハ内徑二尺ノ鉄筋混凝土管ヲ尙ホ以上約四十間ハ一尺五寸ノ鉄筋混凝土管ヲ用ヒ此間ノ勾配ハ三百二十五分ノ一トシ吐口ノ高サハ最大干潮面以上二尺二寸トス

第十四小區ハ中町、西魚町、材木町ノ一部及ヒ樽屋町、大明石村ノ内通稱西片端ノ全部及ヒ大明石村ノ西部大半ト當津村ノ一小部トヲ含有シ極メテ大區域ノ小區ニシテ特ニ本小區幹線ニハ在來明石町西部ノ大半ヲ迂廻シテ流ル、舊外堀線ノ大雨水竝ニ汚水ヲ明石町役場前ニ於テ取入レタルヲ以テ以下幹

線ニハ五尺卵形渠ヲ用ヒ役場前ヨリ南國道ニ出テ東折シテ中町ノ西部ヲ經テ又南折シ通稱馬場横町ヲ經テ明石港ニ達ス此間ノ勾配ハ四百五十分ノ一ニシテ支線ノ主ナルモノハ樽屋町本通ノ内徑二尺ノ鉄筋混凝土管及通稱西片端ノ内徑一尺五寸ノ鉄筋混凝土管トス而シテ西部大明石村ニ属スル排水設備ハ其合流点ヲ町役場前測点^{M182}トシ北測点^{M181}ニ至ル約四十間ノ間ハ四百五十分ノ一勾配ヲ以テ内徑三尺ノ鉄筋混凝土管ヲ用ヒ此点ニ於テ分岐シテ二線トナリ一ツハ西折又北折シテ通稱上水町ヲ經テ茶園場入口ニ向フ此間内徑二尺及ヒ一尺五寸ノ鉄筋混凝土管ヲ用ヒ勾配ハ四百分ノ一トス一ツハ北ニ走リ又東折シテ天理教會所前ヲ經テ測点^{M174}ニ至ル此間内徑二尺ノ鉄筋混凝土管ヲ測点^{M174}ヨリ又北折シテ^{M173}ニ至ル此間ハ内徑一尺二寸ノ土管ヲ用ヒ而シテ勾配ハ通シテ三分ノ一トス其他内徑尺二寸以下六寸以上ノ土管ノ小支線ヲ有スルモ要スルニ本小區ハ鐵道以北竝ニ舊城内一圓ノ大雨水カ舊雨水溝ニヨリテ迂廻奔流又ハ停滯シテ西部明石町ノ大半ノ地殼ヲ濕潤汚穢ナラシメタリシヲ改善シ舊流ハ一大汚水トナリ町役場前ニ於テ下水幹線ト合流シ直ニ港内ニ排泄シタルヲ以テ著シキ變化ナリトス

第十五小區ハ明石港内西部入江終端米澤倉庫前ニ其吐口ヲ有シ材木町竝ニ當津村ノ大部分及樽屋町、戎町ノ一小部ニ於ケル雨水竝ニ汚水ヲ排除スルヲ以テ目的トシ寶林寺龍谷寺南側測点^{M160}ヲ經テ本立寺前測点^{M272}ニ至ル間ヲ吐口幹線トシ内徑三尺ノ鉄筋混凝土管ヲ用ヒ勾配ハ三百五十分ノ一トス而シテ本立寺前ヨリ測点^{M271}及ヒ^{M278}ナル長久寺北側ニ至ル線ニハ内徑二尺ノ鉄筋混凝土管ヲ用ヒ其他ハ内徑一尺五寸鉄筋混凝土管竝ニ一尺二寸土管ヨリ以下内徑六寸ニ至ル間ノ土管ヲ以テ各分岐線ヲ作り區内ノ汚水排除ニ具エタリ尙本小區吐口ニ於ケル水位ハ最大干潮面以上一尺八寸トス

第十六小區ハ明石港入口西側ニ位置スル船町ノ大部竝ニ戎町ノ一部ニ於ケル汚水竝ニ雨水排除ヲ以テ目的トシ明石港口ヲ去ル約三四十間内方西側ノ測点^{M243}ヲ以テ吐口トシ吐口ヨリ測点^{M244}及ヒ^{M245}ニ至ル間ニハ内徑一尺五寸ノ鉄筋混凝土管ヲ用ヒ測点^{M245}ヨリ^{M246}ニ至ル間ニハ内徑一尺二寸土管ヲ用ヒテ幹線トシ東西ニ走ル各小路ハ之レニ連絡シテ各沿道ノ民家ニ於ケル汚水竝ニ雨水ノ疏通ニ便ナラシム而シテ幹線吐口附近ノ勾配ハ二百五十分ノ一トシ吐口ノ高サハ最大干潮面以上三尺トス

第十七小區ハ明石町下水道小區中最大小區ニシテ新濱一圓戎町ノ大部南部當津村ノ一部及ヒ西部當津村通稱土手一圓ニ於ケル大汚水竝ニ雨水ヲ排除スルヲ以テ目的トシ吐口ヲ岩屋神社前海濱ニ有シ新濱本通リヲ西ニ走リ伊弉册神社境内南側ヨリ西側ニ迂廻シ北ニ走リ一番丁ヲ經テ大觀橋東詰附近ニ至ル間ヲ幹線トシ吐口ヨリ西伊弉册神社西南角測点^{M222}ニ至ル間ニハ内徑三尺ノ鉄筋混凝土管ヲ用ヒ測点^{M222}ヨリ^{M217}ニ至ル間ハ内徑二尺ノ鉄筋混凝土管、以上測点^{M214}即チ當津村通稱土手ノ連絡人孔ニ至ル間ハ内徑一尺五寸ノ鉄筋混凝土管ヲ用ヒ勾配ハ通シテ六百分ノ一トス而シテ其他ノ東西南北ニ走ル各街區分岐線ハ内徑一尺二寸乃至六寸ノ土管トシ特ニ本小區吐口ハ其排水量ノ莫大ナルト共ニ吐口ニ於ケル土砂ノ滯積竝ニ沿岸海水ノ汚濁サレノコトヲ慮リ石垣巻立突堤ニヨリ吐口ヲ普通沿岸ヨリ約三十間沖合

ニ突出セシメ特ニ其ノ間ノ管底勾配ヲ三百分ノ一トナシタリ

第十八小區ハ當津村ノ内通稱祝一圓ノ小區域ヲ限ル排水工事ニシテ明石川ニ添フ約四十間ノ間ハ内徑一尺五寸ノ鉄筋管ヲ用ヒタルモ之レ其上流ニ於テ明石川東堤防ニ添フ數町歩ノ田畑ニ降下シタル雨水ノ排除ニ具エンカ爲メニシテ純下水管トシテハ其吐口附近ニ内徑一尺二寸土管ヲ百五十分ノ一ヲ以テ布設シタルニ過キス以上上流ニ至テハ八寸以下六寸ニ至ル小徑土管ヲ以テ各街區ノ雨水竝ニ汚水ノ排除ニ具エタリ而シテ本小區別ハ其地勢上明石川ニ其吐口ヲ有シ其水位ハ最大干潮面以上四尺トス

第十九小區ハ明石中崎遊園地西部遊廓一圓ノ汚水竝ニ雨水ヲ排除スルヲ以テ目的トシ其幹線ハ内徑一尺ノ土管ヲ用ヒ其延長約百間勾配百五十分ノ一乃至二百分ノ一トシ中洲ノ西北端ニ其吐口ヲ有シ其水位最大干潮面以上六尺五寸トス

番外一區西新町ハ明石川以西ニ於テ長ク南北ニ走ル一街區ニシテ從來其東西兩裏側ニ巾約二三尺ノ雨水溝ヲ有シ然モ雨水溝ハ西新町ニ於ケル唯一ノ汚水排除溝タルト共ニ其外側ニ添フ多數町歩ノ水田ニ對スル灌溉竝ニ排水用溝タルヲ以テ其廢溝ヲ不可トスルノミナラス灌溉各出別ノ便利上開渠ヲ必要トスルヲ以テ別ニ汚水管渠ヲ設ケズ在來溝敷竝ニ溝底ヲ標準トシ大同小異ノ改良ヲ以テ側壁ヲ一丁半積練築石垣工事トシ底部ハ基礎混凝土厚サ五寸ノ上ニ一面煉瓦ヲ敷詰其幅員ハ平均二尺七八寸深サ二尺四五寸トシ特ニ東西二開渠ノ合流点以下及ヒ東側開渠ニ於テ上流約八十間ノ間ハ幅員ヲ四尺トシ尙最

下流林崎村ニ至ル縣道石橋附近ニ至テ幅員ヲ更ニ十尺ニ増大シ以下下流約二十間ノ間ニ於テ堤防修理ヲ加フルコト、シ尙西新町ニ於ケル各街渠ニ一大修理ヲ施シ適當ナル位置ニ於テ前記二大開渠ト相連絡セシメ雨水ノ疏通ヲシテ一層便ナラシメタリ

以上修築ノ外特ニ通稱松下町及ヒ王西座前通り縣道ニハ内徑八寸乃至六寸ノ密閉土管ヲ布設シ各沿道民家ノ汚水排除ノ連絡ニ便ナラシムルト共ニ街渠ニ於ケル雨水ノ集入ヲ迅速ナラシムルコトニセリ

番外二區鐵道以北人丸下ハ第九小區ノ上流大藏門橋下雨水取入口人孔ヲ以テ始点トシ以上東方約七十間及ヒ龜ノ水前通りニ向ヒ折曲リ二十三間三分ハ内徑二尺ノ鉄筋混凝土管尙ホ其北方八間五分ハ内徑一尺五寸鉄筋混凝土管ヲ布設シ以上凡テ密閉下水管渠ニシテ在來雨水溝ハ凡テ埋設シテ深サ五寸巾八寸底部混凝土膠泥ヲ以テ弧形仕上ノ第一種街渠トシ以上龜ノ水前通りハ在來溝渠ノ敷地ニ準據シ深サ及巾一尺二寸ノ石垣積開渠トシ底部ニハ厚サ三寸ノ混凝土ヲ施シタリ而シテ龜ノ水前通りヨリ人丸東道ニ至ル東西道路ハ道路ノ幅員ヲ決定スルト共ニ大約舊溝渠敷地ヲ利用シ深サ一尺九寸巾二尺ノ石垣積開渠トシ底部ニハ尙ホ厚サ三寸ノ混凝土工ヲ施シタリ特ニ長壽院前舊道路敷ハ其幅員甚タ不足ニシテ從テ在來溝渠モ迂廻屈折ヲ免レサリシカ新計畫ニ於テハ道路巾員ヲ決定スルト共ニ舊溝渠ヲ廢シテ稍々圓滑ナル溝渠敷地ヲ得タリ以上ノ外人丸東坂道ハ從來明石病院附近一圓ノ雨水ニヨリテ漸次荒廢セラル、ノ事實ヲ認メタルヲ以テ人丸階段詰ヨリ長壽院土塀ニ添ヒ道路西側ニ巾一尺二寸深サ平均一

尺二寸ノ新溝渠ヲ設ケ一丁半ニケ積底部三寸ノ混凝土工ヲ施シタリ而シテ特ニ人丸山東麓階段詰ニ於テハ急坂ノタメ雨水集合ノ焦点ナルヲ以テ降雨ノ際雨水ハ路面上ニ流溢スルノ恐レアルヲ以テ道路東側ニ約八間ノ第一種ノ街渠ヲ設ケ尙ホ路面ノ維持上道路ヲ斜斷シテ約二間ノ間隔ニ延石ヲ敷設シタリ右ハ各工區ニ於ケル大要ノ説明ニシテ詳細ナル計畫竝ニ構造ハ圖面ニヨルモノトス
以上各小區ノ吐口ニ來ルヘキ汚水量及其聚水面積ヲ舉ケ以テ各吐口ニ於テノ管徑勾配及其排水量ヲ表示スレハ次ノ如シ

但シ汚水量ノ決定及管徑計算ノ方法ハ後段ニ述フル所ノ如シ

吐口番號	聚水面積 (m^2)	一坪當リ毎秒 汚水量 (立方尺)	毎 秒 全 汚 水 量 (立方尺)	管口徑 (立方尺)	勾 配	毎 秒 排 水 量 (立方尺)	備 考
1.	1828	,000678	1.94	0.8	1/200	1.65	
2.	3540	"	2.40	1.0	1/200	2.91	
3.	1560	"	18.56	3.0	1/200	47.99	鐵道以北 117.5 立方尺ヲ加算ス
4.	11254	,000678	7.63	1.5	1/200	8.18	
5.	12283	"	8.33	2.0	1/200	16.87	
6.	16850	"	11.42	2.0	1/300	13.70	

7.	15266	"	10.35	2.0	1/300	13.70	
8.	20413	"	29.76	3.0	1/400	33.65	鐵道以北 116 立方尺ヲ加算ス
9.	36175	"	86.87	5.0	1/500	88.24	鐵道以北 162.34ヲ加算ス管徑ハ卵形下水管ノ標準ナリ
10.	29715	"	60.83	4.0	1/300	55.62	鐵道以北 148.65 立方尺ヲ加算ス管徑ハ卵形下水管ノ標準ナリ
11.	17270	,000685	11.83	2.0	1/350	12.63	
12.	17154	"	11.75	2.0	1/300	13.70	
13.	9533	"	6.53	2.0	1/325	13.13	
14.	70192	"	93.74	5.0	1/450	120.93	鐵道以北 145.64 立方尺ヲ加算ス管徑ハ卵形下水管ノ標準ナリ
15.	23197	"	15.96	3.0	1/350	36.05	
16.	7959	,000688	5.48	1.5	1/250	7.30	
17.	41850	"	28.79	3.0	1/300	39.02	
18.	6959	"	7.79	1.5	1/150	9.49	區外田畑ヨリ來ル水量 5 立方尺ヲ加算ス
19.	3150	,000684	2.15	1.0	1/150	3.42	

表中ノ毎秒汚水量ハ豫定ノ大降雨ニ際シテ吐口ニ來ルベキ全汚水量ニシテ毎秒排水量ハ所定ノ管徑勾配ニシテ排除シ得ヘキ汚水量トス

前既ニ述ヘタル如ク各小區ノ地盤ニシテ其最低部ト雖モ一般ニ最滿潮面上約三尺以上チ有スルカ故ニ最滿潮時ニ於テ豫定ノ大降雨アリトスルモ其際雨水ノ排除ニ困難チ感スルコトナカルヘシ

以上説明ノ外鐵道以北及明石川以西西新町(番外)地ハ在來溝渠チ修理スルニ止メ新ニ下水道チ布設セス故ニ割石積開渠トシテ其工費チ計上シ別ニ此部ニ屬スル圖面チ添付セス

(三) 下水量及雨水量ノ決定

(イ) 現在ノ戸數人口及將來増殖ノ割合

明治四十一年末現在戸口チ知ラシカ爲メ統計書ニ就キテ調査スルニ人口貳万五千七百五拾參人ニシテ戸數五千六百五十戸ナリトス而シテ明治三十二年以降同四十一年ニ至ル最近十ヶ年間各年末現在ノ戸口調査チ表示スレハ左ノ如シ

(ロ) 自明治三十二年 拾ヶ年間戸口増減調査表

年次	戸數	前年ニ對スル戸數増減	戸數百戸ニ對スル増減	人口	前年ニ對スル人口増減	人口百戸ニ對スル増減
明治三十一年	五、〇〇四	減	一、一〇	二一、七三三	減	一、四三
同 三十三年	四、九四九	減	五、五	二一、〇四四	減	三、一一
同 三十四年	四、九六二	減	一、三	二一、五三六	減	四、九三
同 三十五年	四、九五〇	減	一、二	二一、〇三三	減	五、六七
同 三十六年	五、一七四	減	二、四	二二、三一一	減	二、〇八
同 三十七年	五、二二八	減	四、四	二二、五八一	減	二、七〇
同 三十八年	五、一三七	減	八、一	二二、七〇四	減	一、二三
同 三十九年	五、二四四	減	一、〇七	二四、〇四〇	減	三、三六
同 四十年	五、四九〇	減	二、四六	二五、七九二	減	一、七五
同 四十一年	五、六五〇	減	一、六〇	二五、七五三	減	三、九

即チ最近十ヶ年間ニ戸數六百四十六戸チ増加シ人口ニ於テ四千二十人チ増加セリ故ニ明治三十二年ニ對スル十ヶ年間ノ増率ハ戸數百戸ニ就キ一二、九一ニシテ人口百戸ニ就キ一八、五ニ當レリ猶ホ前掲人口チ各大字別統計セシニ左表チ得タリ

(ハ) 自明治三十二年 各年末現在大字別人口統計表
至明治四十一年

町村名	年次										
	明治三十二年	同三十三年	同三十四年	同三十五年	同三十六年	同三十七年	同三十八年	同三十九年	同四十年	同四十一年	
大藏谷村	三、二五二	三、三五九	三、三八七	三、四三三	三、五一〇	三、六四四	三、六六〇	三、八〇六	三、九七七		
相生町	一、〇七六	一、〇八六	一、一一一	一、〇九九	一、一三三	一、一三三	一、一八四	一、三三八	一、〇二九		
鍛冶屋町	七三九	七二四	七三四	七三七	七三三	七三一	七四七	七四八	六六〇		
東本町	六五二	六七一	六六四	六五八	六六五	六七一	六六二	六九二	六三三		
西本町	四〇三	四二九	四二八	四二五	四三五	四三三	四三六	四四二	四〇九		
東魚町	三二二	三二八	三三六	三四八	三五三	三五七	三五二	三三三	二八一		
細工町	二九九	三〇四	三〇三	三二三	三〇一	三二五	三二四	三三四	三二二		
中西魚町	三四七	三五四	三五四	三七三	三七七	三八九	三九二	三九二	三七二		
材木町	二六〇	二五七	二五八	二七二	二五四	二五一	二二八	二二三	二四一		
樽屋町	七三〇	七二五	七六七	八〇七	八一八	八二三	八四二	八五〇	九一六		
戎屋町	一、一八五	一、二〇三	一、二五七	一、二八八	一、二七九	一、三一九	一、三〇七	一、三六三	一、二六六		
船濱町	一、二九七	一、三一九	一、三二六	一、三六六	一、四〇四	一、三九四	一、四一六	一、四二一	一、四九〇		
新津村	八四四	八三一	八七五	八七五	八〇九	八七〇	八六五	八七九	七八八		
當津村	一、八七八	一、九二〇	一、九六二	一、九九五	二、〇〇七	二、〇〇五	二、〇三五	一、九二八	一、九三七		
計	三、一二三	三、一四九	三、二三四	三、三三九	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三		

大明石村	二、九七七	二、九六〇	三、〇七五	三、二四七	三、二三三	三、三四一	三、四二二	三、五二四	四、二七七	四、九二五
西新町	一、六六六	一、七三四	一、七六七	一、八〇四	一、八二四	一、八二八	一、八七三	一、八九三	一、九六九	一、九三七
王子村	六八四	六九一	六九八	七二四	七五四	七七五	七六七	八一〇	八八四	九五二
計	二、七三三	二、八〇四	二、八五六	二、八〇三	二、八一一	二、八八一	二、九〇四	二、九〇〇	二、九七二	三、〇五二

○印ハ右十ヶ年間ニ於ケル各最大人口ナリ

次ニ各大字ノ人口稠密ノ度ヲ知ラシメ各一坪當リノ人口ヲ計算シ之レヲ表示スレハ次ノ如シ但シ之レニ採用シタル人口ハ前掲十ヶ年中ノ最モ大數ヲ以テシタリ

町村名	人口	面積	坪	面一坪當リ人口
大藏谷村	三、九七七	九二、一五一		〇、〇四三
大明石村	四、九二五	一二二、〇一七		〇、〇四二
相生町	一、三三八	一六、三二四		〇、〇八二
鍛冶屋町	七四八	九、九三七		〇、〇七五
東本町	六九二	九、〇一二		〇、〇七七
西本町	四五五	六、八四二		〇、〇六七
東魚町	三七三	三、二七八		〇、〇一四
西魚町	三九七	五、三〇七		〇、〇七五
細工町	三四一	二、四一二		〇、一四一

下水量及雨量ノ決定

中樽町	二八二	三、五一五	〇、〇八一
材木町	一、三六三	一三、四五二	〇、一〇一
戎屋町	九一六	二〇、三四二	〇、〇四五
船町	一、四九〇	一〇、一七五	〇、一四六
新濱	八九九	五、三三六	〇、一六八
當津村	二、〇五九	一六、四七〇	〇、一二五
	三、七八九	四四、二三二	〇、〇八六

之レヲ按スルニ人口稠密ノ度ハ所ニヨリテ著シキ差アルカ故ニ下水道改良ノ計畫ヲナスニ際シ一様平均ニ採用スルコト能ハサルヲ以テ充分ノ餘裕ヲ見込ミ各々次ノ如ク決定採用スルコト、セリ

地勢上ニ於ケル市街地ノ中央部ハ當町ノ最繁盛地ニシテ從テ人口最モ稠密ナリ即チ鍛冶屋町、東本町、西本町、細工町、東魚町、西魚町、中町、樽屋町等之レニ屬ス就中細工町ノ面一坪當リ人口〇、一四一ヲ以テ最トシ之レニ次クモノヲ東魚町ノ〇、一一四樽屋町ノ〇、一〇一トナス

前記諸町ハ前々表ニ於テ見ルカ如ク最近十ヶ年ニ著シキ増減ナク僅カニ一進一退ヲナスノミナリ而シテ前表面一坪當リノ人口ハ最近十ヶ年中ノ各最大數ヲ以テシタルカ故ニ此上ハ發達ノ餘地ナキモノト見做シ得ヘシト雖モ猶稠密ノ限度ニ達スル場合ヲ想像シ前三者ノ平均〇、一二二ニ三割ヲ加算シ〇、一六六人ヲ以テ前記各町ノ面一坪當リ豫定人口トセリ

材木町ハ面積ニ比シ人口甚々疎ナレトモ比較的寺院多クシテ將來發達ノ餘地ヲ存セサルカ如シト雖モ位置ノ關係上充分ノ餘裕ヲ存シ前各町同様〇、一六六人ヲ以テ面一坪當リノ豫定人口トセリ

相生町ハ前々表ニ於テ見ルカ如ク明治四十年ノ人口一、三三八人ナルニ反シ翌四十一年ニハ其約二割四分ヲ減少シテ一、〇二九人トナリ前記十年ヲ通シテノ最小數ヲ示シタリ故ニ明治四十年ノ人口即チ面一坪當リ〇、〇八二人ヲ以テ其極度ナルカ如シト雖モ猶多少増殖ノ餘地ヲ存スルモノト見做シ猶之レニ餘裕ヲ見込ミ約二割二分ヲ加算シ〇、一〇〇人ヲ以テ面一坪當リノ豫定人口トセリ

戎町及船町ハ當町中サシテ繁盛ノ地ト云フニアラサレトモ人口稠密ノ点ニ於テハ當町ニ冠タリ就中船町ヲ以テ然リトス此兩町ニアリテハ前掲十ヶ年間ニ於テ著シキ増減ヲ見ス殆ント其極度ニ達シタルカ如シト雖モ猶兩者ノ平均〇、一五七人ニ其二割ヲ加算シ〇、一九九人ヲ以テ面一坪當リノ豫定人口トセリ

當津村ニアリテハ其發達ノ度甚々遅々タルカ如シト雖モ猶人口増殖ノ餘地ノ存スルモノト推定シ二割ノ餘裕ヲ見込ミ〇、一〇〇人ヲ以テ面一坪當リノ豫定人口トセリ

大藏谷村ハ其狀勢當津村ニ酷似セルヲ以テ現在人口ハ面積ニ比シテ甚疎ナルカ如シト雖モ當津村同様ニ〇、一〇〇人ヲ以テ面一坪當リノ豫定人口トセリ

新濱ハ漁夫町ニシテ比較的人口稠密ヲ極ム表ニ由リテ按スレハ此上發達ノ餘地ナキカ如シト雖モ猶其

限度ヲ豫想シテ二割ヲ加算シ〇、一五人ヲ以テ面一坪當リノ豫定人口トセリ
 大明石村ニアリテハ其發達急速ニシテ其發展ノ度ハ他ノ遠ク及ハサル所ナリ最近十ヶ年即チ明治三十
 二年ニ對スル明治四十一年ノ増率ハ實ニ六割五分強ニ相當ス猶日進月歩ノ勢ヲ以テ増殖スルヲ見ルナ
 リ以テ將來ノ發展地タルコトヲ知シ得ルナリ然レトモ其大部分ハ商業地ニアラスシテ普通住家ナル
 カ故ニ其發達ノ限度ヲ相生町ニ比スレハ蓋シ充分ナルヘシト思考スルヲ以テ現在人口ノ二倍半即チ〇
 、一〇ヲ以テ面一坪當リノ豫定人口トセリ
 前述計畫ニ採用セシ面一坪當リ人口ヲ再録スレハ次ノ如シ

町名	計畫面一坪當リ人口	町名	計畫面一坪當リ人口
鍛冶屋町	〇、一六	材木町	〇、一六
細工町	〇、一六	戎町	〇、一六
東本町	〇、一六	船町	〇、一六
西本町	〇、一六	大明石村	〇、一六
東魚町	〇、一六	大藏谷村	〇、一六
西魚町	〇、一六	相生町	〇、一六
中屋町	〇、一六	當津濱村	〇、一六
樽屋町	〇、一六	新濱村	〇、一五

(二) 下水量ノ決定

當町ニハ未タ上水道ノ設備ナク町民總テ井水ヲ以テ無制限ニ使用シツ、アルカ故ニ一人一日ノ下水量
 幾何ナルヘキヤ茲ニ斷定スルコト甚タ困難ナリ依テ當町ノ下水量決定ニハ方今各地上水道計劃ノ標
 準ニ多ク採用シ居レル一人一日ノ給水量五立方尺ヲ準據トシテ一人一日ノ下水量ヲ五立方尺ト決定採
 用スルコトトセリ而シテ一人一時間ノ最大下水量ハ一人一日ノ下水量ノ十貳分ノ一トシ前記五立方尺
 ノ十貳分ノ一ヲ以テ一人壹時間ノ最大下水量トシ之レニ據テ一人壹秒時間ノ最大下水量ヲ算出スルコ
 ト次ノ如シ

$$5 \div 12 \div 3600 = 0.0001157$$

依テ〇、〇〇〇〇一六立方尺ヲ採用セリ

此〇、〇〇〇〇一六立方尺ニ各大字面一坪當リ人口數ヲ乘シタルモノハ各大字ニ於ケル面壹坪當リノ下
 水量ニシテ次表ニ示スカ如シ

町名	一坪當ノ下水量		町名	一坪當ノ下水量	
	一坪當ノ人口數	一坪當ノ下水量ノ量		一坪當ノ人口數	一坪當ノ下水量ノ量
鍛冶屋	0.0000116	× 0.16 = 0.0000186	材木	0.0000116	× 0.16 = 0.0000186
細東	〃	× 〃 = 〃	船	0.000116	× 0.19 = 0.000022
東	〃	× 〃 = 〃	大	〃	× 〃 = 〃
西	〃	× 〃 = 〃	大	〃	× 〃 = 〃
西	〃	× 〃 = 〃	相	〃	× 〃 = 〃
中	〃	× 〃 = 〃	當	〃	× 〃 = 〃
樽	〃	× 〃 = 〃	新	0.000016	× 0.15 = 0.0000174

(ホ) 雨量ノ決定

當町ニアリテハ兵庫縣農事試驗場及兵庫縣立農學校其他ニ於テ共ニ明治三十一年二年前後ヨリ降雨量ノ觀測ヲナセトモ其目的ヲ異ニシ每一晝夜觀測セルヲ以テ當町下水道築造ノ計畫ニ就キテ知ラント欲スル最大雨量調査ノ資料トナスニ充分ナラス而シテ神戸測候所ニ於テハ幸ニシテ明治三十年以降毎時觀測ヲナシタリ該觀測表中ヨリ最大ナルモノヨリ順次摘録シ以テ本下水道築造計畫ノ資料ニ供ス

降雨量 (耗)	年 月 日
三九、一	明治三十八年八月二十五日
三五、〇	明治四十年七月二日
二九、八	明治三十二年六月八日
二九、一	明治三十五年七月十日
二七、七	明治三十年九月五日
二八、三	明治三十六年七月

而シテ神戸測候所ニ於テノ調査ニカ、ル管内雨量統計表ニ依レハ明石地方ハ神戸地方ニ比シ一般ニ其量少キヲ示セリ前表ニ由レハ神戸地方ニ於テ一時間内ノ雨量ハ三九、一耗ヲ最大トシ之レニ次クモノヲ三五、〇耗トシ其他ニハ總テ三〇、耗以下トス而シテ前記三九、一耗三五〇ノ如キハ神戸測候所ニ於テ毎時觀測ノ開始以來各々唯一回アリシモノニシテ共ニ破格ノ大降雨ト見ルヲ得ヘク三〇、〇耗内外ノモノハ時々襲來スルチ知ル

而シテ前述明石地方ト神戸地方トノ降雨量ノ比較ヲ斟酌シ茲ニ雨水一時間ノ最大量ヲ三五、〇耗ト決定セハ此間充分ノ安全ヲ保シ得ヘシト信ス而シテ前掲ノ如キ小時間内ノ大降雨ハ概シテ夏季蒸熱ノ候六、七、八、九、四ヶ月間ニ起ルコト統計ノ示ス所ナレハ降雨量中空氣中ニ發散又ハ地下ニ滲透スルノ量

下水量及雨水量ノ決定

モ決シテ僅少ナラサルヘシ歐米各國著名ノ都府ニアリテハ降雨量中ノ百分ノ七十五ハ下水道ニヨリテ
 排除セラレ殘餘ノ二十五ハ地下ニ滲透又ハ空氣中ニ蒸發スルノ割合ナリト云ヘトモ當町ノ如キハ未タ
 道路ト雖モ完全ナラス家屋ノ配置又比較的疎ナルカ故ニ從テ雨量中蒸發滲透ノ量モ大ナルヘキヲ以テ
 之レチ百分中ノ約四十トシ即チ三十五耗ヨリ十五耗ヲ控除シタル殘量二十耗ヲ下水道ニヨリテ疏通セ
 ラル、モノトシ面積一平方尺ニ對シ一秒時間ノ雨量ヲ計算スレハ次ノ如シ

$$\frac{0.00333 \times 20}{3600} = 0.0000185 \text{ 立方尺}$$

之レチ面一坪ニ對スル一秒時間ノ雨量ニ改算シ

$$0.0000185 \times 36 = 0.000666 \text{ 立方尺}$$

仍テ〇、〇〇〇〇六六六立方尺ヲ以テ降雨量中ノ下水道ヨリ排除セララルヘキ面一坪當リノ最大量ト決定
 セリ

而シテ各大字ニ於ケル面一坪當リノ排水量ハ曩キニ決定シタル面一坪當リノ下水量ト茲ニ決定シタル
 雨水量トノ合量ナリトス之レチ表示スレハ次ノ如シ

(單位立方尺)

町名	面一坪當リノ 一秒時間ノ 下水量	面一坪當リノ 一秒時間ノ 雨量	面一坪當リノ 一秒時間ノ 排水量	町名	面一坪當リノ 一秒時間ノ 下水量	面一坪當リノ 一秒時間ノ 雨量	面一坪當リノ 一秒時間ノ 排水量
鎮屋町	0.0000186 + 0.000666 = 0.000685			材木町	0.0000186 + 0.000666 = 0.000685		
細工町	〃	+	〃	戎船町	0.000022	+	〃
東本町	〃	+	〃	大相堂	〃	+	〃
西本町	〃	+	〃	明藏	0.000012 + 0.000666 = 0.000678	+	〃
東魚町	〃	+	〃	石谷村	〃	+	〃
西魚町	〃	+	〃	生津村	〃	+	〃
西中町	〃	+	〃	濱村	〃	+	〃
中野	〃	+	〃	濱村	0.0000176 + 0.000666 = 0.000684		

下水管經計算方法

町内各排水地域ノ下水量及雨水量選定ノ方法ハ前既ニ之レチ述ヘタルヲ以テ茲ニハ下水管經ノ大小ヲ
 定ム可キ方法ヲ説明セントス

今例チ人口比較的稠密ニシテ明石町ノ中央ニ位シ東西本町竝ニ東魚町混成小區ナル第十二小區吐口所
 屬ニ取ルトキハ此ノ地ノ下水道幹線管末ニ於テ其支配スル排水地域ノ面積ハ一七一五四坪ニシテ此地

下水量及雨水量ノ決定

一坪ニ對スル下水量ハ雨量ヲ合セテ前表ニ見ル如ク一秒時ニ〇、〇〇〇六八五立方尺ヲ排出スルヲ以テ一秒時ニ排出スル總下水量ハ次ノ如シ

$$17154 \times 0.000685 = 11.75 \text{ 立方尺}$$

然ルニ「ダルシー」氏ノ公式ニヨルトキハ

$$\frac{L}{H} Q^2 = C^2 \left(\frac{D}{1.486} \right)^5$$

$$\frac{L}{H} = \text{下水道勾配ノ逆數}$$

Q = 單位立方呎ニ於ケル下水道一秒時ノ排水量

D = 所要排水管徑

C = 係數

今此公式ニヨリ船町ニ於ケル $\left(\frac{L}{H} Q^2 \right)$ ヲ計算スルトキハ下水道縱斷面圖第十二小區所屬吐口ノ圖ニ於テ見ル如ク

$$\frac{L}{H} Q^2 = 300 \times (11.75)^2 = 41419.$$

然ルニ同シク「ダルシー」氏ノ公式ニヨリ計算シタル表ニヨルトキハ次ノ關係ヲ見ルコトヲ得ヘシ

$$D = 22'' \dots \dots \frac{L}{H} Q^2 = 39600$$

$$D = 23'' \dots \dots \frac{L}{H} Q^2 = 49400$$

故ニ第十二小區吐口ノ場合ニ於テハ二二吋管ニテハ稍々小ニ過キ二三吋ニテハ稍々大ナリト云フ結果トナル可シ然レニ管内ニハ將來水垢及沈澱物ノ固着スルノミナラス吐口ハ最大滿潮面時ニ於テハ多少溺口トナルヲ以テ之レ等ニ對シ充分ノ餘裕ヲ與フルト共ニ本町鉄筋混凝土管ノ製作上多種類ノ煩ヲ避ケ内徑二尺ノ鉄筋混凝土管ヲ採用スルコト、セリ

次ニ例ヲ卵形渠下水道幹線ナル第十四號吐口ヲ例ニトルハ本小區ハ平面圖ニ於テ見ル如ク大明石村ノ西北大部分及通稱西片端榿屋町ノ全部ヲ含有スルト共ニ中町西魚町材木町ノ一部ヲ以テ混成スル一大區域ニシテ一秒時間面一坪ニ對スル汚水量ハ〇、〇〇〇六八五立方尺排水地域總面積ハ鐵道以南ニ於テ約七〇一九二坪ナリ

$$70192 \times 0.000685 = 48.08 \text{ 立方尺}$$

然ルニ本小區ハ鐵道以北舊城内西部一圓ノ降雨量ヲ合流セサル可カラス而シテ是等ノ雨量ハ調査ノ結果約四四、立方尺六六ナルコトヲ知ルト共ニ該雨量ハ在來雨水溝ニヨリ本小區ノ西北部ノ比較的未開

地域ヲ奔流シテ明石町役場前ニ來リ此ニ始メテ下水幹線ニ合流スルコト、ナレルヲ以テ以下水道幹線ハ前項總汚水量ト共ニ此雨水ヲモ合セテ總計九三、七四立方尺ノ汚水量ヲ流下排泄スルノ斷面ヲ具備セサル可カラス然ルニ本第十四小區吐口斷面ハ五尺卵形渠ニシテ最大滿水時ノ水面高ヲ溝渠天端ヨリ五寸以下ノ處ニアルモノトセハ此際ニ於ケル流量斷面積(A)ハ一八、八九五立方尺、濕潤周界(P)ハ一一、九七尺ナリ故ニ平均水深 $(\frac{P}{A} = R)$ ハ一五八ナルコトヲ知ル

今此卵形溝渠内ニ於ケル流水ノ摩擦係數(N)ヲ〇、〇一五トスルハ溝渠ノ勾配(%)ハ四百五十分ノ一ナルヲ以テ「クツター」氏ノ公式ニヨリ一秒時ノ流水速力ヲ計算スルハ六、四尺ナルコトヲ知ル可シ然ルニ前己ニ述ヘタル如ク流水斷面積ハ一八、八九五立方尺ナルヲ以テ一秒時ノ排水力ハ一二〇、九三立方尺ナルコトヲ知ル可シ

此結果ヲ區ニ屬スル總汚水量ト比較スルハ一秒時ニ於テ猶ホ一二七、一九立方尺ノ汚水ヲ排除スヘキ餘裕ヲ存スルヲ見ル可シ

以上ハ主トシテ下水道幹線特ニ吐口附近ニ於ケル下水管ノ管徑決定ノ方法ヲ述ヘタルカ下水道各支線ニ於テハ其支線ノ支配スル地積ヲ其支線ノ管末管尾ニ於ケル總延長ニテ除シタル商ヲ以テ下水道支線一尺カ支配スル排水地積トシ面一坪ニ對スル汚水率ヲ乘シタルモノヲ以テ總汚水量トシ前同様「ダルシー」氏ノ公式ニヨリ計算シタルモノナリ

(四) 工 事

(イ) 汚水管渠

本町下水道ニ用ヒタル汚水管渠ハ陶製土管鉄筋混凝土管及ヒ混凝土塊ヲ以テ現場築造ノ截頭卵形溝渠ノ三種トス而シテ陶製土管ハ内徑四寸、五寸、六寸、七寸、八寸、一尺及ヒ一尺二寸ノ七種トシ内徑四寸土管ハ主トシテ各戸取付用トシ五寸土管ハ雨水取入樹ト下水本管ノ連絡ニ用ユルコト、シ以上内徑六寸ヨリ一尺二寸ニ至ル土管ハ下水管渠用トシ六寸以下ノ土管ハ決シテ下水本線ニハ用ヒサルコトトセリ

鉄筋混凝土管ハ内徑一尺五寸、二尺及内徑三尺ノ三種トシ以上三種ノ土管ハ本町ノ直營製作品トシ下水管内徑一尺二寸以上ヲ要スルケ所ニ用ユ截頭卵形溝渠ハ天端橫徑五尺及ヒ四尺ノ二種トシ七種ノ異形混凝土塊ヲ以テ現場ニテ組立ツルコト、セリ而シテ以上卵形溝渠ハ比較的汚水又ハ雨水ニ富ミ内徑三尺ノ鉄筋混凝土管ニテ排除シ能ハサル下水幹線ニ使用スルモノトス

(ロ) 人 孔

人孔ハ之レヲ分チテ五種トセリ深サ四尺以下ニシテ會合管徑一尺五寸以下圓形人孔ヲ造ルニ不便ナル

個所ニ用フル長方形人孔ヲ第一種トシ深サ四尺以上ニシテ會合管徑一尺五寸以上ノ個所ニ用フル長方形人孔ヲ第二種トシ深サ四尺以上會合管徑一尺二寸以下ノ所ニ用フルモノヲ第三種トシ其形狀圓形ナリトス第四種ハ卵形汚水管共用ノ個所ニ第五種ハ吐口ニ使用ス而シテ各其構造ハ圖面ニ示ス通リトス人孔ハ二條以上ノ汚水管カ會合スル点ニハ必ス之レヲ配布シ單條汚水管ノ個所ト雖モ其距離遠大ナルカ又ハ屈折スルノ場合ハ其中間或ハ屈折点ニモ之レヲ配布シタリ人孔ハ何レモ配合「S.S.」セメントコンクリート」製ニシテ底部ニハ最低管底下五寸ノ泥砂溜ヲ造リ以テ泥砂ヲ此所ニテ取除キ可及的汚水管内ヲ清潔ナラシムルニ便ス（構造圖面參照）

猶何レモ路面ニハ各其形狀ニ適合スヘキ開閉自在ノ鑄鉄製蓋金物ヲ使用スルコト、セリ

(ハ) 燈 孔

燈孔二尺管以下ノ下水本管ニシテ人孔ト人孔トノ距離比較的長キカ又ハ下水本管ノ屈折セル個處等ニ人孔ヲ布設シ能ハサル場合ニ設置スルコト、セリ而シテ構造ハ内徑七寸ノ枝管ヲ有スル陶製土管又ハ混凝土管ヲ用ヒ其上部ニ徑七寸ノ土管ヲ直立ニ接續シ路面ニ至ラシメ路面ニ開閉自在ノ坐枰ヲ有スル蓋金物ヲ用ヒ此蓋金ノ坐枰ガ土管ト接觸セサル様施工シ以テ蓋金物ノ受クル荷重カ土管ニ傳ハルコトナカラシムルコト、セリ（圖面參照）

(ニ) 各戸下水ノ排除方法

各戸若シクハ數戸連合シテ汚水集水樹ヲ設ケ之レニ其地域内ノ下水及雨水ヲ聚メ之レヨリ土管又ハ開渠（雨水ニ限ル）ニヨリテ便宜ノ地ニ導キテ本下水道ニ連絡セシム而シテ何レモ可及的充分ノ勾配ヲ付シ本下水道ト連絡スルノ個所（民有地最端）ニ於テハ別ニ尙ホ一ケノ集水樹ヲ造リテ之レニ汚水雨水ノ總テヲ流入セシメ之レヨリ本下水道ヨリ分岐スヘキ各戸枝管ニヨリテ排除セシムルモノトス即チ本下水道ノ各戸枝管ハ街渠ノ下部ヲ通シテ連絡スルモノナリ

(ホ) 街渠及雨水取入口ノ構造

各戸ヨリ排除セラルヘキ汚水ハ前述ノ方法ヲ以テ本下水道ニ向テ排除セラル、カ故ニ街渠ハ街路ニ降下セシ雨水ヲ流送スルノ外各戸ノ屋上又ハ宅地等ニ降下セシ雨水ニシテ各戸ノ汚水取入樹ニ流入セシムルニ困難ヲ感スルモノハ總テ之レヲ街渠ニヨリ導クモノトス而シテ街渠ハ概シテ街路ノ兩側ニ設クレトモ地形上或ハ片側ニ設クルコトモアリ其構造ハ圖面ニ示ス通リニシテ巾八寸トシ深サハ中央ニ於テ二寸トス兩側ハ五寸角ノ石材ヲ用ヒ基礎部ハ總テ「一、三、六、調合」セメントコンクリート」ヲ用ヒ底部ハ其表面ヲ半徑五寸ノ彎形ニ厚一寸、セメントモルター」ヲ塗抹スルコト、セリ「一、三、六セメント

混凝土及ヒ「モルター」ノ配合ハ一位代價表ノ通リトス街渠ハ地勢ニ考ヘテ最近ノ雨水樹ニ向テ勾配ヲ付シ築造スルコト、セリ雨水取入口ハ十字街ノ四隅又ハ必要ニ應シ其中間ニ設クルコト、セリ其構造ハ内法巾一尺長一尺二寸ニシテ深サ一尺六寸側壁底部共其厚各三寸トス配合「1:3:6」ノ「セメントコンクリート」ヲ以テ築造シ其基礎部ハ厚三寸ノ砂利ヲ以テスルコト圖面ニ示ス通リトス

雨水取入口ハ街渠ニヨリテ導カレタル雨水ヲ流入セシメ之レヨリ内徑五寸ノ陶製管ニヨリテ人孔ニ向ツテ排疏セシム而シテ該管底ハ雨水取入口ノ底部ヨリ三寸以上ノ高サヲ有セシメ此間ニ土砂ヲ滯溜シ以テ人孔内ニ土砂ノ流入ヲ防クモノトス

上部ニハ鑄鉄製格子ノ蓋金物ヲ使用シ塵芥類ノ流入ヲ防クモノトス

(ハ) 下水道吐口ノ構造

各小區域ノ下水管ノ最終ニ於テ特ニ大ナル人孔ヲ設ケ之レヲ吐口人孔トス(前ニ述ヘタル第五種人孔ナリ)此人孔内ニ來ル總テ汚水ハ之レヲ吐口人孔ト海面トノ間ニ適當ノ大サノ連絡管ヲ布設シ以テ汚水ノ總テハ之レヲ海中又ハ便宜港内ニ向ツテ放流スルモノトス

此吐口人孔モ他ノ人孔ト同様配合「1:3:6」セメントコンクリート製ニシテ底部ニハ五寸ノ泥砂溜ヲ設ケ上部ニハ相當ノ鑄鉄製蓋金物ヲナスヘキモノナリ其他構造ハ總テ圖面ニ示ス通リトス

(五) 仕 様

(イ) 一 般

下水道ヲ築造スルニハ總テ吐口ヨリ始メ漸次上流ニ及スモノトス

下水管ノ布設ハ吐口ニ最近ナル人孔ノ築造ト共ニ着手シ他ノ人孔ハ下水管布設ニ先チ着手スルモ妨ナシ

下水管布設ニ要スル遣型ハ甲乙二個ノ人孔ヲ築造スヘキ測点上又ハ其布設線ノ方向ニ於テ四、五尺ノ位置ニ設ク即チ其個所ノ掘鑿巾ニ(掘鑿ハ管徑ノ大小ニ依リ異ル參尺以上ヲ加ヘタル間隔ニ末口三、四寸ノ松丸太杭凡ソ三尺ヲ打込ミ(杭ヲ打込ムニハ其根ヲ「トレンチ」ノ反對ノ方面ニ斜ニ打ツヘシ)之ヲ地面上凡ソ貳尺ノ高サトシ之ニ松貫ヲ打チ付クヘシ而シテ其貫ノ中央ノ高サヲ「レベル」ニテ精密ニ定メ甲乙二個所ノ貫ノ上端ハ中心点ヲシテ其所ノ下水管ノ勾配ト同様トナスヘシ遣型ハ他ニ設クヘキ遣型ノ標準トナスヘキモノナレハ精密ナル注意ヲ要ス

甲乙二個ノ遣型ヲ設ケタル後其中間ノ遣型ヲ定ムヘシ之ヲナスニハ甲乙標準遣型ト中央距離ヲ取リテ之ニ遣型ヲ設ク而シテ之ニ打ツヘキ貫ノ高サハ甲乙二個ノ遣型ニヨリテ計算シ「レベル」ニテ精密ニ其

高サヲ定ムヘシ而シテ猶其間隔カ貳拾間以上ナルトキハ前記方法ヲ反覆スヘシ若シ貳拾間以内ナルトキハ「レベル」ニテ設ケタル遣型ヲ標準トシ其間ニ目測ニテ遣型ヲ定ムヘシ而シテ順次此方法ヲ反覆シテ各遣型ノ間隔カ五間以内ニ至リテ止ムヘシ

各遣型ニハ中心点ヲ設クルモノトス之ハ人孔ノ測点ヲ標準トシ「トランシット」ヲ以テ一直線ニ各遣型貫ノ頂端ニ墨線ヲ以テ記入スヘシ

遣型決定シタルトキハ其中心点ニ細キ麻糸若クハ廿四番以下ノ針金ヲ緊張シ以テ埋設管或ハ卵形渠等築造物ノ標準トナス此各遣型間ニ張レル麻糸或ハ針金ハ下水本管ノ勾配ヲ採ルヘキ標準トナルモノナレハ時々點檢シ以テ其弛ミヲ訂シ之レカ垂下セサル様最モ注意スルヲ要ス

而シテ此標準線ヨリ土管内面ノ底部又ハ卵形渠底迄ノ高サヲ計算シ之ニ適合スヘキ棒ヲ作り其下部ニ鉄片ヲ付シ以テ磨滅ヲ防キ壹個ノ土管又ハ卵形渠底ノ混凝土塊施工毎ニ其高サヲ定メ同時ニ標準線ヨリ下振リヲ垂下シテ其方向ヲ正シテ後接合「モルタ」又ハ混凝土ヲ施工スルモノトス

(ロ) 築造工事仕様

本工事ハ本町下水道事務所ニ於テ指定セル場所ニテ町内ノ下水並ニ雨水ヲ疏通セシムル爲メ施工スルモノニシテ設計書并ニ仕様書附属書類圖面ニ依リ施工スルモノナリ

受負人ハ下水道事務所指定ノ場所ニテ左記材料ノ供給ヲ受クルノ外工事用材料並ニ用具ハ凡テ受負人ノ負担スヘキモノトス

- (一) 土管及鉄筋混凝土管
- (二) セメント
- (三) 卵形渠用混凝土塊
- (四) 卵形渠用鉄筋混凝土蓋
- (五) 集水樹
- (六) 人孔燈孔并ニ集水樹用金蓋及附属金物
- (七) 混凝土管枕

受負人ニ交附スル圖面并ニ附属書類ハ左ノ如シ

平面圖

縦斷面圖

人孔、燈孔、吐口、引入口下水本管斷面街渠及掘鑿支保工ノ各明細圖并局部明細圖及仕様書仕様書ヲ分ツテ次ノ數項トス

- (一) 一般
- (二) 下水管布設
- (三) 人孔築造
- (四) 燈孔築造
- (五) 街渠築造
- (六) 雨水樹築造
- (七) 吐口築造
- (八) 引入口築造
- (九) 雜

(ハ) 下水管布設仕様

下水管ヲ分ツテ土管鉄筋混凝土管及卵形渠ノ三種トス即チ内徑四寸、五寸、六寸、七寸、八寸、壹尺、壹尺貳寸ノ七種ヲ土管トシ内徑一尺五寸、貳尺、參尺ノ三種ヲ鉄筋混凝土管トシ四尺、五尺ヲ卵形渠トス卵形渠ハ其内側ノ短長兩徑ノ比ハ圖面ニ示ス如シ

内徑四寸土管ハ各戸下水管ニ接続スヘキ公設枝線ニ用ヒ内徑五寸土管ハ雨水取入樹ト人孔トノ連絡又ハ雨水取入樹ト下水本管トノ連絡ニ用フ共ニ基礎砂利ヲ用ヒス但シ各戸下水カ數戸ノ集合シタル組合又ハ工場等ナルトキハ其取付ニハ四寸以上ノ土管ヲ用ユルコトヲ得

各街路ノ下ニ埋設スヘキ下水本管ハ内徑六寸以上ノ土管鉄筋混凝土管并ニ混凝土製卵形渠トス

下水管ヲ布設スヘキ線路ノ掘鑿ハ底巾ニ於テ其個所ニ布設スヘキ水管ノ内徑ニ二尺ヲ加ヘタルモノ限度シ卵形渠布設ニ際シテハ渠底ノ外徑ニ三尺ヲ加ヘタルモノトシ共ニ左右貳分以上ノ勾配ヲ以テ地盤面ニ至ラシム掘鑿深サ四尺以上ノ箇所或ハ地質軟弱ノ箇所及掘鑿地ニ接近シテ建造物等ノ存在スル箇所ニハ左右眞直ニ掘下ケ監督員ノ指揮ニ從ヒ支保工ヲナスヘキモノトス而シテ此場合ニ於ケル掘鑿巾ハ支保工施工後所定ノ下水管理設ニ差閔ナキ程度ニ注意スヘシ

掘鑿ハ一ヶ所拾間以内ツ、着手シ管布設埋戻シ后直ニ剩余土ヲ取除キ路面仕上ノ上順次施工スルモノトス

トス

支保工ハ別紙圖面ニ準シテ施工スルモノトス但シ現場ノ狀況ニ依リテ監督者ノ指揮ニ從ヒ臨機ノ方法ヲ取ラシムルコトアルヘシ

受負者ハ支保工ヲ要スヘキ場所ノ掘鑿ニ當リテハ最モ能ク工程ニ注意シ如何ナル場合ト雖モ支保工ヲ施サ、ル儘休工スルコトヲ許サス

受負者ハ工事施工ニ先チ豫メ工事主任ノ指定セル場所ニ指定ノ支保工材ヲ準備シタル後掘鑿ニ着手スルモノトス

支保工施工或ハ下水管布設ヲ終リ埋戻シニ際シテ支保工取除キ等監督者ノ指示ニ依ルト雖モ誤テ既設ノ工事又ハ第三者ノ建造物其他一般接続地域ニ損害ヲ與ヘタル場合ハ受負人ノ負担トス尙支保工ハ場合ニヨリテハ取除キヲササシテ其儘埋込ヲサシムルコトアルヘシ此場合ハ支保工材料費ハ下水道事務所ニ於テ定メ支拂ヲナスヘシ但此工費ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

工事中地上ノ建造物其他ニ對シ監督員カ相當保護工事ノ必要ヲ認メタルトキハ請負人ハ拒ムルコトヲ得ス其費用ハ受負人ノ負担トス

但シ特種ノ保護工ヲ要スルトキハ協議ノ上町ニ於テ之ヲ施工スルコトアルヘシ

下水管布設溝即チ「トレンチ」ノ底ニ於テ厚サ六寸（巾ハ管徑ニ依リ異ル）ノ基礎砂利ヲ敷キ之ヲ能ク

搗固メテ五寸トシ其位置ヲ正シ所定ノ勾配ヲ附シ其上ニ規定ノ下水管ヲ布設シ能ク落チ付ケテ後其接合ノ下ヲ巾五寸計ヲ掘リ接手ヲ作ルニ適セシムヘシ

基礎砂利ハ多角堅硬佳質ノモノニシテ塵芥其他脆弱ナル粒塊ヲ混入セス太サ七、八分以上二、三寸以下大小混合ノ比例宜敷キモノニシテ當所監督者ノ檢閲ヲ經タルモノナルヘシ

鉄筋混凝土管ハ基礎砂利ヲ搗キ固メタル後接手毎ニ圖面ニ示ス如ク掘リ町ヨリ供給ノ混凝土塊ヲ枕トシテ管ヲ布設スルモノトス此場合ニハ枕ハ管ノ接合ノ中央ニ設クルモノトス

土管ノ接手ヲ造ルニハ先ツ相接続スベキ土管ヲ並列シテ潤口ニ挿口ヲ箆メ方向トノ勾配ヲ定メテ潤口ト挿入トノ間隙ヲ周圍一様ナラシメ之ニ要スル所ノ横肌繩ヲ巻キテ潤口ノ底マテ打チ込ミ其後接手用セメント一、砂二、ノ配合ヨリナル「モルタル」ヲ充分接手ノ内部ニ入ラシムルコト圖面ニ示スカ如ク仕上クルモノトス此場合挿口間ニハ宜ク「モルター」ヲ詰メ込ミテ空隙ナカラシムヘシ而シテ過度寒熱雨露等ニ接觸セサル様蓆類ニテ覆ヒ置クヲ要ス尤モ湧水箇所ニテ此接手「モルタル」カ流失セラレ、虞レアルトキハ其接手ノ上ヲ木綿片ニテ充分能ク巻キ付ケ「モルター」ノ流失ヲ防禦スヘシ

前條「モルター」ヲ詰メ込ムニハ充分能ク行キ渡ラシムル様注意スルハ勿論殊ニ其底部ニハ一層ノ注意ヲ要ス而シテ此「モルター」ヲ餘リ軟ク煉ルトキハ「ソケット」ノ空間ニ堅ク詰込ムニ能ハサルヲ以テ其水分配合ノ調度ヲ計ルヘシ

接合用膠泥ハ最モ能ク注意シテ一時ニ貳ヶ所以上ニ必要ナル分量以上ヲ製造スヘカラス又如何ナル場合ト雖モ注水后三十分以上ヲ經過セルモノヲ使用スヘカラス

鉄筋混凝土管ノ接手ハ枕用混凝土ヲ据附ケタル後其上端ニ所要ノ「モルター」ヲ置キテ其上ニ接手ノ來ル様管ヲ馴染能ク据付ケ殘餘ノ部分ハ鏝ニテ充分「モルター」ノ附着スル様最モ丁寧ニ仕上クルモノトス

接合ヲ終リタル後チハ蓆類ニテ保護シ置キ一晝夜ヲ經過シタル後管ノ兩側ヘ土砂ヲ能ク搗キ込ミ管半徑ノ所迄ハ充分能ク注意シ兩側ヲ同時ニ其接合面ヲ損セサル様注意スヘシ而シテ夫レ以上ハ徐々ニ土砂ヲ埋戻シテ管ノ頂点ニ達セシム此埋戻ニハ蟄槌ヲ用ヰルヨリモ可成足ニテ能ク踏ミ固ムルヲヨシトス

而シテ其以上ハ深壹尺毎ニ搗キ固メテ漸次地盤面ニ達セシム

本管布設線ニ沿ヒ監督者ノ指定スル箇所ニ於テ各岐管ヲ接続シ之ヲ各戸下水枝管ニ連絡セシメ街渠下ニ達セシム而シテ此分岐管ヨリ連絡スル枝管ハ直ニ之ヲ埋設スルモノナリ又各戸下水管カ同時ニ布設セラレサル場合ハ街渠下ニ止メ其口ニハ板等ノ適宜ノモノヲ以テ覆ヒ土砂ノ浸入ヲ防キ置クヲ要ス

各戸下水枝管ノ勾配ハ本管ノ深サニ依リ異ルヲ以テ豫メ各戸下水道ノ延長及高低等ヲ參酌シテ本管ト接続セシムル相當ノ勾配ヲ有セシムルニ適當ナル様布設スヘシ

一ツノ人孔ヨリ起リテ次ノ人孔迄下水管ヲ布設シ來リタルトキハ其所ニテ管ノ整長ヲ要スヘシ此場合ニ全管ヲ用ヒテ人孔内ニ其管ノ突出スル所ハ土管ト土管ト接合ノ挿口ヲ切斷シテ用フヘシ
 卵形渠ヲ築造スルニハ所定ノ深サ及勾配ニ砂利ヲ敷キタル後基礎混凝土ヲ場所詰ニテ施工ス此基礎混凝土ノ配合ハ容積ニ於テ「セメント」一、砂三、砂利六トシ先ツ適量ノ砂ヲ煉臺上ニ置キ次ニ「セメント」ノ定量ヲ加ヘ四回以上混和シテ一樣ナル色彩ヲ呈セシメ次ニ砂利ノ定量及所定ノ水ヲ注加シ再ヒ四回以上混和シ混凝土ヲ製造スルモノトス但シ監督者ニテ混和不充分ト認ムルトキハ其充分ト認ムルニ至ル迄續行セシムルモノトス

混凝土用砂利ハ其太サ徑七分以下大小混合ノ比例宜敷キモノナルヘク砂ハ每平方吋ニ四十九孔眼ヲ有スル篩ヲ通過シタルモノナルヘク共ニ多角堅硬佳質ノモノニシテ泥土塵芥並ニ脆弱ナル粒塊ヲ混交セサルモノナルヲ要ス

混凝土ノ場所詰ハ基礎砂利ニ充分撒水シタル後行ヒ小蛸ノ類ヲ以テ水分ノ表面ニ滲出スル迄充分ニ搗キ固メタル後其表面ヲ不陸ナキ様奇麗ニ均シ本線ニ相當スル勾配ヲ保タシムヘシ

基礎混凝土ヲ場所詰トシ一週間ヲ經過シタルトキハ表面ヲ奇麗ニ掃除シ土砂塵芥等ヲ除去シタル後一、三ノ配合ヨリナル膠泥ヲ以テ其面ヲ均シ當所ヨリ供給スル混凝土塊ヲ疊積ス此場合ニ縦目地ハ凡テ半繼ニナラサル様圖面ニ從テ施工シ目地モ一、三配合ノ「モルタル」ヲ以テ最モ馴染能ク仕上クヘシ

混凝土塊ノ疊積ヲ了リタル所ハ側壁ノ上端ニ一、三配合ノ「モルタル」ニテ厚サ約三分ニ敷キ均シ上其ニ當所ヨリ供給スル鉄筋混凝土蓋ヲ馴染能ク据付クヘシ

目地用「モルタル」ハ注水後三十分以上經過シタルモノヲ使用セサル様製造分量ニ注意スルヲ要ス
 鐵筋混凝土蓋据付ノ際ハ其表裏ヲ取り違ヘサル様注意スルハ勿論運搬中モ尙ホ表面ヲ下向セサル様注意スヘシ

鉄筋混凝土蓋ノ各接合間ニハ配合一、三「モルタル」ヲ填充シ以テ土砂ノ渠内ニ落下セサル様施工スルモノトス

凡テ混凝土ノ場所詰及混凝土塊及混凝土蓋疊積据付ケ等ニ際シテハ葎類ヲ以テ覆ヒ直接過度ノ寒暑ニ暴露セサル様注意スルハ勿論嚴冬酷暑ノ季節ニハ一時施工ノ中止ヲ命スル而已ナラス既設工事ニ對シテ適當ノ撒水又ハ保温ノ方法ヲ取ラシムルコトアルヘシ

基礎混凝土ノ施工ニ當リ湧水ニ遭遇シ又ハ海水ノ浸入ヲ來ス等ノ場合ニハ監督者ノ指圖ニ從ヒ臨機ノ所置ヲ取り「セメント」ヲ流出セシメサラシムニ勉ムヘシ鐵筋混凝土蓋ノ据付ケヲ終リタル後埋戻ヲ施工スヘシ此場合ニハ尙管ノ埋戻ニ準シタル注意ヲ要スヘキモノトス

卵形渠築造ニ當リテハ枝管ヲ連絡スヘキ内徑四寸、五寸ノ土管ヲ所定ノ位置ニ布設スルヲ要ス此場合ハ當所ヨリ供給スル塊ヲ其場所ニ疊積シ管ノ場合ト同様ノ方法ニ依リ枝管ヲ布設スルヲ要ス

人孔ニテ支線ニ連絡スル場合ハ所定ノ位置ノ塊ヲ疊積スル代リニ適當ナル摸型ヲ設ケ其中ニ支線ノ管ノ外徑三寸ヲ加ヘタル圓筒ヲ据付ケ配合一、三、六ノ混凝土或ハ配合一、三、モルター」ヲ填充シ硬化後摸型ヲ取外シテ土管ヲ挿入シ其周圍ヲ同上ノ「モルター」ヲ填充スヘシ

下水管ノ埋戻ハ凡テ監督者ノ指揮ニ從ヒ各局部ノ検査後ニ非テサレハ埋戻ヲ施行スヘカラス

縣、町又ハ其他ノ施設ニ屬スル工作物カ下水道布設ノ爲メ不用ニ歸シタル時其舊材料ノ全部ハ監督員ノ指揮ニ從ヒ適當ナル場所へ運搬シ正シク積置クヘキモノトス

掘鑿ケ所埋戻シ完了後三日以内ニ殘土ノ全部ヲ取り去リ路面不陸ナキ様丁寧ニ切均シ仕上ヲナスモノトス又場合ニヨリテハ即日不陸全部ヲ急施セシムルコトアルヘシ

掘鑿土砂ハ監督員ノ指揮ニ從ヒ所屬工區又ハ隣區内ノ舊溝渠埋立又ハ道路ノ嵩置ニ運搬セシムヘシ尙監督員カ過剰不用ト見做シタル土砂ハ監督員ノ指揮ニ從ヒ三日以内ニ於テ區外ニ取捨ツヘシ此場合ニ於ケル捨場ノ費用ハ受負人ノ負擔トス

道路掘鑿中工事監督員ニ於テ仮橋架設ノ必要アリト認メタルトキハ監督員ノ指揮ニ從ヒ架設ノ義務アルモノトス但其費用ハ受負人ノ負擔トス

掘鑿中第三者ノ埋造工作物又ハ特種ノ障害物ニ逢着スルトキハ受負人ハ相當ノ保護工又ハ除却ヲ行ヒ其費用ハ受負人ノ負擔トス

受負人ハ施工上交通ヲ阻碍セス又沿道ノ民家ニ累チ及ホササルコトヲ旨トシ掘鑿ノ際ハ勿論殘土ノ整理ハ勤メテ迅速ニ處分シ尙其工法カ粗暴又ハ緩漫ナリト見做シタル時ハ之ニ對スル應急ノ處置ヲ町ニ於テ行ヒ其費用ヲ受負金額ヨリ控除スルコトアルヘシ

(二) 人孔築造仕様

人孔ニ五種アリ第一、深サ三尺五寸以下ノ長方形人孔第二深五尺以上ノ長方形第三圓形人孔第四、三尺徑管ニ用フル方形人孔、第五卵形渠共用人孔トス

第一種人孔ハ會合管徑壹尺五寸以下深サ三尺五寸以下ニシテ圓形人孔ヲ造クルニ不便ナル箇所ニ用フ

第二種人孔ハ會合管徑壹尺四寸以上ニシテ深サ五尺以上ノ箇所ニ用フ

第三種人孔ハ會合管徑壹尺二寸五分以下ニシテ深サ四尺以上ノ箇所ニ用フ

第四種人孔ハ會合管三尺徑ノモノニ用フ

第五種人孔ハ卵形渠共用ノ箇所ニ用フ

第一種人孔ハ基礎幅縱三尺九寸横三尺四寸ニシテ底ノ厚サ四寸内側縱貳尺五寸横貳尺トシ四方側壁ノ厚各部共四寸トシ側壁ノ外側ヨリ外部ニ出ツル「フーチング」ハ巾三寸厚サ五寸トス而シテ鐵蓋ノ内高寸法ヲ縱貳尺横壹尺五寸トナスヲ以テ長貳尺八寸巾壹尺四寸厚サ四寸ノ石材ヲ用ヒテ人孔口ノ一部

分チ塞キ其上ニ鐵蓋ヲ置キタル井路面上平均スル様ナスヘシ人孔ハ側壁及基礎部共配合一、三、六ノ「セメントコンクリート」ヲ用ヒ内部ハ底部及側壁共配合一、三ノ「セメントモルター」ニテ其表面ヲ塗抹スルコト各種人孔共一樣ナリトス而シテ鐵蓋ハ徑五分長六寸ノ「ホールト」ニテ側壁ニ締付クルモノトス

深サ五尺以上ノ第二種人孔ハ基礎部ニ於テ縱四尺四寸横三尺四寸トシ底部側壁及「フーチング」ノ巾厚等總テ第一種人孔ト同一ニシテ側壁四方共内部底ヨリ高サ貳尺五寸迄ハ垂直ニシテ夫ヨリ一方ノ側壁ノミチ傾斜セシメ路面ニ於テ縱貳尺横壹尺五寸ノ口タラシメ其上ニ鐵蓋ヲ取付クルコト第一種人孔ト同様

第三種圓形人孔ハ直徑四尺四寸トシ内側直徑三尺側壁及底部ヲ厚サ各四寸トス而シテ底面ヨリ傾斜セテ側壁ヲ作り恰カモ漏斗チ倒シタルカ如キ形トナスヘシ

而シテ路面ニ於テ内直徑貳尺トス底部ノ「フーチング」ハ突出巾三寸厚五寸トス而シテ最上部ニ内徑貳尺ノ鐵蓋ヲ取付ケ路面ト平均セシムルコト前條ト同様ナリトス

第四種人孔ハ基礎縱六尺五寸横四尺五寸トシ厚サ五寸内側縱四尺横二尺トシ四方側壁ノ厚サ各部共四寸トシ側壁ノ外側ヨリ外部ニ出ツル「フーチング」ハ巾二寸厚五寸トシ而シテ鐵蓋ノ内法寸法ヲ縱貳尺横壹尺五寸トナスヲ以テ長二尺九寸巾二尺八寸厚五寸ノ石材ヲ用ヒテ人孔口ノ一部分ヲ塞キ其上ニ

鐵蓋ヲ置キタルトキハ路面ト平均スル様ナスヘシ

第五種卵形渠共用ノ人孔ノ下部ハ卵形渠其儘ニシテ渠上端蓋石ト蓋石トノ間隙ヲ貳尺二寸開ケ一方ノ側壁ハ蓋石ノ上端マテ築造シ其上ニ厚サ五寸長サ三尺二寸巾ハ口ニ於テノ内側寸法縱二尺二寸横一尺八寸ヲ保タシムベキ石材ヲ用ヒテ塞キ夫レヨリ各壁共厚サ五寸ノ「コンクリート」ヲ以テ垂直ニ築造シテ路面ニ達セシメ内法縱二尺二寸横一尺八寸ノ鐵蓋ヲナシタル井路面ト平均スル様ナスヘシ

第一種及第四種第五種人孔混凝土用摸型ハ各箇所ニ從ヒ其場所限リノモノヲ適宜造リ据付クヘシ

前條外ノ各人孔ハ何レモ基礎部及側壁ノ垂直部ハ組立取外シ容易ノ半永久的ノ摸型ヲ造リ之ヲ反覆數回使用シ得ル様ナシ置キ夫レヨリ上部ハ其場所限リノ摸型ヲ造ルヘシ

人孔ニハ各種ノ下水管カ會合スヘシ故ニ混凝土摸型ヲ据付ケ「コンクリート」填充ニ際シ相當位置ニ於テ各會合管ニ相當スル太サノ管型又ハ雨水引入管型ノ挿入スルコトモ忘ルヘカラス而シテ其充分硬化ノ後内外型ヲ取り外シスルト同時ニ各管ヲモ取除キ其跡ニ相當管ヲ挿入シテ側壁トノ間隙ニハ充分能ク「コンクリート」ヲ填充スヘシ

管徑ノ穴型ハ接續スヘキ管ノ外徑ニ壹寸ヲ加ヘタルモノタルヘシ

長方形人孔ハ總テ其人孔ニ來ルヘキ各種會合管中最モ大管徑ヲ有スル下水管ノ方向ニ長徑ヲ直角ニ向ケテ築造スルモノトス

各人孔ニハ足掛金物ヲ取付ケルコトヲ要ス足掛金物ハ直高壹尺五寸毎ニ壹個ツ、左右交互ニ取付クルモノトス其取付クル位置ニ於テ凡ソ高二寸五分巾壹寸長サハ側壁ノ厚サト相等シキ木片貳箇ヲ一對トシテ内外徑間ニ混凝土填充ノ際挿入シ置キ混凝土硬化後内外型取外シテ後木片ヲ抜き取り其跡ニ金物両足ヲ挿入シ空隙ニハ混凝土ヲ填充スヘシ

人孔用混凝土ハ其配合共一、三、六トス砂及砂利ノ資質并ニ混凝土製造ニ關スル仕様ハ凡テ前述ノ條項ニ準スルモノトス

路面ニ取付クヘキ鐵蓋ハ人孔側壁混凝土カ路面下四寸ニ達シタルモハ左右ニ壹個ノ「ポールト」ヲ挿入スヘキ穴ヲ設クル爲メ徑壹寸内外ノ木片ヲ以テ混凝土ヲ填充ノ際深サ五寸内外ノ孔ヲ作り置キ混凝土側壁ノ充分能ク硬化後混凝土摸型ヲ取外シテ後先キニ設置シタル左右貳個ノ孔ニ「ポールト」ヲ挿入シ間隙ニハ膠泥ヲ填充シ座枠ニ能ク適合セシメ後締付クヘシ

人孔混凝土摸型ハ混凝土填充後少ナクモ壹週間ヲ經過シタル後ニアラサレハ取外スヘカラス又周圍ニ土砂ヲ埋築戻サナスニハ必ス拾日以後タルヘシ

人孔鐵蓋ハ總テ其高サ四寸アルヲ以テ人孔ノ側壁混凝土ハ路面下四寸マテ築造スヘシ而シテ鐵蓋枠ヲ取付ケルニハ側壁混凝土上端面ニ配合一、三膠泥ヲ敷キ其上ニ鐵蓋枠ヲ据付ケ側壁混凝土ト枠ノ下面トヲ充分能ク適合セシメ重荷ノ通過ニ際シ枠ノ破損又ハ動搖セサル様勉ムヘシ

鐵蓋ノ取付ケヲ終リタルモ其周圍ニ巾五寸或ハ四寸ノ花崗石ヲ用ヒテ縁石トス縁石ハ其表面及鐵蓋ニ接スル面及合端ハ小叩トシ其他ハ荒鑿切リトス而シテ鐵蓋ニ接スル部分及目地ハ二分笑ヒトシ配合一、三膠泥ヲ用ヒテ馴染能ク据付ケ尚縁石ノ外部ハ一、三、六ノ配合ヨリナル混凝土ヲ用ヒテ圖面ニ示ス如ク手際ヨク縁石ヲ包圍シテ填充シ以テ其動搖ヲ防クヘシ

蓋石ハ人孔側壁ノ天端ニ接スル部分并ニ鐵蓋ニ接スル部分ハ上鑿切リトシ其他ハ凡テ荒鑿切トス而シテ配合一、三ノ膠泥ヲ用ヒ最モ馴染能ク据付ケ猶鐵蓋取付ニ備フル爲メ所定ノ場所ニ適當ナル「ポールト」孔ヲ穿鑿スルモノトス

蓋石并ニ縁石ニ用フル石材ハ堅硬緻密ナル花崗石ニシテ腐蝕ノ憂ヒナク山庇切庇又ハ筋目等ナキ良質ノモノナルヲ要ス

人孔内面ノ膠泥塗抹ハ混凝土カ充分能ク硬化後ニ於テナスヘシ其厚サハ二分以上トス

(ホ) 燈孔築造仕様

燈孔ヲ築設スヘキ位置ニ至レハ之レニ直立分岐管(分岐管ハ徑七寸トス)ヲ接続シ其分岐管ヲ直立ニ上向トナシ之レニ内徑七寸土管ヲ垂直ニ接続シテ路面下三寸乃至五寸ニ達セシムヘシ而シテ路面下壹尺壹寸ノ箇所ヨリ厚サ三寸ノ基礎砂利ヲ用ヒ其上ニ土管ト相接觸セサル様圖面ニ示ス如ク圓形ニ混凝土

土基礎ヲ作り之ニ鐵蓋ヲ据付ケ更ニ鐵蓋ト接シテ緣石ヲ設ケ其上端ハ路面ト一樣ニシテ猶緣石ノ周圍ハ配合一、三、六ノ混凝土ヲ以テ圖面ニ示ス如ク圍繞ス而シテ鐵蓋取付ニハ別ニ「ボールド」ヲ用ヒス緣石ノ石質并ニ細工等ハ凡テ人孔緣石ノ仕様ニ準スルモノトス

燈孔築造ニ要スル遣型ハ人孔築造ニ際シテ設クルモノニ準スヘキモノトス而シテ遣型ハ測点ヨリシテ中心点ヲ定メ垂直管ニ接續チナスニ當リテハ其中心点ヨリ下ケ振りヲ吊下シテ宜シク其向ヲ正スヘキコトヲ要ス

燈孔用垂直管ハ其接手ヲ作ルコト下水管ト同様ニナスヘシ

(へ) 街渠築造仕様

街渠ニ二種アリ第壹種ハ渠巾八寸ニシテ第貳種ハ渠巾五寸トス、共ニ別紙圖面ニ示ス如シ

街渠ヲ築造スルニハ左ノ階級ニ分チ施工スルモノトス

第壹築造 築造トハ街渠ヲ設ケントスル位置ニ當リ全ク在來ノ街渠ナキ箇所ナルカ又ハ在來ノ街渠ノ石材ニシテ使用ニ耐ヘサル箇所ニ設クルモノニシテ其下部ハ凡テ壹尺堀鑿シ其下ヲ能ク搗固メ家屋側ノ石材ヲ据付ケ厚サ壹寸ノ混凝土ヲ敷キ其上ニ家屋側ノ石材ヨリ八寸又ハ五寸ノ間隙ヲ保チテ家屋側ノ石材ノ天端ヨリ二寸以上低下シテ据付ケ其間ニ半徑四寸二分又ハ二寸五分ノ圓弧ヲ保チ道路側石材

上端ヨリ壹寸低下ニ服部混凝土ヲナスヘシ而シテ所定ノ形狀及ヒ厚サニ服部混凝土ヲナシタル後其上ニ厚サ壹尺壹寸ノ火山灰「モルタル」ヲ厚薄ナク一樣ニ塗抹シ圖面ニ示ス如キ寸法ヲ保タシムヘシ

第貳改築 改築トハ在來ノ石材ニシテ側石トシテ充分使用ニ耐ヘ可キ箇所ニテ先ツ在來ノ石材ヲ使用シ築造ハ同様ノ方法ニ依リ街渠ヲ築造スルモノトス

第三修築、修築トハ在來ノ側石ハ充分使用ニ耐ユルノミナラス整然トシテ別ニ之レヲ補修スルノ必要ナキ箇所ニテ只底張りノミヲナス所トス

築造、改築、修築ノ區別ハ別紙街渠築造表ニ依ルモノトス但シ築造表築造改築修築ノ箇所ハ總延長ヲ變セサル範圍内ニテ當所監督者ノ指圖ニ依リ隨時流用スルコトアルヘシ

街渠ハ道路ノ片側若シクハ兩側ニ設ケ其勾配ハ監督者ノ指圖ニ依リ地形ニ從ヒテ適宜ニ定ムヘキモノトス

街渠ノ第壹種ナルカ第二種ナルカ又ハ片側ナルヤ或ハ兩側ナルヤ及其他築造改築修築ノ何レニ屬スヘキカハ別表街渠築造表ニ依リ施行スルモノトス

街渠築造ニ用フル延石ハ凡テ荒鑿切リトス

側石ハ其質緻密佳良ノモノニシテ壹個ノ長サハ六尺以上ノモノナルヲ要シ當所監督者ノ檢閲ヲ經タルモノナルヘシ

街渠工事ニ當リテハ成ルヘク人家商店ニ迷惑ヲ及ボササルニ勉ムヘキハ勿論傭人ノ不注意其他工事施工上ノ不注意ニ依リ商品或ハ器具家財等ニ損害ヲ及ボシタルトキハ受負者ハ辨償ノ責ニ任スヘキモトス

(ト) 雨水取入枳築設仕様

雨水枳ヲ所定ノ箇所ニ設置スルニハ所定ノ巾深ニ掘鑿チナシ之レニ厚サ三寸ノ基礎砂利ヲ敷キ充分能ク搗キ固メタル後所要ノ方向ニ向ツテ雨水枳ヲ据付クヘシ而シテ基礎砂利ト能ク適合スル様其安全ニ注意スヘシ

雨水枳ヲ据付ノ後ハ安全ニ土砂ヲ以テ其周圍ヲ充分能ク搗キ固メ埋戻シチナシ而シテ後街渠ト連絡スヘシ

雨水枳ト人孔又ハ本管トノ連絡ハ内徑五寸土管ヲ用ヒ雨水枳据付ト同時ニ布設スヘシ
雨水枳ハ街渠ノ終端又ハ其途中直下ニ布設スルモノニシテ街渠底部ノ勾配ハ此雨水枳ニ向ツテ漸次底下シ雨水ノ集合ニ便ナラシム可ク蓋金物ハ圖面ニ示ス如キ平面形ナルヲ以テ街渠底部トノ取合セハ相當ノ彎曲ヲ付シ手際ヨク取付クヘシ

雨水取入枳ニハ第壹種及第貳種ノ貳種アリ夫レ夫レ第壹種及第貳種街渠ニ依リテ其取付ヲ決定スヘシ

雨水取入枳設置ノ種類并ニ個數ハ凡テ別表ニ依リ施工スルモノトス
但シ位置ハ施工ノ際工事主任ノ指定ヲ待ツテ決定スルモノトス

(チ) 吐口築造仕様

吐口ハ下水ノ下流最後ノ人孔ヨリ適當ナル距離ニテ設クルモノニシテ各小區ニ依リ各其構造ヲ異ニス大別シテ左ノ二種トス

第壹 外海吐口
第貳 港内吐口

外海吐口ハ圖面ニ示ス如ク吐口人孔ヨリ相當ノ距離ヲ距テ鏡面石垣ヲ設ケ其左右ニハ地形ニ應シ相當ノ袖石垣ヲ設ケ而シテ袖石垣ト袖石垣トノ間ハ底張チナス鏡面石垣ハ凡テ扣尺二寸ノ間知石布積トシ袖石垣ハ扣尺二寸間知石谷積トス而シテ底張石ハ割石ヲ用フルモノトス
港内吐口ハ概シテ既設石垣ニ吐口ヲ有スルモノナルヲ以テ吐口築造ニ當リテハ先ツ既設石垣ヲ一旦破壊シテ所定ノ場所ニ達シタルトキハ土管ヲ据付ケ其周圍ヲ五寸厚ニ配合一三六ノ混凝土ヲ以テ包繞シ混凝土ノ硬化ヲ待ツテ先キニ破壊セル石垣ヲ再ビ築造シテ舊形ニ復セシム
卵形渠吐口築造ハ圖面ニ示ス如ク先ツ渠底ヲ相當ノ深サニ掘鑿シタル後末口三寸長三尺ノ生松丸太ヲ

貳尺毎ニ二列ニ打込ミ次ニ其頂部ヲ切り揃ヘテ其上ニ末口四寸ノ生松丸太ヲ取り着ケ胴木トス胴木ノ繫キハ猶末口三寸ノ生松丸太トス次ニ基礎ヨリ凡テ四尺ノ高サ迄ハ扣尺五寸ノ間知ヲ用ヒ其レヨリ地盤面ニ至ル迄ハ扣尺二寸ノ間知ヲ用ヒ石垣面ハ約貳分ノ勾配ヲ保タセテ布積ニテ築造スルモノトス而シテ卵形渠ノ混泥土塊ト接スル部分ハ最モ注意シ馴染能ク積上ケルモノトス
石垣ノ高サ及中等ハ夫レ夫レ地形ニ應シ工事主任ノ指示ニ依リ施工スルモノトス

(リ) 引入口築造仕様

第三小區第八小區第九小區第十小區及第十四小區ノ上流ハ夫レ夫レ在來雨水溝ニ連絡スルヲ以テ最上部ニ於テ引入口ヲ設備スルモノトス
第三小區及第八小區ノ引入口ハ圖面ニ示ス如ク最上流ノ人孔ヨリ相當ノ距離ニ管ヲ布設シタル後扣尺、二ノ間知石布積ヲ以テ地形ニ應シ工事主任ノ指示ニ依リ相當ノ袖石垣ヲ築造シ猶引入口ノ前部ニハ配合一、三、七ヨリナル混泥土ヲ以テ圖面ニ示ス如ク泥溜ヲ設ケ夫レヨリ張石ヲ以テ現在ノ渠底ニ連絡ス而シテ引入口ノ前面ニハ圖面ニ示ス如ク芥除ノ設備ヲナス
第九小區ノ引入口ハ圖面ニ示ス如ク基礎ニ留杭及胴木ヲ設ケタル後卵形ノ周圍鏡面石垣ハ間知ノ布積ニテ築造シ袖石垣ハ間知谷積ニテ築造スルモノトス而シテ引入口ノ前部ハ配合一、三、七ヨリナル泥溜

ヲ設ケ夫レヨリ張石ヲナシテ現在ノ渠底ニ連絡セシム猶引入口ハ豁流ノ方向ト直角ニ交ルヲ以テ豁流ノ突キ當ル側ノ袖石垣ハ煉積トシ其他ハ凡テ空積トス引入口ノ前面ニハ圖面ニ示ス如キ芥除ケノ設備ヲナス
第拾小區及第拾四小區ノ引入口モ第九小區ノ引入口ト大同小異ニテ引入口ハ豁流ノ方向ト一致スルヲ以テ袖石垣ハ凡テ間知空積ノ儘ニテ差支ナキモノトス石垣築造ニ關シ施工上ノ注意ハ凡テ吐口石垣ニ準スルモノトス

(ヌ) 雜

工事用材料并ニ用具ハ凡テ工事主任ノ檢閲ヲ經タルモノニアラサレハ一切使用スヘカラス
凡テ工事用材料ハ一旦見本ヲ提出シ工事主任ノ檢査ヲ受ケ爾后其見本ト同等以上ノモノヲ提供スヘキモノトス
工事用具中計量ニ關スルモノハ特ニ注意シ施工前一々工事主任ノ檢査ヲ經タルモノニアラサレハ使用スヘカラス

工事用材料并ニ用具ノ檢査又ハ試驗ニ要スル費用ハ一切受負人ノ負担トス
檢査又ハ試驗ノ結果不合格品ヲ生シタルトキハ當工事主任ノ指定スル期限内ニ取替ヲナスヘキモノト

ス此場合ニハ指定ノ期限内ニ不合格品ヲ持去ラシムルモノトス
 材料ノ持込込ミニハ特ニ注意シテ工事工程表ノ日限ヲ遅延セサルニ勉ムヘシ
 施工後外部ヨリ検閲スルコト能ハサル工事ハ施工當時一々監督者ノ立會ヲ要スヘキハ勿論工事主任ノ
 検閲ヲ經サルニ先タチ埋戻シヲナスヘカラス
 混凝土ノ混合及詰方ニ當リテハ最モ丁寧ニ施工シ一々監督者ノ指揮ニ從フヘキモノトス
 設計書ニ仕様書並ニ圖面及附属書類ニ明示セサル事項ト雖モ工事情質上當然欠クヘカフサルモノハ受
 負人ノ負担トシ監督者ノ指示通り無償納付施工セシムルモノトス
 受負者ハ契約締結ノ日ヨリ三日以内ニ工事行程表ヲ提出シテ工事主任ノ検閲ヲ受ケ爾後其工程ニ依リ
 施工スルモノトス

ル) 鉄筋混凝土管製作仕様

- 一、鉄筋混凝土管ハ内徑三尺、二尺五寸、二尺及一尺五寸ノ四種トス
- 一、鉄筋混凝土管製造ハ夫レ夫レ管徑ニ應ジテ圖面ニ示ス如キ鉄筋ヲ間隔三寸二分毎ニ輪形ニナシ縱
 鐵筋ニ二十番線ヲ以テ堅固ニ緊着シタルモノヲ模型内ニ定置シ混凝土ヲ填充スルモノニシテ混凝土
 ノ硬化後模型ヲ取外シ蕪類ヲ以テ覆ヒ過度ノ寒暑雨露等ニ暴露セシメス且ツ乾燥ノ節ハ日々撤水ヲ

ナシテ蕪類ヲ掩ヒ管ニ龜裂又ハ氷結セサル様注意シ製造後十五日以上ヲ經過スルニ非ラサレハ場所
 ノ移動ヲ許サス而シテ現場ニ使用スルニハ製造後三十日以上ヲ經過シタルモノトス

- 一、混凝土配合ハ容積ニ於テセメント一、砂二、砂利四トシ先ツ適量ノ砂ヲ煉臺上ニ置キ次ニ「セメ
 ント」ノ定量ヲ之レニ加ヘ四回以上混和シテ一樣ナル色彩ヲ呈セシメ次ニ砂利ノ定量及ヒ所定ノ水
 ヲ注加シ再ヒ四回以上混和シテ混凝土ヲ製造スルモノトス

- 一、混凝土用砂利ハ五分以下ノモノナルヘク砂ハ每平方吋ニ四十九孔眼ヲ有スル篩ヲ通過シタルモノ
 ナルヘク共ニ多角堅硬佳質ノモノニシテ蘆芥又ハ脆弱ナル粒塊ヲ混入セサルモノナルヲ要ス

- 一、混凝土ノ填充ニ際シテハ一層ノ厚サ五寸以上ヲ超過セサル様注意シ鐵棒或ハ槍製ノ小蝟ニテ水分
 ノ充分表面ニ滲出スルニ至ル迄搗キ固メタル後次層ノ混凝土ヲ填充スルモノトス搗キ固メノ際ハ鐵
 筋ノ位置ヲ變動セサル様注意シ且ツ混凝土ヲシテ成ルヘク鐵筋ノ周圍ニ行キ渡ラシムルニ勉ムヘシ
- 一、模型組立ニ際シテハ其内面ニ油類(石油ト重油ノ混合セルモノ)或ハ石鹼水ヲ塗抹シ以テ模型取
 外シノ際混凝土ノ附着ヲ免レシムヘシ

- 一、鐵筋ハ強勁鍛延性ノモノニシテ腐蝕又ハ鍛痕等ノ瑕瑾ナク等質ノモノタルヘシ每平方吋ニ付五万
 封度以上ノ破壊抗張強ヲ有シ伸長ハ長サ十吋ニ付百分ノ二十以上ナルヘク又強脆ニ於テ角度百八拾
 度ニ屈曲シ些少ノ罅裂ヲ呈セサルモノヲ要ス

- 一、摸型ハ別紙圖面ニ準シテ製作スルモノトス
- 一、混凝土管製作ニ當リ各戸取付土管ノ挿入ニ備フル爲メ管側ハ圖面ニ示ス如キ圓孔ヲ穿ツテ要ス其個數ハ製作ニ際シ工事主任ノ指示ニ從ヒ決定スルモノトス
- 一、摸型及臺型ノ個數ハ製造スル管數摸型取外シ時間並ニ工事日限ニ依リテ決定スルモノニシテ工事主任ノ指圖ニ依リ豫メ指定ノ個數ヲ製作スルモノトス
- 一、摸型取外シハ混凝土填充後四十八時間ヲ經過シタル後ニアラサレハ施行ス可カラス而シテ混凝土填充後六日間ヲ經過スルニアラサレハ管ノ移轉ヲ許サス
- 一、摸型ヲ取外シタル時ハ一々監督者ノ檢閲ヲ請ヒ左ノ各項ニ相當スルモノハ直ニ破壊シテ改造スルモノトス

- (1) 指定ノ形狀並ニ寸法ヲ有セサルモノ
- (2) 砂利ノ表面ニ露出シ又ハ摸型組立ノ不可ナル爲メ表面ノ平滑ナラサルモノ又ハ罅裂欠角等アルモノ
- (3) 以上ノ外著シキ欠点アリテ工事使用ニ耐ヘスト認メタルモノ
- 一、合格品ハ蕭類ヲ以テ蔽ヒ移轉スル迄ハ日々撒水ヲ施行スルモノトス
- 一、受負者ハ管ヲ現場使用ノ爲メ運搬スルニ至ル迄ハ製造工場内ニ保管シ置キ時々檢閲ヲナシ保管ノ責ニ任ス可キモノトス

(ナ) 混凝土塊及鉄筋混凝土蓋製作仕様

- 一、四尺徑及五尺徑卵形渠ニ使用スル混凝土塊ハ夫レ夫レ七種ニシテ其形狀及寸法ハ別紙圖面ニ示ス如シ
- 一、混凝土塊製造ニ當リテハ先ヅ臺型上ニ摸型ヲ組立テ其ノ内面ニ刷毛ノ類ニテ油類(洗石鹼ト重油トノ混合油)又ハ石鹼溶液ヲ塗抹シタル後之レニ混凝土ヲ填充スルニ當リテハ成ル可ク摸型ニ投ケ付ケル様ニシ一層ノ厚サ五寸以下トシ次ニ槍又ハ樫等ニテ製造セル小蝟ヲ以テ水分ヲ表面ニ滲出スルニ至ル迄充分ニ搗キ固メ以テ摸型取外シノ後砂利ノ表面ニ露出セルモノナカラシメ而シテ混凝土詰込ミヲ了リタル時ハ鏝類ヲ用ヒ表面ニ砂利ノ露出ナキ様充分注意シテ天端ヲ均スヘシ
- 一、摸型ハ混凝土填充後二十四時間以上ヲ經過スルニアラサレハ取外スコトヲ得ス摸型ヲ取外シタルトキハ塵等ノ類ニテ之レヲ覆ヒ直接日光雨露ニ暴露セサラシム且ツ乾燥ノ節ハ日々撒水ヲ行ヒテ混凝土ニ龜裂ナカラシム而シテ混凝土填充後一週間以上ヲ經過スルニ非ラサレハ塊ノ轉置ヲ許サス据付ハ一ヶ月以上ヲ經過シタルモノトス

一、混凝土ノ配合ハ容積ニ於テセメント一、砂三、砂利七ノ割合トシ先ツ適量ノ砂及ヒ「セメント」ヲ煉臺上ニ置キテ之ヲ四回以上混和シテ一樣ナル色彩ヲ呈セシメ次ニ砂利及水ヲ加エ再ヒ四回以上混和シテ混凝土ヲ製スルモノトス

一、混凝土用砂利ハ其太サ三分以上二寸以下大小混合ノ比例宜敷モノタル可ク砂ハ垂平方吋ニ四十九孔眼ヲ有スル篩ヲ通過シタルモノナルヘシ共ニ堅硬佳質ノモノニシテ泥土塵芥並ニ脆弱ナル粒塊ヲ混交セサルモノナルヲ要ス

一、混凝土塊製造ニ當リ各戸取付枝管ニ備フル爲メ土管ノ徑ニ相當スル穴ヲ設ケタル特種塊ノ製造ヲ要ス其種類及個數ハ凡テ施行ノ際工事主任ノ指示ニ依ルモノトス

一、工事施工ニ當リテハ豫メ塊ニ相當スル検査器ヲ作り置キ模型取外シノ後一々塊ノ正形ナルヤヲ検査スルヲ要ス同時ニ砂利ノ表面ニ露出ノ程度等ヲモ検査シ工事使用ニ耐フルヤ否ヤヲ決定スルモノトス

一、鐵筋混凝土蓋ハ尙ホ四尺徑及五尺徑卵形渠ニ使用スルモノニシテ二種アリ共ニ別紙圖面ニ示スガ如シ

一、混凝土ノ配合ハ容積ニ於テセメント一、砂二、砂利四ノ割合トシ砂利ハ大サ二分以上六分以下ノモノトス

一、鐵筋ハ「ツイステットバー」(角鐵棒ヲ振チタルモノ)トシ強勁鍛延性ノモノニテ腐蝕或ハ鍛接等ノ跡ナキ等質ノモノナルヘク每平方吋ニ付五萬封度以上ノ破壞抗張強ヲ有シ伸長ハ長サ十吋ニテ百分ノ二十以上ナルヘク又氣温ニテ角度百八十度ニ屈曲シテ些少ノ罅裂ヲ生セサルモノナルヘシ

一、鐵筋混凝土蓋製造ニ關スル凡テノ仕様ハ混凝土塊製造ノ仕様ニ準スルモノトス

一、模型ハ凡テ圖面ニ準シテ製作スルモノトス

第三章 施行機關

(一) 事務所設置

下水道事務所ハ本町役場接續家屋(町會議事堂)ヲ修理シテ之レニ充用シ次記ノ諸規程ヲ制定シ町會議員中ヨリ七名ノ施行委員ヲ設ケ重要事件ハ委員會ノ協賛ヲ經テ施行セリ

(二) 諮問委員

明石町規則第二十九號

明治四十四年十一月十一日

臨時明石町下水道築造諮問委員規定

- 第一條 本町ニ臨時下水道築造諮問委員(町村制第六十九條)二十一名ヲ置ク
- 第二條 臨時下水道築造諮問委員ハ町會ニ於テ町公民中撰舉權ヲ有スル者ヨリ之レヲ撰舉ス
- 第三條 臨時下水道築造諮問委員ハ工事施行及監督ニ關シ町長ノ諮問ニ答ヘ又ハ意見ヲ陳述ス
- 第四條 臨時下水道築造諮問委員ハ下水道築造事務所又ハ工場ニ於テ出務スルコトアルヘシ
- 第五條 臨時下水道築造諮問委員ハ其出務日數ニ應シ一日金五拾錢ノ實費辨償ヲ支給ス

第六條 臨時下水道築造諮問委員ハ工事成功後職務終了ノ日ヲ以テ解任スルモノトス

附 則

本規則ハ下水道築造事務所開始ノ日ヨリ施行ス

(三) 吏員定員

明石町規則第三十號

明治四十四年十一月十一日定
大正二年三月十四日更正

明石町下水道築造吏員定員

顧問	壹名
技師	貳名
內壹名技師長トス	
書記	貳名
外町書記ヨリ兼務ス	
技手	六名
助手	四名
吏員定員	

(四) 吏員俸給額并支給方法

明石町規則第參拾壹號

明治四十四年十一月十一日

明石町下水道築造吏員俸給額及支給方法

第一條 明石町下水道築造吏員ノ俸給ハ左記ノ額ニ依ル

顧問 (追テ定ム)

技師 年俸六百圓以上千五百圓以下

書記 月俸拾五圓以上五拾圓以下

兼務町書記 月手當金拾圓以下

技手 月俸貳拾五圓以上五拾圓以下

助手 月俸貳拾圓以上參拾五圓以下

第二條 前項俸給及手當金支給方法ハ明石町有給吏員俸給支給方法ニ依ル

(五) 吏員旅費額并支給方法

明石町規則第三十二號

明治四十四年十一月十一日

明石町下水道築造吏員旅費額及支給方法

第一條 明石町下水道築造吏員ノ旅費ハ左記ノ額ニ依ル

一、顧問及技師ノ旅費ハ明石町名譽職ノ旅費額トス

二、書記及技手其他吏員ノ旅費ハ明石町書記ノ旅費額トス

第二條 前項旅費ノ支給方法ハ明石町旅費支給方法ニ依ル

旅費額 (町規程抜抄)

名	稱	汽車一哩毎ニ	船賃一海里毎ニ	車馬一里毎ニ	宿泊料一夜毎ニ	日當一日毎ニ
名譽職員	五	錢	五	錢	貳拾錢	壹圓五拾錢
書記	四	錢	五	錢	拾五錢	壹圓
收入						六拾錢

(六) 吏員月手當金支給規程

明石町規則第三十三號

明治四十四年十一月十一日定
大正二年三月十四日更正

明石町下水道築造吏員月手當金支給規定

第一條 明石町下水道築造吏員ニハ其勤務ノ狀況ヲ斟酌シ左記ノ月手當金ヲ支給ス

吏員月手當金支給規程

顧問報酬 賞與并手當支給規程

技師ハ一ヶ月拾五圓以上參拾圓以下

技手ハ一ヶ月五圓以上拾五圓以下

事務書記並ニ助手ハ貳圓以上七圓以下

第二條 前項手當金ノ支給方法ハ明石町有給吏員俸給支給方法ニ依ル

(七) 顧問報酬

明石町規則第三十六號

明治四十五年三月六日

明石町下水道築造顧問報酬

年額金六百圓

(八) 賞與并手當支給規程

明石町規則第三十七號

明治四十五年四月一日

明石町下水道築造事業ニ從事スルモノノ賞與並ニ

手當支給規程

第一條 下水道築造事業ニ從事スルモノニシテ事務上功勞アルモノハ吏員ハ七月ニ於テ月俸半ヶ月分

以內十二月ニ於テ月俸一ヶ月分以內傭人ハ七月及十二月ニ於テ日給額十五日分以內ノ金額ヲ賞與ス

第二條 一ヶ年以上勤績ノ吏員ニシテ職務ノ爲メ死亡スルトキハ月俸六ヶ月分以內病死スルトキハ月

俸一ヶ月分以內雇人ニシテ職務ノ爲メ死亡スルトキハ日給九十日分以內病死スルトキハ日給拾五分

以內ヲ其遺族ニ給與スルモノトス

第三條 吏員ニシテ公務ノ爲傷痕ヲ受ケタルトキハ療養中其費用トシテ一日金貳圓以內ノ金員ヲ支給

ス

第四條 吏員及雇人ニシテ自己ノ便宜ニヨラス事業ノ都合ニ依リ解職スルトキハ在職中功勞アルモノ

ニ限リ町長ニ於テ相當賞與金ヲ給與スル事ヲ得

(九) 雇人死傷手當規程

明石町規則第三十八號

明治四十五年四月一日

明石町下水道工事ニ使役スル工夫職工人夫死傷

手當規程

第一條 明石町下水道工事ニ使役スル工夫職工人夫ニシテ工事ノ爲メ死傷スルトキハ一時ノ手當ヲ給
ス其傷痕ノ輕重ヲ分テ左ノ五等トス

雇人死傷手當規程

- 一等 重傷死ニ至ル者
- 二等 重傷死ニ至ラサルモ終身自用ヲ辨スル能ハサル者
- 三等 自己ノ動作ヲ得ルト雖モ終身勞働ヲ爲シ能ハサル者
- 四等 勞働ヲ爲シ得ルモ身体ヲ毀傷シテ舊ニ復ルコトヲ得サルモノ
- 五等 身体ヲ毀傷スルト雖モ一時ノ治療ヲ以テ舊ニ復スルコトヲ得ルモノ

第二條 手當ヲ分テ療養弔慰遺族扶助ノ三種トス

- 一、一等傷ニ係リ死スルモノハ療養料扶助料及弔慰料ヲ給ス扶助料ハ家族ナキモノニハ給セス最モ家族ナキ者ト雖モ其死者ニヨリテ生計ヲ營ミ來リタル遺族アレハ之レヲ給スヘシ但即死シテ治療ヲ受ケサル者ニハ療養料ヲ給セス其療養中全ク他病ノ爲メニ死シタルモノニハ扶助料ヲ給セス
- 二、二、三、四等ノ傷ニ罹ル者ハ扶助料療養料ヲ給スベシ
- 三、五等傷ニ罹ルモノハ療養料ヲ給スヘシ
- 第三條 療養料ハ三十日以内ニ於テ其療養ニ要セシ實費ヲ給ス

但シ此ノ制限ヲ超ユルト雖モ其ノ情狀ニヨリ尙ホ支給スルコトアルヘシ

第四條 扶助料及弔慰料支給額左表ノ如シ

弔慰料	一等	二等	三等	四等
扶助料	五拾圓以内	四拾圓以内	參拾圓以内	貳拾圓以内

第五條 請負者ノ供給ニ係ル臨時使用セル職工人夫タリトモ當所指揮ノ許ニ服從セルモノニシテ各等ニ該當スルモノアルトキハ實際ノ狀況ヲ審査シ此規定ノ半額以内ヲ給スルコトアルヘシ

(十) 工事受負又ハ物件購買貸借處辦法

明石町規則第三十九號

明治四十五年四月一日

明石町下水道工事請負又ハ物件購買貸借處辦法

下水道築造工事ニ限リ左ノ場合ニ於テハ競争入札ニ附セス町長ニ於テ隨意ノ契約ヲ爲ス事ヲ得

但別ニ設ケタル委員ト協定スルモノトス

- 一、壹人又ハ一會社ニテ專賣スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、時
- 二、特種ノ物品其製産者又ハ製造者ヨリ直接買入ル、時
- 三、土地建物ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其位置又ハ構造等ニ限リアルトキ

工事受負又ハ物件購買貸借處辦法

- 四、追加工事ヲ前請負者ニ請負ハシムルトキ
- 五、職工人夫等ヲ傭役スル時
- 六、百圓未滿ノ工事受負又ハ物品ノ買入レ及修繕ヲナス時
- 七、再度入札ニ付シ入札者三名ニ滿タサル時又ハ豫定價格ヲ超過シタルトキ
但シ豫定價格及其ノ他ノ條件ヲ變更スルヲ得ス

(二) 工事受負規則

(町工事全般ニ適用ノモノ)

明石町規則第四十號

明治四十五年四月一日

明石町工事受負規則

- 第一條 工事ノ請負ハ一般競争入札又ハ指名競争入札ニ付スルモノトス
但一廉ノ工事金百圓未滿ナルトキハ隨意契約ヲナスコトヲ得
- 第二條 工事ノ入札ニ加ハラントスル者ハ貳ケ年以上工事受負ニ從事シ尙該業ヲ繼續スル市區町村長又ハ稅務署ノ証明書ヲ入札場ニ差出シ入札保證金ヲ納付スルモノニ限ル
町長ニ於テ特ニ必要ト認メタルトキハ前項ノ外尙其資格ヲ制限スルコトアルヘシ
但本町工事請負ニ從事シ其義務ヲ果サ、リシ者ニシテ滿貳ケ年ヲ經過セサル者ハ其資格ナキモノトス

トス

- 第三條 一般競争入札ハ其期日少クモ五日前ニ本町揭示場又ハ其他ノ方法ニ依リ公告スルモノトス
- 第四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ掲クルモノトス
 - 一、入札ニ付スヘキ工事ノ種類及關係書類縱覽場所
 - 一、入札執行ノ場所日時
 - 一、入札保證金額
 - 一、工事着手及成功期限
 - 一、擔保期限
 - 一、入札者ノ資格
- 第五條 指名競争入札ハ工事ノ性質其他ノ場合ニ於テ一般競争入札ニ付スルヲ不得策ト認ムルトキハ三名以上ヲ指名シテ入札セシムルモノトス
- 第六條 入札ハ關係書類及現場熟知ノ上第一號書式ニ依リ本人自ラ差出スヘキモノトス若シ他人ニ代理セシムルトキハ必ス委任狀ヲ携帶セシムヘシ
- 第七條 入札ハ公告ニ示シタル場所及日時ニ入札人ノ面前ニ於テ開札シ豫定價格以內最低ノモノヲ以テ落札者ト定ム

但左ニ掲ケタル入札ハ無効トシ直ニ棄却スヘシ

- 一、入札書中必要ノ文字誤脱若クハ判明セサルモノ又ハ調印ナキモノ
- 一、入札書ニ意見若クハ契約ケ間敷事項ヲ記入シ爲メニ双方ノ趣旨ニ抵觸スルモノ
- 一、豫定價額半額以下ノモノ
- 一、入札保証金額不足ナルモノ

一、開札ニ立會ハサルモノ、入札

第八條 入札人三名以上ナキトキハ開札セス此ノ場合ニ於テハ其入札及己ニ納入ノ保証金ハ直ニ本人ニ還附シ更ニ入札ノ手續ヲナスヘシ同一事項ニシテ公告二回以上ニ及ヒ猶入札人三名ニ達セサルトキハ特ニ該工事ニ限り隨意契約ヲ爲スコトヲ得

第九條 落札トナルヘキ同價格ノ入札數名アルトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第十條 競争ノ落札者第十四條ノ期限内ニ受負請書ヲ差出サ、ルトキハ其落札ハ無効トシ更ニ入札ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其入札保証金ハ町ノ所得トス

第十一條 入札保証金ハ開札ノ上直ニ之ヲ還附ス其落札者ニ係ルモノハ請負保証金納付済ノ上還附スヘシ

第十二條 入札人ハ本則及關係書類現場等ヲ熟知セサルノ故ヲ以テ入札後ニ至リ一切故障ヲ申立ツルヲ得ス

第十三條 入札保証金ハ入札金高百分ノ五以上請負契約保証金ハ請負金高百分ノ十(單位未滿ハ切上ケ單位ニ止ム)ニ相當スル現金又ハ有價證券ヲ納付スヘシ
有價證券ノ種類價格ハ町長之ヲ定ム

但第三十三條第三十四條ノ場合ニ於テハ請負保証金ヲ増減スルコトアルヘシ

第十四條 競争落札者ハ其落札通知ノ日ヨリ三日以内ニ第二號書式ニ依リ請負請書ニ第十三條ノ請負保証金ヲ添ヘ差出スヘシ

但入札保証金ヲ以テ請負保証金ニ充用スルモ妨ナシ

第十五條 設計書圖面及其他工事施工上必要ノ書類ハ其副本壹通ヲ請負人ニ下付シ請書ヲ徹スヘシ
請負人ハ其書類ヲ受領シタル日ハ更ニ設計書ニ依リ内譯代價ヲ記入シ五日以内ニ差出スヘシ
若シ内譯代價中不相當ト認ムルトキハ期日ヲ指定シ之ヲ更訂セシムヘシ請負人期日内ニ内譯代價ヲ記入シタル設計書ヲ差出サ、ルカ又ハ更訂セサルトキハ當町ニ於テ相當ト認ムル代價ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

第十六條 工事成功後期間ヲ定メ担保ヲ付セシムルコトアルヘシ其担保期間内ニ於テハ人力ヲ以テ防

禦シ得ヘカラサル非常ノ災害ヲ除キ當町ニ於テ工事不完全ニ原由スル破損ト認定シ其修繕ヲ命シタルモノハ請負人自辨ヲ以テ三日以内ニ修理ニ着手シ指定ノ期限内ニ成功セシムヘシ

第十七條 請負契約ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

一、請負人ノ死亡セシトキ

一、請負人逃亡シ五日以上其踪跡ヲ知り得サルトキ

但請負人死亡ノ場合ニ於テハ相續人逃亡ノ場合ニ於テハ本工事ニ利害關係ヲ有スルモノ該契約ヲ繼續セントシ十日以内ニ出願スルトキハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十八條 請負人ハ自ラ工事一切ノ事ヲ担当スヘシ若シ其請負全部ヲ他人ニ請負ハシメタル事實アリト認ムルハ其請負ヲ解除シ第卅七條ニ依リ處分スヘシ

第十九條 請負人ハ當町内ニ居所ヲ定メ常ニ工場ニ詰切ルヘシ若シ事故アリテ自ラ臨場スル事能ハサル時ハ當町ノ認許ヲ得代理者ヲ置クヘシ

第二十條 請負人ハ工事ノ施行順序等ニ就キ總テ主務吏員ノ指揮命令ニ從フヘシ主務吏員工場巡視ニ際シ請負人ノ立會ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條 請負人又ハ其職工人夫若クハ直接ト間接トチ問ハス請負人ニ關係ヲ有スト認ムル者ニ於テ監督吏員ニ對シ不法ノ行爲アリタルトキハ其請負ヲ解除スヘシ

第二十二條 請負人ハ其使役スル職工人夫等ノ行爲ニ就キ一切其責ニ任スヘシ若シ職工人夫等ニシテ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ何時タリトモ之レカ使役ヲ禁セシムルコトアルヘシ

第二十三條 設計ニ背キタル工事ヲ爲シ又ハ工用材料運搬置場等ニ就キ第三者ニ對シ要スル損害賠償ハ總テ請負人ノ負担トス

第二十四條 工事ニ要スル諸器械及遺形諸費其他小屋掛足場等ニシテ設計書ニ掲ケサル費用ハ總テ請負人ノ負担トス

第二十五條 工用ノ材料ニ就テハ必要ノ場合ニ見本ヲ差出サシムルコトアルヘシ其費用ハ請負人ノ負担トス

第二十六條 工用ノ材料ハ現場ニ於テ主務吏員検査済ノ後ニアラサレハ一切之ヲ使用スルコトヲ得ス水中又ハ地中ノ工事其他施行出來形ノ点檢シ難キモノハ其着手ニ際シ特ニ主務吏員ノ検査ヲ受クヘシ若シ其検査ヲ待タスシテ實施シタルトキハ施行后ト雖モ掘出シ又ハ引上ノ上検査ヲ爲スヘシ其費用ハ請負人ノ負担トス

第二十七條 工事ノ材料又ハ其出來形ニシテ設計ニ違フモノアルトキハ幾回ニテモ之カ更換改築ヲ命スヘシ其費用ハ一切請負人ノ負担トス

第二十八條 工事ハ其成功期限内ニ特別ナル施行順序期限等ノ規定アルモノハ其規定ニ從ヒ施行シ其工事受買規則

他普通ノ場合ニアリテハ成功期限内施行日數ニ對シ之ニ相當スル工程ヲ怠ルヘカラス

工事變更若クハ増減ヲ要スル場合ニ於テハ其成功期限ハ當町ノ定ムル所ニ依ル

第二十九條 請負人怠慢ニシテ第二十八條ノ規定ニ從ハス若クハ第二十七條ニ該當シ期限内ニ成功ヲ

告ケ難シト認ムルハ請負解除ヲ命シ又ハ當町ニ於テ直轄施行スルコトアルヘシ

當町ニ於テ直轄施行シタルトキハ其費金ニ相當スル金額ヲ請負代價若クハ保証金ノ内ヨリ扣除スヘ

シ

第三十條 前條ニ定ムル場合ノ外請負人ノ自己ノ怠慢ニヨリ成功期限ヲ誤リタルハ引續キ施行セシ

ムルコトアルヘシト雖モ此場合ニハ其成功期限外經過日數ニ對シ每一日請負高二百分ノ一ツ、違約金

トシテ遅減ス

前項ノ違約金ハ請負金ノ内ヨリ減除シ其殘額ヲ下附スヘシ

第三十一條 天災其他避クヘカラサル事變ニヨリ成功期限内ニ工事成功シ難キトキハ請負人ノ請願ニ

ヨリ相當ノ延期ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十二條 工事施行中非常ノ天災ニ依リ已成部分又ハ材料ニ損害ヲ受七日以内ニ出願スルトキハ情

狀ニヨリ其損害ノ幾分ヲ補給スルコトアルヘシ

第三十三條 當町ノ都合ニヨリ工事一部變更又ハ増築ヲ要スル場合ニ於テハ己定請負金額五分ノ一ニ

相當スル迄ハ請負人ニ於テ其工事を担当スヘキモノトス

但此制限ヲ超過スルハ請負人自己ノ便宜ニ依リ請負解除ヲ請フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其代價ハ設計書内譯ノ價格ニ準シ若シ原設計書ニ掲ケサル物件アルトキハ當町

ニ於テ相當ト認ムル所ニ依リ之ヲ定ム

第三十四條 當町ノ都合ニ依リ工事ノ減縮ヲ要スル場合ニ於テハ己定請負金額二分ノ一迄ハ請負人ニ

於テ異議ヲ申立ルヲ得ス

但該工事減縮ノ爲其己ニ準備セル材料ノ不用品ヲ生シタルトキハ現場ニ持込ミタル物品ニシテ設

計ニ適合スルモノニ限り當町ニ於テ相當ト認ムル金額ヲ賠償トシテ下付スルカ又ハ設計書内譯ノ

價格ニ依リ現品ヲ買收スヘシ

第三十五條 當町ノ都合ニ依リ工事を廢止シタルトキハ其請負契約ハ直ニ消滅スルモノトス

工事着手前若クハ着手后ニ於テ三十日以上ノ中止ヲ命シタルトキハ請負人自己ノ便宜ニヨリ請負契

約ノ解除ヲ請フコトヲ得

第三十六條 第三十三條第三十五條ニヨリ請負契約解除若クハ消滅シタルトキハ工事ノ已成部分ニ對

シテハ設計書ノ内譯價額ニ依リ之レニ相當スル金額ヲ下付スヘシ其己ニ準備セル材料ニ就キテハ第

三十四條但書ヲ適用ス第十七條ニ依リ請負契約ノ消滅シタルハ其請負人死亡ノ場合ハ工事ノ已成部

分及準備セル材料等ニ就キテハ相續人ニ對シ前項ニ依リ處分シ其逃亡ニ係ル場合ハ工事ノ已成部分及現場持込ノ材料並ニ請負保証金ハ町ノ所得トス

但工事ノ已成部分ニ對シ工費ノ假渡ヲ請ケタルトキハ返納ノ限ニアラス

第三十七條 請負締結后第三十三條第三十五條ニ依リ請負解除ヲ請フ場合ノ外請負人自ラ其請負ヲ辞スルカ又ハ第二十九條ニヨリ請負解除ヲ命セラレタルトキハ保証金ハ町ノ所得トス

但前項ノ場合ニ於テ工事ノ已成部分及現場ニ持込ミタル材料等アルトキハ設計書ニ違ハサルモノニ限リ設計書内譯價格ニ依リ相當ト認ムル金額ヲ下付スヘシ其設計ニ違フモノニシテ指定ノ期限内ニ引取ラサル時ハ町ノ所得トス

第三十八條 第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十六條第二十七條ニ違背スルトキハ何時タリトモ請負ヲ解除シ請負保証金ハ町ノ所得トス

但其已ニ準備セル材料ニ就テハ第三十七條但書ヲ適用ス

第三十九條 請負金ハ成功検査済ノ上下付スルモノトス

但工程三分ノ一以上ニ達シタルトキハ請負人ノ請求ニ依リ左ノ割合ヲ以テ其工程ニ對スル五分ノ四以内ノ金額ヲ假渡トシテ下付スルコトアルヘシ

一、請負金參百圓以上壹千圓未満 假渡金壹圓

一、請負金壹千圓以上貳千圓未満 假渡金貳圓

但請負金貳千圓以上ハ適宜假渡回数ヲ定ム

工費假渡ノ後チ第三十二條ノ變災ニ罹リ請負人若シ其再築ヲシテ第二十八條ノ規定ニ從ハサルトキハ第二十九條ニ依リ處分シ尙ホ假渡金ヲ返納セシムヘシ

第四十條 設計中在來ノ材料ヲ使用スルモノハ請負締結ト同時ニ授受ノ手續ヲ了シタルモノトス故ニ請負締結後該材料ニ不足又ハ紛失毀損等ヲ生スルモ總テ請負人ノ損失ニ歸スルモノトス

分科請負ニシテ特ニ材料物品等ヲ交付使用セシムルトキハ其交付済ノ後不足又ハ紛失毀損等ヲ生スル場合ニ於テモ亦同シ

第四十一條 工事成功検査ハ請負人ノ届出ニ依リ之ヲ行フ其日時ヲ請負人ニ通告シ検査ニ立會ハシム請負人其通告ヲ受ケ立會ハサルトキハ検査ノ后ニ至リ異議ヲ申立ルヲ得ス

第四十二條 工事成功検査ノ上其設計ニ違フモノハ更ニ日數ヲ期シ更正ヲ命スヘシ若シ其命ニ從ハサルトキハ當町ニ於テ執行シ其費金ヲ請負金又ハ保証金ノ内ヨリ扣除スヘシ

第四十三條 工事施行ニ當リ設計書ニ對シ萬一材料等ノ不足ヲ生スルコトアルモ仕様書圖面等ニ依リ施行スヘシ

但其不足ヨリ生スル費用ハ請負人ノ負担トス

第四十四條 請負保証金ハ請負人死亡ノ爲メ請負契約ノ消滅シタルトモ若クハ正當ノ理由ニヨリ請負ヲ解除シタル時ハ其都度還付ス

但工事成功后担保ナ付シタル場合ハ其十分ノ一以上便宜所定ノ金額ヲ留置シ担保期限滿了後ニ至リ之ヲ還付スルモノトス

第四十五條 第十六條ニ依リ担保期限内ハ修理ノ義務アルモノトス若シ必要ノ修理ヲ怠リタルトキハ當町ニ於テ直ニ執行シ其費用ヲ保証金ノ内ヨリ扣除スヘシ

但保証金ハ担保期間滿期ニ至リ更ニ検査ヲ行ヒ義務完了ヲ認メタル后チニアラサレハ還付セサルモノトス

附 則

本則ハ發布ノ日ヨリ之レヲ施行ス

明治四十四年三月三十日明石町規則第二十四號中工事ノ隨意契約ニ係ル事項ハ本則施行ノ日ヨリ削除ス

様 式

第一號 (用紙半紙)

工事請負入札

明石町ノ内何町

一何 工 事

此請負金

何

程

右ハ明治四十五年四月明石町規則第四十號工事請負規則ハ勿論關係書類及現場熟覽ノ上本行ノ金額ヲ以テ請負入札候也

原籍住所

寄留住所

年 月 日

何

某 印

町長宛

(備考) 金額ハ壹貳參拾ノ數字ヲ用ヒ改竄塗抹ノ所ニハ捺印スヘシ

第二號 (用紙美濃紙)

工 事 請 負 書

明石町ノ内何町何々

一何 工 事

此請負金額

何

程

工事受負規則

工事方法
施行期限
擔保事項
擔保期限

明石町役場ヨリ下付ノ設計工法ニヨル
自明治何年何月何日 日數何日間
至同 年 月 日

右工事請負被命候ニ付自分ニ於テ一切ノ事項ヲ担当シ決シテ工事ヲ他人ニ請負ハシメサルハ勿論
明治四十五年四月明石町規則第四十號工事請負規則ヲ遵守可仕若シ違背シタルハ該規則ニヨリ
御處分相成異議無之候依テ請書如件

原籍

寄留

年 月 日

請負人 何

某印

明石町長宛

(三) 下水道管理規則

明石町規則第四十一號

大正二年二月二十五日

明石町下水道管理規則

第一條 下水道ヲ築造スルトキハ其築造及管理ニ属スル費用ハ町ノ負担トス

第二條 本町ノ築造シタル下水道ニ汚水雨水ヲ疏通スヘキ施設ヲナスノ義務アルモノハ本町ノ許可ヲ得テ其工事ヲ施行スルコトヲ要ス

但連絡工事ハ本町ニ於テ施行スルモノトス

第三條 前條ノ許可ヲ受ケントスルモノハ設計書及圖面ヲ添付シタル願書ヲ本町ニ提出スヘシ

第四條 第二條ノ施設中ハ下水道ニ塵芥及汚土等ノ流入ヲ防止ス可キ裝置ヲナスコトヲ要ス

第五條 汚水ハ雨水溝ニ放流スルコトヲ得ス

第六條 有毒物其他下水道ヲ損傷スヘキ藥品等ヲ放流スル者ニ對シテハ特別ノ裝置ヲ命シ又ハ疏通ヲ

禁スルコトアルヘシ

第七條 第二條ノ施設カ破損又ハ腐朽シタルキハ遲滞ナク其修繕工事ヲ施行スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其起工以前ニ本町ニ届出テ當該吏員ノ指揮ヲ受クルコトヲ要ス

第八條 第二條ノ施設ハ毎月一回以上其掃除ヲ爲スコトヲ要ス

但當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ外尙隨時掃除ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 第二條ノ許可ヲ受ケス又ハ第七條第二項ノ指揮ヲ受ケスシテ工事ヲ施行シタル者ニ對シテハ其變更又ハ撤去ヲ命スルコトアルヘシ

本規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

(十三) 下水道築造吏員及傭人慰勞金給與規程

明石町規則第五十號

大正三年九月二十一日

下水道築造吏員及傭人慰勞金給與規程

第一條 下水道築造工事成功又ハ工事進捗ノ場合ニ於テ下水道築造吏員及傭人ヲ解雇スルトキハ本規程ニヨリ慰勞金ヲ給與ス

第二條 吏員慰勞金ハ給料十二ヶ月以内傭人ハ給料三ヶ月分以内ノ範圍ニ於テ一時之ヲ給與ス

(十四) 組織及處務規程

廳内訓令

明治四十五年四月一日定
大正二年三月二十五日更正

明石町下水道事務所組織及處務規程

組織

第一條 下水道事務所ニ左ノ職員ヲ置ク

顧問	一名	
技師長	一名	
技師	一名	
書記	二名	外町書記ヨリ兼務
技手	六名	
助手	四名	

第二條 顧問ハ下水道築造ニ關シ意見ヲ陳述シ又ハ注意ヲ與フ技師長ハ町長ノ指揮監督ヲ受ケ所員ヲ統督シ下水道築造ニ關スル一切ノ責ニ任ス

第三條 技師以下ノ職員ハ技師長ノ指揮ヲ受ケ庶務又ハ技術事務ニ従事ス

第四條 事務ハ總テ町長ノ決裁ヲ經テ施行スルモノトス

第五條 事務ノ決裁ハ各掛主任者ヨリ掛長技師長ヲ經テ町長ニ提出スルモノトス

第六條 本所ニ左ノ掛ヲ置キ各掛ニ掛長ヲ置ク

一、工事掛

一、雜務掛

一、調度掛

組織及處務規程

一、會計掛

第七條 所員ノ事務分担ハ町長ノ承認ヲ經テ技師長之ヲ定ム

服 務

第八條 所員出勤シタルトキ自ラ出勤簿ニ捺印スヘシ

第九條 病氣其他止ムヲ得サル事故ノ爲メ勤務シ難キトキハ出勤時間内ニ事由ヲ具シ町長ニ届出ツヘシ

シ若シ疾病ノ爲メ欠勤七日以上ニ及フモノハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘク爾後七日ニ及フ毎ニ同一ノ手續ニ依ルヘシ

第十條 病氣其他ノ事故ニ依リ遅參又ハ早退スルトキハ遅參早退簿ニ記入町長ニ届出ツヘシ

第十一條 父母ノ看護又ハ展墓若クハ病氣ノ爲メ轉地療養セントスルトキハ日限ヲ定メ町長ニ願出ツヘシ

但療養願ニハ醫師ノ証明書ヲ要ス

第十二條 所員ハ其住所ヲ町長ニ届出ツヘシ轉住シタル時亦同シ

第十三條 勤務時間左ノ如シ

- 一、自一月十六日午前七時ヨリ午後五時三十分迄
- 一、自三月卅一日午前七時ヨリ午後五時三十分迄
- 一、自四月一日午前六時三十分ヨリ午後五時五十分迄
- 一、自九月三十日

一、自十月一日午前七時ヨリ午後五時二十分迄

一、自十二月十五日午前七時二十分ヨリ午後四時五十分迄

但事務繁劇又ハ臨時緊急ヲ要スル場合ハ時間外ト雖モ服務セシムルコトアルヘシ

内勤事務ニ従事スルモノニシテ事務上差支ナキトキハ本町役場執務時間ニ據ル

第十四條 休廳日左ノ如シ

- 一、一月一日ヨリ三日迄
- 一、紀元節
- 一、神武天皇祭
- 一、天長節
- 一、十二月三十一日

但内勤事務ニ従事スルモノニシテ事務上差支ナキトキハ本町役場吏員休廳日ニ據ル

附 則

第十五條 本則ニ定ムルモノ、外ハ總テ本町役場ノ處務規程ニ據ルモノトス

(十五) 事 務 細 則

廳内訓令

明治四十五年四月一日

事務細則

明石町下水道事務所各掛事務分擔並事務細則

事務分擔

工事掛

- 一、測量并設計ニ係ル事
- 二、工事施行及監督ニ係ル事
- 三、工事出来形精算ニ係ル事
- 四、工事報告及關係書類圖面ノ整理ニ係ル事
- 五、物品試験及検査ニ係ル事

雜務掛

- 一、經費豫算及決算ニ係ル事
- 二、工事受負ニ係ル事
- 三、吏員ノ進退身分ニ係ル事
- 四、諸規則制定ニ係ル事
- 五、文書ノ授受發送ニ係ル事
- 六、文書ノ編纂及統計報告ニ係ル事

七、文書ノ淨書及記録ニ係ル事

八、印章保管ニ係ル事

九、圖書帳簿ノ保管ニ係ル事

十、工用品出納ニ係ル事

十一、諸雇人進退身分ニ係ル事

十二、他掛ノ主管ニアラサル事項ニ係ル事

調度掛

一、物品購買ニ係ル事

二、物品出納ニ係ル事

三、備品整理ニ係ル事

會計掛

一、經費豫算收支ニ係ル事

事務細則

工事掛

一、工事日誌ヲ備ヘ置キ一工事毎ニ日々工事ノ出来形使用セル職工人夫ノ延日數及賃金並ニ材料品使

用高代金等ヲ記入スヘシ

一、工事ノ完成シタルトキハ該工費ノ精算ヲナスヘシ

一、工事用品ノ購買ヲ要スルトキハ技師長ノ承認ヲ受ケ雜務掛ニ請求スヘシ

一、工事用品ヲ使用セントスルハ雜務掛ヨリ請取ルヘシ

一、工事用具ヲ使用セントスルトキハ雜務掛ヨリ請取リ其使用ヲ了シタルトキハ同掛ニ返納スヘシ

一、工事用具ヲ亡失毀損シタルトキハ技師長ノ裁決ヲ受ケ辨償ノ義務ナキモノ、毀損用具ハ雜務掛ニ

返納スヘシ

一、工事現場ニ於テ常備人夫ヲ使用シタルトキハ其氏名及壹人別延人員ヲ雜務掛ヘ翌日通知スヘシ

雜務掛

一、經費豫算差引簿ヲ設ケ各經費支拂ノ義務ヲ生シタルトキ又ハ支拂ヲナストキ之ヲ記入シ常ニ經費支途殘額等ヲ明ニスヘシ

一、經費支出ヲ要スル諸般ノ決議及經費支出命令書ハ經費豫算差引簿ヲ整理スル担任者ヲ經由シ該差引簿整理ノ便ニ供スヘシ

一、工事用具品ハ臺帳ヲ備置キ調度掛ヨリ交付ヲ受ケタルトキ之レニ記入シ工事掛ヘ貸與セシ等便宜便途ヲ明ニスヘシ

一、工事用材料品ハ受拂簿ヲ備置キ時々其ノ受拂ヲ記入シ常ニ殘品ノ數量ヲ明ニスヘシ

調度掛

一、工事用品ヲ購入シタルトキハ其品質ノ適否ヲ工事掛ノ検査ヲ求メ其合格ノモノハ直ニ雜務掛ヘ交付スヘシ

一、物品購入決議ハ雜務掛ヘ合議ヲナスヘシ

會計掛

一、經費收支ノ命令書ハ雜務掛ヲ經由スヘシ

(六) 雇人勤務時間并日給支給内規

廳内訓令 明治四十五年四月一日

明石町下水道雇人勤務時間並ニ日給支給内規

第一條 雇人トハ工夫諸職工及常備人夫ヲ云フ

第二條 勤務時間左ノ如シ

一、自一月十六日 午前七時ヨリ午後五時三十分迄

一、自三月卅一日 午前六時三十分ヨリ午後五時五十分迄

一、自四月一日 午前六時三十分ヨリ午後五時五十分迄

- 一、自十月一日 午前七時ヨリ午後五時二十分迄
- 至十二月十五日
- 一、自十二月十六日 午前七時二十分ヨリ午後四時五十分迄
- 至一月十五日

但事業ノ都合ニ依リ時間外ト雖モ勤務セシムルコトアルヘシ

第三條 休業日左ノ如シ

- 一、一月一日ヨリ三日迄
- 一、紀 元 節
- 一、神 武 天 皇 祭
- 一、天 長 節
- 一、十二月三十一日

第四條 日給ハ休業日及公務ノ爲メ負傷シ其療養中ノ日數ハ之ヲ給スルモノトス

第五條 日給ハ其月廿七日限り打切り同月二十九日支拂フモノトス

但二月ハ二十五日限り打切り二十七日支拂フモノトス又本條打切り日及支拂日休日ニ當ルトキハ繰上ケ支拂フヘキモノトス

第六條 始業時間ニ遅参シタル者ハ左ノ割合ヲ以テ日給ヲ減ス

- 一、始業時間ヨリ十五分以上三十分以内遅参シタルモノハ日給額二十分ノ一

一、同時間ヨリ三十分以上一時間以内遅参シタルモノハ日給額十分ノ一

一、同時間ヨリ一時間以上遅参シタルモノハ一時間毎ニ日給額十分ノ一ノ割合ヲ以テ減給ス其一時
間ニ滿タサル端數ハ一時間ニ算定ス

一、勤務中早退シタルモノハ其時間ヨリ後ノ時間ニ對シ一時間日給額十分ノ一ノ割合ヲ以テ減給ス
其一時間ニ滿タサル端數ハ一時間ニ算定ス

但掛員ノ許可ナクシテ早退シタルモノハ欠勤ト見做シ其日ノ日給ヲ支給セス

第七條 勤務時間外就業セシメタルトキハ左ノ割合ヲ以テ給料ヲ加増ス

但一時間未滿ノ端數ハ切捨ツ

- 一、始業時間前二時間及終業時間后ノ四時間ハ各一時間毎ニ日給額百分ノ十
- 一、終業時間后四時間以上ノ四時間ハ各一時間毎ニ日給額百分ノ十二
- 一、終業時間后八時間后及始業時間前二時間前迄ハ一時間毎ニ日給額百分ノ十五

(七) 職工人夫使用手續

廳内訓令 明治四十五年四月一日

明石町下水道常備職工人夫使用手續

- 第一條 事業ノ都合ニ依リ特ニ熟練ノ職工人夫ヲ要スルトキハ本手續ニ依リ之ヲ使用スルモノトス
- 第二條 職工人夫ノ採用又ハ解雇ハ辭令書ヲ交付セス採用命令簿ニ依リ命令スルモノトス
- 第三條 職工人夫ハ出勤簿ニ捺印セシムルノ外木牌ヲ製シ裏面ニ氏名ヲ墨書シ表面ニ同シク朱書シ一定ノ場所ニ掲ケ置キ出頭シタル時ハ裏面ヲ掲ケ以テ点檢ニ便ナラシムルモノトス
- 第四條 職工人夫ハ左記様式ノ請書ヲ徴スルモノトス

(請書様式)

請書

住所

族籍

戸主又ハ(某長男次男)

何

某

右ハ今般常備職工人夫相命セラレ候ニ付テハ御規則御命令ヲ遵守可爲致ハ勿論本人身上ノ義ハ何事ニ據ラス引受可申萬一御所ニ對シ損害相與ヘ候節ハ直ニ辨償セシムヘクモシ本人其義務ヲ果サ、ルトキハ保証人ニ於テ負担可致候依テ請書差上候也

年 月 日

右何某身元保証人

住所

何

某印

保証人ハ下水道事務所ニ於テ相當ト認ムル者ニ限ル

(六) 材料購入契約書按

大正元年十月五日制定

明石町下水道工事用材料購入契約書

物品供給受負契約書

一 何々

此代金

但シ購入仕様書ハ別紙之通り

納附場所

此契約保証金

右物品供給ノ件明石町長何某ト受負人何某トノ間ニ締結スル契約ノ條項左之如シ

材料購入契約書按

第一條 受給人ハ購入仕様書ヲ遵守シ此契約ニ依リ前記代金ヲ以テ本件物品ヲ明石町下水道築造事務所へ供給スルモノトス

第二條 受給人ハ本契約履行ノ保証トシテ前記ノ保証金ヲ納メ置クモノトス

第三條 本件物品ハ左記期限内ニ納附場所へ完納スルモノトス (左記ニ期日ヲ記入スルコト)

第四條 物品ノ納附ハ毎日午前八時ヨリ午後四時迄ノ間ニ於テ其時々明石町下水道築造事務所ニ届出主務吏員ノ検査ヲ受クヘシ

但シ事務所ノ都合ニ依リ本條ノ時間ヲ變更スルコトアルヘシ

物品検査ノ際ハ受給人ヲ立會ハシム若シ受給人ニ於テ立會ハサルハ其檢定スル所ニ對シ異議ヲ唱フルコトヲ得ス

第五條 明石町長ハ都合ニ依リ契約期限内ニ通知シ單價ヲ變更セシテ契約物品ノ數量ヲ十分ノ二迄ヲ増加スルコトヲ得

但シ増加數量ニ對スル物品ノ納附期限ハ明石町長ニ於テ相當ト認ムル所ニ依ル

第六條 物品供給受負ノ契約ハ左ノ場合ニ於テ解除スルコトアルヘシ

- 一、受給人ニ於テ契約物品ヲ納附期限内ニ納附セザルトキ
- 一、物品ノ不合格ヲ以テ排除スルコト再度以上ニ及ヒタルトキ

第七條 物品供給受負ノ契約ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

- 一、受給人自ラ受負ヲ辞スルトキ
- 一、受給人死去セシトキ
- 一、受給人失踪シ十日以上踪跡ヲ知り得サルトキ

但シ受給人死去ノ場合ハ相続人失踪ノ場合ハ嗣子其受負契約ヲ繼承セントスルハ死去又ハ失踪ノ日ヨリ十日以内ニ出願スルトキハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第八條 受給人失踪シ契約ノ繼承者ナキトキハ既納品ハ沒收シテ町ノ所得トス

第九條 左ノ場合ニ於テハ契約保証金ヲ沒收シテ町ノ所得トス

- 一、第六條ニ依リ契約解除シタルトキ
- 一、第七條ニ依リ契約ノ消滅シタルトキ

第十條 天災其他ニ依リ明石町長ニ於テ正當ノ理由アリト認メタルハ受給人ノ情願ニ依リ納附期限ニ對シ相當延期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十一條 物品ノ受授終ル迄ノ保管其他該品ニ對シ要スル費用ハ凡テ受給人ノ負担トス

第十二條 物品受負代價ハ物品完納ノ上拂渡スモノトス若シ受給人ノ都合ニ依リ既納品ニ對シ内拂ヲ請フトキハ其代價ノ五分ノ四迄ヲ内渡スルコトアルヘシ

第十三條 契約保証金ハ義務完了ノ後ヲ還附スルモノトス
右條項契約締結セシニ付各自署名捺印シ契約本書ハ明石町下水道築造事務所ニ預置シ同事務所ハ之カ
曆本ヲ作り受負人ニ下附ス

年 月 日

町長及賣込人連署

(五) 關係者氏名

起工決議當時ヨリ成功ニ至ル間ニ於ケル關係理事者並ニ名譽職員及従事吏員左ノ如シ

町長	荒尾重太郎
同	石本文藏
同	鷺塚貞操
助役	杉山健吉
收入役	白旗徳仁
町會議員	吉野治兵衛
同	武藤信重

大正三年十二月十三日死去

大正三年四月六日死去

明治四十三年十月三日辞任

欠

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上
 關係者氏名

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 松 寺 藤 藤 中 藍 橋 森 大 白 林 米 岡 山 永
 川 谷 谷 尾 西 谷 爪 本 山 木 澤 本 本 田
 祐 長 理 梅 岩 直 榮 之 安 長 鈺 祐 鼎 善
 次 兵 三 藏 藏 郎 助 助 治 郎 藏 裕 喜 一 次 郎
 郎 衛 郎 藏 藏 郎 助 助 治 郎 藏 裕 喜 一 郎

明治四十四年三月廿八日辭任
 大正二年三月廿九日滿期

關係者氏名

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 町
 會
 議
 員
 大 常 鈴 池 加 杉 葛 石 小 吉 吉 中 佐 長 丘
 原 田 木 內 古 本 西 本 川 田 田 西 野 谷 澤
 由 正 龜 忠 松 太 元 潤 吉 順 幸 延 松 德
 松 路 武 藏 衛 助 助 郎 郎 郎 藏 郎 郎 兵 兵
 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛

欠

大正三年四月十六日迄

關係者氏名

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

諮問委員(公選)

篠市左衛門 松本清太郎 長谷川清次郎 井上壯太郎 赤松卯一郎 林半右衛門 富士利三郎 吉野平三郎 内藤彌兵衛 中濱平三郎 丘澤徳兵衛 淺野淺吉 福田勝之助 八木文藏 青山種吉

一〇九

關係者氏名

大正二年九月廿三日迄

大正元年十一月十九日辭職

諮問委員(選出)
 本林武夫
 伊藤庄平
 右柳庄藏
 三宅富太郎
 高田忠良
 杉本松之助
 中西岩藏
 石本文藏

顧問

兵庫縣技師 佐藤長太郎

從事吏員

技師長 工學士 西光正雄
 技師 古澤龜三郎
 書記 坂口宇太郎
 岡津守太郎

大正元年十一月廿五日辭職

大正二年六月十一日辭職

關係者氏名

技師 植村倉藏
 同 金枝市平
 同 小山律郎
 同 青木泰春
 同 服部泰春
 同 山田憲
 同 八塚福太郎
 同 安田時太郎
 助手 笹田庄吉
 同 小山芳太郎
 同 羽尻多都一
 同 坂田清市
 事務 坂田清市
 書記兼務(町書記) 石井善太郎
 同(同) 八田孝太郎
 同(同) 鎌谷禱太郎

關係者氏名

明治四十五年五月三十日辭職

書記兼務	(町書記)	石	崎	清	次	郎
同	(同)	大	西	由	太	郎
同	(同)	木	茂	千	太	郎

一一三

第四章 工事施工方法

(一) 工事施行方法

主要原料ノ一部タル混凝土塊及雨水樹ノ製作ハ直營工事トシテ大明石村字茶園場日本毛織株式會社所有地壹千坪ヲ借受ケ製造工場ヲ設置シ監督吏員一名工夫二名ヲシテ之レカ監視及整理ニ當ラシメ大正元年十二月製作ヲ開始シ大正三年四月終了シタリ其間使役シタル職工延五百人及人夫延九千九百九十八人内男六千七百八十一人女三千二百七十七人其職工日給平均八拾四錢人夫日給最高七拾貳錢 最低拾七錢ニシテ其製造數量并製作單價ハ「第六章」中書載ノ如シ

尙本工場取設ケニ關シ地主タル毛織會社ノ多大ナル利便ヲ與ヘラレタルハ深ク感謝スル所ナリ

而シテ町内布設工事ハ總テ請負方法ニ依リ本町工事受負規則ヲ適用シテ施工シ之レカ監督ハ一工區毎ニ技手一名ニ工夫二名若クハ三名ヲ附シ其任ニ當ラシメタリ其出來形ハ末章記載ノ通ナリ

請負入札方法ニ就テハ世上行ハレツ、アル入札者ノ談合聯絡ノ弊ヲ防クニ苦心シ講究ノ結果一區若シクハ二、三區ニ分割シ營業者ニシテ事實工事ニ從事スルモノ(可成下請ニ付スルヲ目的トセサルモノ)ヲ撰定指名シテ書留郵便入札ノ方法ニ依リ尙ホ且ツ一人毎ニ其入札提出ノ時日ヲ異ニシ以テ入札人互

工事施工方法

一一三

ニ何人ノ指名タルヤヲ知ラシメサリシニ依リ幸ヒ前述ノ如キ弊害ヲ除却スルヲ得タリ
而シテ町會議員及諮問委員全部日割ヲ定メ直營工場及布設工事現場ニ出張夫々監督セリ

(二) 材料購買方法

材料購入ハ種々講究ノ上各其製造者ヨリ直接購入スルコトトシ信用アル斯業者ヲ撰定指名シテ書留郵便入札方法ニ依リ購求シタリ其結果入札者ノ聯絡談合ヲ防キ眞個競争ノ實ヲ得他官公署ノ購入ニ比シ一層低廉ナリシヲ認メタリ

セメントハ混凝土塊管ハ同品中最モ優良ナルモノヲ撰ミ小野田及淺野セメントヲ使用シ布設工事ハ其他ニ於テ信用アル中央又ハ木津川セメント等ヲ使用ス

但何レモセメント試験器ニ依リ購入仕様書ニ照シ試験ヲ遂ケタル上授受セリ
土管ハ當初一回ハ常滑製ヲ爾後ハ伊部製ヲ購入使用シタリ

但何レモ購入仕様書ニ照シ壓力法ニ依リ試験ヲ遂ケタル上授受セリ
人孔其他鐵蓋類ハ大阪市各所ノ鐵工所ニ於テ製作購入セリ

混凝土管用鐵筋ハ總テ神戸市内當業者ヨリ購入シタリ

但購入仕様書ニ依リ兵庫縣立工業學校ニ囑托シテ試験ヲ遂ケタル上授受セリ
本件ニ付工業學校ニ於テ特ニ與ヘラレタル便宜ニ對シ厚ク感謝ノ意ヲ表ス

第五章 財政

下水道費ノ主タル資金ヲ日本勸業銀行ヨリ低利(年五分三厘)借入金ヲ仰キ他ハ町税ニ依ルノ計畫ニシテ則チ當初起債ヲ稟請シタル理由並ニ豫算及收支精算其他借入金償還年次等左ノ如シ

(一) 起債ヲ要スル理由

本町ハ戸數五千九百十二人口二萬六千五百八十五ヲ有シ町民ノ生業ハ主ニ商業ナルモ近ク神戸大阪ニ接近シ水陸ノ交通極メテ便利ナルヲ以テ大商業ヲ營ムモノ尠ク工業ニ至ツテハ其重ナル工場ヲ舉クレハ攝津紡績株式會社明石工場燐寸製造工場七ヶ所鐵工所一ヶ所ニシテ其他陶器煉瓦土管瓦帆木綿製造所等多數ノ小工場アリテ町内一般ノ狀況比年繁盛ニ赴キ戸數人口ノ劇增ヲ來セル傾向アリ特ニ本町ノ海岸ハ數十町ヲ隔テ、淡路島ヲ眺望シ得ヘキ天然ノ風光ヲ有シ然モ古來山陽名勝地タルヲ以テ海岸一帶別莊ノ建築セルアリ夏期ニ至レハ坂神地方ヨリ多數ノ避暑客來集シ又明石海水浴場ニハ日々數千ノ浴客來遊セルアリ其他平素ニ在リテモ本町内ニ居住シ阪神地方ニ通勤セルモノ二百有餘ノ多キヲ算スル等アリテ之ニ依テ町民經濟上ニ得ル所ノ利益本町商業ノ外實ニ尠カラサルモノアリ然リ而シテ一面本町ノ衛生狀態ヲ觀察スレハ町有避病舎ノ設備ト明治四十二年四月以降汚物掃除法ノ一部施行セル

ニ止マリ名勝地ニ於ケル自治團隊トシテ衛生事務ノ施設上未タ何等ノ見ルヘキモノナキハ頗ル遺憾トスル所ナリ赤痢腸窒扶斯等ノ傳染病ハ年々發生スルタメ之ニ要スル町費ハ最近五ヶ年平均額金參千六百參拾六圓ヲ超過シ殊ニ又本町ノ下水溝ハ頗ル不完全ニシテ汚水常ニ停滯シ夏期ニ至レハ臭氣鼻ヲ突クノ感アリ又一部ノ下水ハ土中ニ吸込ミ造リノモノアリテ住宅附近ヲ浸潤セルヲ免レス爲メニ年々法定傳染病ノ外脚氣マラリヤ等下水溝不完全ノ結果トシテ發病セル病症ニ罹レルモノ實ニ尠カラサルヲ以テ是等諸病ト法定傳染病ノ爲メニ個人トシテ之ニ要セシ經費及生産力ノ喪失並ニ商業ニ及ホセシ損害ヲ調査スルトキハ蓋シ年々數拾萬圓ノ巨額ニ達スヘシ而シテ又本町居住者ノ死亡率ヲ調査スルトキハ五ヶ年平均人口百人ニ付二・五ニシテ之ヲ我明石郡ノ平均二・一及隣郡タル武庫郡ノ二・二美登郡ノ二・〇加古郡ノ二・一ニ比スルトキハ一見本町死亡率ノ多キヲ認ムルニ足ルヲ以テ本町ノ健康地ニアラサルヲ証スルニ足リ尙古來本町ハ夏期蚊ノ多キハ廣ク世人ニ記憶セラル、所ニシテ全国各地ニ類例ヲ見スト唱セラレタル如キモ其原因ヲ究ムルトキハ下水溝ノ不潔ニ基クテ認ムルニ足ルヘシ以上ノ諸点ヨリ本町ノ現況ヲ打算シ之ヲ大局ノ上ヨリ觀察スレハ山陽ノ名勝タル地方繁榮策トシテ來遊客ノ吸收ニハ勿論將ニ大ニ發展セントスル本町商工業ノ進歩發達ニ伴ヒ益々町民ノ保健行政事務ノ施設ヲ要シ其第一着手トシテ下水改良ノ如キ衛生設備ノ完整ヲ期スルハ一日モ緩ブスヘカラサル事件ニシテ頗ル急務ナルヲ信ス

抑モ下水道ノ敷設ハ一般住民ノ健康ヲ増進シテ著シキ死亡率ヲ低減シ殊ニ虎列拉、赤痢、腸窒扶斯ノ如キ法定傳染病ハ勿論法定外傳染性ノ脚氣、マラリヤ等ノ如キ惡疫流行蔓延ヲ防遏スルニ於テ偉大ノ功力アルハ内外都市ノ實驗ニ徴シ寸毫モ疑ナ容ル、餘地ナシ而シテ本町衛生設備ノ現狀上述ノ如クナルヲ以テ亦茲ニ鑑ミル所アリ明治四十二年三月町會ニ於テ滿場一致ノ贊成ヲ得調査費千圓ヲ四十二年三月ニ於テ尙金千圓ヲ議決シ四十二年度ヨリ下水道敷設ノ調査ニ從事シ今ヤ其設計ノ終リヲ告クルニ至レリト雖モ其費額拾七萬五千圓ヲ要シ一戸平均負担額貳拾九圓強ナルヲ以テ本町目下ノ財政上充當スヘキ好財源ナク且町稅トシテ地租、營業稅、所得稅ニ對スル附加稅ノ如キ制限課率迄ヲ賦課シタルモ尙戸數割附加稅ニ於テ多額ノ負担ヲナシアリ而シテ一般町民財政現況ノ如キモ一昨年來ノ商況不振ニ連レ町民ノ資力疲弊セル際ナルヲ以テ到底一時ニ多額ノ金額ヲ賦課徵收スル能ハサル事情アルニ由リ止ムヲ得ス起債ノ方法ニ依リ之ヲ低利資金貸出ニ仰キ四十四年度ヨリ四十六年度ニ至ル三ヶ年度ヲ期シ其事業ヲ完整セントスルニアリ

(二) 財政ノ現狀

本町財政ノ現狀ハ從來積立來リタル基本財産ハ明治四十一年義務教育ノ年限延長ニ伴ヒ校舍新築ノ必要ヲ生シ該建築費ノ一部支辨ノ爲メ消費シタルヲ以テ財産收入八百四拾七圓ニテ其他使用料、雜收入、

縣補助金、交附金、繰越金ヲ合セ僅カニ金壹萬參千七百參拾圓ノ收入アルノミ其他金五萬千九百九圓ハ之ヲ町稅トシテ賦課セサルヘカラス而シテ町稅ノ内地租、營業稅、所得稅ノ如キ總テ制限課率迄ヲ賦課シ其他戶數割附加稅ニ於テ多額ノ負擔ヲナシツ、アリ而シテ本年四月一日現在本町戶數五千九百十二戸ノ内其三分ノ二ハ諸工場若クハ小賣行商等ヲ以テ生活スル細民ナリ加之近年經濟界ノ不振ニ連レ一般商業不振ノ爲メ町民ノ資力疲弊セル際ナルヲ以テ町稅ノ增加ハ容易ニ負擔ニ堪ヘ難キ困難アリト雖モ刻下町民全般ノ必要視スル下水道溝改造ノタメ敢テ其負擔ヲ辭セサルヘシ然レトモ俄カニ多額ノ賦課ヲナスカ如キ本町財政ノ實狀ニ於テ許サ、ル所ナリ

(三) 將來ノ計畫

本町ハ近年戶數人口ノ增加ニ伴ヒ將來ニ於テ實行セントスル事業實ニ枚舉ニ遑アラスト雖トモ其最モ重ナルモノヲ述ブレハ比年學齡兒童ヲ増加セルヲ以テ之レニ伴フ小學校舍ノ増築セサルヘカヲサルヲ以テ之カ完成時期スニハ其金約拾萬圓ヲ要シ又傳染病舍ハ十數年ノ建築ニ係リ大破ヲ生シ居ルヲ以テ是亦改築時期ニ達セリ其他明石港灣ノ改良道路ノ修築等山陽ノ名勝地タル設備ヲ完整シ專ラ來遊客吸收ノ方法ヲ實行セントス

起債ニ關スル方法ヲ陳述スレハ工事施行ハ約三年度ニ渉ル豫定ナルヲ以テ其間據置トシ四十七年度以

降十ケ年ナリ均等償還セントスルニ在リ而シテ償還年限ハ出來得ル限り之ヲ短縮セント期セシモ本計畫ニ基ク一ケ年償還額ノ負擔ハ一戸平均金貳圓八拾八錢餘トナリ此負擔亦敢テ輕キニアラス依テ彼是參酌シ工事中三ケ年ヲ據置償還年限十ケ年トシ據置期間共都合十三ケ年トナシタリ而シテ據置期間三ケ年ヲ要スル理由ハ工事施行中ニ於テ起債額以外ノ工費四萬五千圓及起債額ニ對スル利子ヲ町稅トシテ賦課セサルヘカヲサルヲ以テナリ左レハ此上毫モ短縮スルノ餘裕ナシ而シテ又之ニ對スル償還財源ハ一般町稅ニ俟ツヲ以テ茲ニ聊カ本町財政ノ現況ヲ陳述セシ本町ノ財政ハ歲入歲出ノ均衡ヲ得整然トシテ毫モ紊亂セル点ナク唯諸工場ニ通勤シ操業スル下級職工尠キニアラス是等ノ納稅ハ多ク滯納ニ陥リ徵收上多少困難ノ事實ナキニアラサルモ當局吏員ノ奮勵ニヨリ徵收ノ成績良結果ヲ呈シ最近五ケ年ノ平均欠損額百分ノ〇〇七一ニシテ當町ノ如キ戶口ノ異動頻繁ニ然モ細民多數ノ存セル等ニ比較シ敢テ不良ニアラサルヘキヲ信ス加之衛生設備ノ完整ト共ニ益々戶口ノ増加ヲ來シ町稅ノ稅源擴張ニ至ルヘキヲ以テ償還財源トシテ尤モ的確ナルヲ信ス

(四) 收支豫算

下水道築造費豫算

收入

收支精算

一金拾參萬圓

一金五萬七千四百五拾五圓

合計金拾八萬七千四百五拾五圓

支出

一金拾四萬千參百五拾六圓拾八錢四厘

一金九千五百貳拾參圓八拾壹錢六厘

一金貳萬四千百貳拾圓

一金壹萬貳千四百五拾五圓

合計金拾八萬七千四百五拾五圓

(以上款、項、目、區別畧ス)

借入金
町稅

純工事費
工事雜費
監督諸費
借入金利子

一一〇

金(日本勸業銀行
ヨリ低利借入)

(五) 收支精算

(イ) 下水道築造費總精算

○ 收入

款	項	目	金額
町債	借入金	借入金	一〇五、〇〇〇、〇〇〇
財產賣拂代	土地賣却代	町有土地賣拂代	三、五〇三、四〇〇
繰入金	基本財産繰入	町基本財産繰入 港灣基本財産繰入 小學校基本財産繰入	一、九七四、〇〇〇 六、〇一三、四六〇 五、九三〇、〇〇〇
雜收入	雜入	歲計一時預金利子 不用品賣拂代 違約金	四、九五四、七九〇 四八八、三〇五 二三〇、〇〇〇
一時借入金			三五、八九三、〇一〇

收支精算

一一一

合計金拾六萬參千九百八拾六圓九拾六錢五厘

備考

收入ハ低利借入金ノ外町税ヲ以テ支辨スルノ計畫ナリシカ幸ヒ不用官有地無償讓與又ハ買受テナシタルモノ夥多アリ尙不用水面埋立ニ依リ得タル町有地ヲ賣却シテ財源ヲ造ルノ方針ヲ採リ町税徴收見合ハセタリ然ルニ時恰モ世上不況ニ際會シ相當價格賣却ノ困難ナルヲ覺リ一時此ノ賣却ヲ延期スルノ止ムヲ得サルニ至リ尙一面ニ於テハ基本財産ノ繰入ヲナシ低利資金ノ借入ヲ拾萬五千圓ニ減少シ且ツ一時借入金ヲ以テ收入ノ不足ヲ補填スルニ至レリ而シテ低利借入金中八萬五千圓ハ年利五分三厘ニシテ貳萬圓ハ年利五分八厘ノ割合ナリ

○支出

款	項	目	金額
下水道費	布設料	純工事費	一〇四、四七九、一六六
	給	技師給	五、七五一、二二五
		書記給	二、四四四、一六四

雜給	需用費	金額
技師給	工事用具及備品費	五、一七七、三一
助問手給	消耗品費	一、五八〇、四〇〇
顧問手給	通信運搬費	七五〇、〇〇〇
工使丁給	點燈費	六、七四六、九一五
給仕手給	賄費	七六七、四四〇
吏員當		二、九九一、四一四
賞與		一、九五九、二〇〇
旅費		二四三、三〇〇
委員實費辦償額		二四一、五〇〇
傷者手当		五、六三〇
人夫賃		二四五、六〇五
慰勞金		二、八〇〇、〇〇〇
		一、九二四、七六五
		九九五、五四五
		三八、九三〇
		四六、六七五
		一一一、一〇〇

公債費	土地家屋借入	八二七、三三〇
公債費	修繕費	四七八、五二〇
元金償還	雜費	
利息		
計		
		八一七、三三〇
		四七八、五二〇
		八、一九五、四九〇
		一五、一九五、三四〇

合計金拾六萬參千九百八拾六圓九拾六錢五厘

備考

本表ニ掲クル公債費ハ工事中(据置)ニ係ル借入金利子及年賦償還一ケ年(大正三年度)分元利ニシテ今後年賦償還ニ係ル公債費ハ大正十二年度迄毎年元利償還均等額金壹萬參千八百六拾圓四拾八錢ヲ要スルモノニシテ即チ償還年次表ノ通りナリ

(ロ) 借入金償還年次

四十四年度ニ於テ地方貸付資金ノ供給ヲ受ケタル金四萬圓ニ對スル償還年次表

年次	明治四十四年度		明治四十五年度		明治四十六年度		明治四十七年度		明治四十八年度	
	上半期	下半年期	計	上半期	下半年期	計	上半期	下半年期	計	上半期
償還元金	据置	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
利息	八八三、三三〇	二、二一〇、〇〇〇	二、二一〇、〇〇〇	二、二一〇、〇〇〇	二、二一〇、〇〇〇	二、二一〇、〇〇〇	一、五六七、九六〇	一、六五一、〇六〇	三、三〇二、一〇〇	一、七三八、五七〇
計	八八三、三三〇	二、二一〇、〇〇〇	二、二一〇、〇〇〇	二、二一〇、〇〇〇	二、二一〇、〇〇〇	二、二一〇、〇〇〇	一、〇六〇、〇〇〇	九七六、九〇〇	一、九五三、八〇〇	八八九、三九〇
元利均等償還額	金四萬ニ對スル五ケ月分ノ利息 但利率年五分參厘	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
償還未済額										
元金										
年賦償還金										
計										
元金										
年賦償還金										
計										

大正元年度ニ於テ地方貸付資金ノ供給ヲ受ケタル金四萬五千圓ニ對スル償還年次表

年	次	償還元金	利息 年五分	計	金四萬五千圓ニ對スル六ヶ月分利息 租利率五分參厘
大正元年度	計	四一、四七一、一〇〇	三、七七一、八八〇	二、一九八、〇二〇	五、九一二、九〇〇
大正三年度	上半期	四五、〇〇〇、〇〇〇	一、八五七、四四〇	一、〇九九、〇一〇	二、九五六、四五〇
	下半年期	一、七六三、九五〇	一、八五七、四四〇	一、〇九九、〇一〇	二、九五六、四五〇
大正四年度	計	一、七六三、九五〇	三、五二七、九〇〇	二、三八五、〇〇〇	五、九一二、九〇〇
	計	一、七六三、九五〇	一、八五七、四四〇	一、〇九九、〇一〇	二、九五六、四五〇
大正五年度	上半期	一、九五五、九〇〇	一、八五七、四四〇	一、〇〇〇、五五〇	二、九五六、四五〇
	下半年期	一、九五五、九〇〇	一、八五七、四四〇	一、〇〇〇、五五〇	二、九五六、四五〇
大正六年度	計	三、七、七五七、三二〇	三、七、七五七、三二〇	二、〇〇一、一〇〇	五、九一二、九〇〇
	計	三、八四五、四二〇	二、〇五九、五五〇	八九六、九〇〇	二、九五六、四五〇
大正七年度	上半期	二、一六八、七〇〇	二、〇五九、五五〇	七八七、七五〇	二、九五六、四五〇
	下半年期	二、一六八、七〇〇	二、〇五九、五五〇	七八七、七五〇	二、九五六、四五〇
大正八年度	計	二、九、七二六、三二〇	四、一、一九、一〇〇	一、七九三、八〇〇	五、九一二、九〇〇
	計	二、九、七二六、三二〇	二、一六八、七〇〇	一、五七五、五〇〇	五、九一二、九〇〇
大正八年度	上半期	二、二八三、六五〇	二、二八三、六五〇	六七二、八〇〇	二、九五六、四五〇
	下半年期	二、二八三、六五〇	二、二八三、六五〇	六七二、八〇〇	二、九五六、四五〇
大正八年度	計	二、五、三六八、九二〇	四、五、六七、三〇〇	一、三四五、六〇〇	五、九一二、九〇〇
	計	二、五、三六八、九二〇	二、四〇四、六八〇	五五一、七七〇	二、九五六、四五〇
計		三、七、七五七、三二〇	三、七、七五七、三二〇	二、〇〇一、一〇〇	五、九一二、九〇〇

年	次	償還元金	利息 年五分	計	金四萬五千圓ニ對スル六ヶ月分利息 租利率五分參厘
大正元年度	計	四一、四七一、一〇〇	三、七七一、八八〇	二、一九八、〇二〇	五、九一二、九〇〇
大正三年度	上半期	四五、〇〇〇、〇〇〇	一、八五七、四四〇	一、〇九九、〇一〇	二、九五六、四五〇
	下半年期	一、七六三、九五〇	一、八五七、四四〇	一、〇九九、〇一〇	二、九五六、四五〇
大正四年度	計	一、七六三、九五〇	三、五二七、九〇〇	二、三八五、〇〇〇	五、九一二、九〇〇
	計	一、七六三、九五〇	一、八五七、四四〇	一、〇九九、〇一〇	二、九五六、四五〇
大正五年度	上半期	一、九五五、九〇〇	一、八五七、四四〇	一、〇〇〇、五五〇	二、九五六、四五〇
	下半年期	一、九五五、九〇〇	一、八五七、四四〇	一、〇〇〇、五五〇	二、九五六、四五〇
大正六年度	計	三、七、七五七、三二〇	三、七、七五七、三二〇	二、〇〇一、一〇〇	五、九一二、九〇〇
	計	三、八四五、四二〇	二、〇五九、五五〇	八九六、九〇〇	二、九五六、四五〇
大正七年度	上半期	二、一六八、七〇〇	二、〇五九、五五〇	七八七、七五〇	二、九五六、四五〇
	下半年期	二、一六八、七〇〇	二、〇五九、五五〇	七八七、七五〇	二、九五六、四五〇
大正八年度	計	二、九、七二六、三二〇	四、一、一九、一〇〇	一、七九三、八〇〇	五、九一二、九〇〇
	計	二、九、七二六、三二〇	二、一六八、七〇〇	一、五七五、五〇〇	五、九一二、九〇〇
大正八年度	上半期	二、二八三、六五〇	二、二八三、六五〇	六七二、八〇〇	二、九五六、四五〇
	下半年期	二、二八三、六五〇	二、二八三、六五〇	六七二、八〇〇	二、九五六、四五〇
大正八年度	計	二、五、三六八、九二〇	四、五、六七、三〇〇	一、三四五、六〇〇	五、九一二、九〇〇
	計	二、五、三六八、九二〇	二、四〇四、六八〇	五五一、七七〇	二、九五六、四五〇
計		三、七、七五七、三二〇	三、七、七五七、三二〇	二、〇〇一、一〇〇	五、九一二、九〇〇

大正九年度	計		大正十年度	計		大正十一年度	計		大正十二年度	計		合
	上半期	下半年期		上半期	下半年期		上半期	下半年期		計	計	
計	二〇、八二、六二〇	四、八〇九、三六〇	計	一六、〇二、二六〇	五、〇六四、二六〇	計	一〇、九四八、〇〇〇	五、三三二、六六〇	計	五、六一五、三四〇	四、五〇〇、〇〇〇	四五、〇〇〇、〇〇〇
上半期	二、四〇四、六八〇	五五二、七七〇	上半期	二、五三二、一三〇	四二四、三二〇	上半期	二、六六六、三三〇	二、八〇七、六七〇	上半期	二、八〇七、六七〇	一四八、七八〇	五九、一二九、〇〇〇
下半年期	一、一〇三、五四〇	五、九一二、九〇〇	下半年期	二、五三二、一三〇	四二四、三二〇	下半年期	二、六六六、三三〇	二、八〇七、六七〇	下半年期	二、八〇七、六七〇	一四八、七八〇	五九、一二九、〇〇〇
計	二、五〇六、〇六〇	一一、〇二六、六八〇	計	五、〇六四、二六〇	八四八、六四〇	計	五、三三二、六六〇	五、三三二、六六〇	計	五、六一五、三四〇	一四、一二九、〇〇〇	五九、一二九、〇〇〇
計	二、九五六、四五〇	一六、〇二二、二六〇	計	二、九五六、四五〇	一〇、九四八、〇〇〇	計	二、九五六、四五〇	二、九五六、四五〇	計	二、九五六、四五〇	五、六一五、三四〇	五九、一二九、〇〇〇

大正二年度ニ於テ地方貸付資金ノ供給ヲ受ケタル金貳萬圓ニ對スル償還年次表

大正二年度	計		大正三年度	計		大正四年度	計	
	上半期	下半年期		上半期	下半年期		上半期	下半年期
計	五八〇、〇〇〇	五八〇、〇〇〇	計	二〇、〇〇〇、〇〇〇	計	一八、四六八、三四〇	計	一八、四六八、三四〇
償還元金	五八〇、〇〇〇	五八〇、〇〇〇	償還元金	二〇、〇〇〇、〇〇〇	償還元金	一八、四六八、三四〇	償還元金	一八、四六八、三四〇
利息	五八〇、〇〇〇	五八〇、〇〇〇	利息	一、五三一、六六〇	利息	一、三四五、八三〇	利息	一、三四五、八三〇
元賦償還金	五八〇、〇〇〇	五八〇、〇〇〇	元賦償還金	一、五三一、六六〇	元賦償還金	一、三四五、八三〇	元賦償還金	一、三四五、八三〇
元利均等償還額	一、三四五、八三〇	一、三四五、八三〇	元利均等償還額	一、五三一、六六〇	元利均等償還額	一、三四五、八三〇	元利均等償還額	一、三四五、八三〇
償還未済額	五八〇、〇〇〇	五八〇、〇〇〇	償還未済額	一、五三一、六六〇	償還未済額	一、三四五、八三〇	償還未済額	一、三四五、八三〇
計	五八〇、〇〇〇	五八〇、〇〇〇	計	二〇、〇〇〇、〇〇〇	計	一八、四六八、三四〇	計	一八、四六八、三四〇
計	五八〇、〇〇〇	五八〇、〇〇〇	計	二〇、〇〇〇、〇〇〇	計	一八、四六八、三四〇	計	一八、四六八、三四〇

(八) 純工事費工區別精算

工 區 別	布 設 受 負 工 費	材 料 費	計
第 一 區	一、二八六〇五	二、五二二二七	三、八一〇四二
第 二 區	一、八二五五九	三、七四九八四	五、五七五四三
第 三 區	七、〇〇一四九	一、〇五二七〇七	一、七五二八五六
第 四 區	七、三三七五七	一、二六一三五	一、九九九〇七二
第 五 區	一、二五七一六	一、五六二四二〇	二、八一九九三六
第 六 區	一、五七四〇四五	一、八〇三七一四	三、三七七五五九
第 七 區	三、六〇七二六	九、七〇六六七	一、三三〇七九三
第 八 區	二、九九一三三四	二、七四六一六	五、七三八〇五〇
第 九 區	三、五〇三二八	六、七七〇一八八	一〇、二七三〇六
第 十 區	二、九九五四八三	五、六三二九〇二	八、六二八三八五
第 十 一 區	二、一四五三九	四、一五二五九二	六、二九七七一
第 十 二 區	一、八八五五七	三、〇七二四六	四、九五八二〇三
第 十 三 區	八、八五二二三	一、四〇三六六九	二、二八九六九二
第 十 四 區	五、二〇四七八〇	一、四、九七四二七	二〇、一七九三〇七
第 十 五 區	三、四六九五四〇	四、六〇一一〇	八、〇七六六六〇

各 工 區 別 工 費	合 計
第 六 區	八三〇二五一
第 七 區	六、一四二三〇
第 八 區	二、六九四五七
第 九 區	二、五七二四四
第 十 區	四、七〇八三七
第 十 一 區	五、〇八七〇九
第 十 二 區	四〇、七三八五九
第 十 三 區	一、六七五二七八
第 十 四 區	六、九五四六五八
第 十 五 區	三、六三〇〇〇
第 十 六 區	四、〇九〇三〇
第 十 七 區	二、一三七〇五
第 十 八 區	四、八八二四〇
第 十 九 區	六二、六六五二五
第 十 十 區	一〇三、四〇四七四
第 十 一 區	一、〇七五〇九二
合 計	一〇四、四七九一六六

第六章 工事出來形及雜件

(一) 工事出來形

四寸	土管布設 (各戶取付)	參千七百五拾七間壹分參厘
五寸	同上 (雨水樹取付)	壹千六百參拾間七分六厘
六寸	同上	四千四百五拾八間四分壹厘
七寸	同上	貳千五拾七間五分
八寸	同上	貳千貳百參拾間貳厘
一尺	同上	貳千百拾八間貳分四厘
一尺二寸	同上	九百九拾間四分壹厘
一尺五寸	鐵筋管	壹千百六間參分貳厘
二尺	同上	壹千參百六間六分八厘
三尺	同上	七百九拾壹間壹厘
四尺	卵形渠	百拾四間貳厘

五尺	同上	貳百七拾八間八分四厘
街側溝	同上	貳萬貳千七百六拾四間五分
雨水樹	同上	壹千貳百八拾四個
人孔	同上	五百拾七ヶ所
燈孔	同上	百參ヶ所
吐口	同上	拾九ヶ所
引入	同上	九ヶ所
開渠	同上	壹千七拾貳間八分五厘

(二) 混凝土管出來形并精算單價 (監督費含有)

種類	類	數	量	單	價
鐵筋管	內徑三		一、七五四		三、五九一
同	同 二		三、九三八		一、三六七
同	同 一尺五寸		三、三四一		一、〇二一
鐵筋管枕	三		一、四一〇		二二八

混凝土管、塊、出來形并精算單價表

購入主要材料

種	類	數	量	代	金	平均單價
同	二尺				二、九六六	一〇二
同	一尺五寸				一、九八六	〇七四
雨	第一種				五六六	五六九
同	第二種				八二九	三八四
卵形	蓋石				二、四七六	一、二六〇
同	土塊				三、八二六	一九、八〇七

一三八

(三) 購入主要材料

種	類	數	量	代	金	平均單價
計	〇セメソト		七、一〇五		二、三、三四五、一五〇	三、二八六
直管	〇土管					
同	一尺二寸		一、四九六		一、九三八、六〇〇	一、二九六
同	一尺		五、四二一		三、二〇〇、〇二〇	〇、五九〇
同	八寸		五、九六八		一、八五九、一六〇	〇、三一三

購入主要材料

種	類	數	量	代	金	平均單價
同	七寸		六、〇三五		一、六九二、三六〇	〇、二八〇
同	六寸		一、二、二七二		二、二三二、五六〇	〇、一八二
同	五寸		四、九二三		八〇七、二二〇	〇、一六四
同	四寸		一、四、八六八		一、六六一、六三五	〇、一一二
同	一尺二寸×七寸		一四		一六、九八〇	一、二一三
同	一尺二寸×五寸		一四		一五六、五二〇	一、二六二
同	一尺二寸×四寸		二三四		二七六、八四〇	一、一八三
同	一尺×七寸		二九		三七、七九〇	一、三〇三
同	一尺×五寸		二二五		二〇〇、〇四二	〇、八八九
同	一尺×四寸		七〇一		五五八、四七二	〇、七九七
同	八寸×七寸		二〇		一五、〇〇〇	〇、七五〇
同	八寸×五寸		一七三		九三、一二〇	〇、五三八
同	八寸×四寸		六一二		二九一、一六〇	〇、四七六
同	七寸×七寸		二五		一六、六〇〇	〇、六六四
同	七寸×五寸		一八二		九四、二〇八	〇、五一八
同	七寸×四寸		六〇六		二八七、五八〇	〇、四七五
同	六寸×七寸		一七		七、六五〇	〇、四五〇
同	六寸×五寸		四七五		二一〇、〇〇〇	〇、四四二
同	六寸×四寸		八八三		二七八、二五〇	〇、三一五

一三九